

參考資料

◆将来の文化財保存・活用のためのストーリー

1. 歴史文化特徴を踏まえたストーリーの考え方

ここでは、第4章でまとめた多賀町の歴史文化の特徴を踏まえながら、物語（以下「ストーリー」）を提案する。この「ストーリー」により、文化財をまとまりをもって扱うことで、未指定文化財についても構成要素としての価値づけや、相互に結びついて文化財の多面的な価値・魅力を発見・発信することが可能となる。

多賀町では、歴史文化基本構想において文化財を有形・無形、指定・未指定に関わらず、様々な文化財や自然環境を歴史的・地域的な特色に基づき、一定のまとまりとして「関連文化財群」を提示した。しかし、本計画では、10年という期間を勘案し、将来、「関連文化財群」として活用できる基礎として「ストーリー」を提示するにとどめた。将来、「ストーリー」を利活用することにより、文化財が地域の人々にとって身近に感じられるよう、共通したテーマを基にした視点で設定している。

2. 「ストーリー」の設定方針

「ストーリー」における構成文化財は、指定・登録・選択・選定といった狭義の文化財ではなく、広義に捉えなおし、地域の特色ある自然・風土により培われた歴史や文化等を多角的に網羅した、文化形成の要素という観点で定義している。単体の文化財だけでなく、周辺の自然環境や地勢的特徴、自然景観、都市景観、集落景観、交通網や文化圏の配置、文化財を支える人々の活動に加え、関連する祭礼・生業・食文化をはじめとする生活文化等の行事も構成要素としている。

すでに本計画の第4章でまとめたとおり、多賀町は、取り巻く自然環境と暮らしが不可分に関係し合っており、このことが多賀町の文化の基層を成している。山、山上池、磐座、流水、巨木といった自然物そのものに対する祈りから始まり、そこに社殿が建てられ、神が祀られ、やがて自然の中の神は里に招かれ、さらに地域を護る神として神社が成立した。この信仰を中心として人々の交流が生まれ、ここに多様な文化遺産が生まれた。一方、多賀町を取囲む山が生み出した石灰岩は、それ自体が資源として活用されたことはもちろん、山のもたらす良質の土壌や水は桃原ごぼう、多賀にんじんのような多賀町の特産物、日本酒を生み出した。

自然と多賀町の人々との関係を主軸にキーワードとして、「交流」を念頭に置いている。自然、人、モノの交流により暮らしが生まれ、暮らしの発展の中で祈りが生まれた。その祈りが信仰となり、それらが信仰の遺産としての多種多様な文化財を生んだ。それが現在の多賀町を形作っている。

その点を踏まえながら、テーマ1では自然と人の「交流」を、テーマ2では信仰がもたらした「交流」、テーマ3は「交流」支えた道を取り上げ、多賀大社周辺の町域の中心部から周縁部、古代から現在というように空間的、時間的な広がりを意識した。

そして、テーマに沿ったストーリーを6つ創出し、各ストーリーからは、その内容に関連する文化財を抽出した。

テーマ1 『自然との「交流」がもたらした文化財』

町域の大部分が山林で、人々の生活は自然との交渉のもとに生きてきた。その交渉を「交流」ととらえ、人と自然が織りなすストーリーに歴史遺産・自然遺産を位置づけ、評価した。

ストーリー① 地下資源がもたらした文化財

人の営みの積み重ねによって生み出されたものが歴史遺産であるが、その基層は人の営み以前に形成された自然遺産の大きな影響を受けている。それは自然遺産が形づくる環境や自然遺産がもたらす資源であったりする。それらと人が交渉することにより文化が生まれる。

i) 地球の歴史息づく多賀の地

「天地初めて発けし時、高天の原に成れる神の名は、天之御中主神。次に…」

古事記の冒頭は、まるで地球46億年の歴史を物語るかのように始まっている。

どろどろとした溶岩の塊のような火の星に、やがて水ができ、冷やされ、広大な海ができあがり、陸地が出現し、さまざまな生物が誕生するのである。このような気が遠くなるような地球の胎動の一端が、多賀の山々には残されている。多賀の山々を構成する石灰岩は、約2.8億年前のサンゴ・フズリナ・三葉虫などの海洋生物化石からできている。霊仙山とその周辺の山頂にみられるカレンフェルトやドリーネ・鍾乳洞などの石灰岩地形は、地球の歴史を体感させる。

石灰岩は、山から流れ下る川にも独特の景観を作り出す。芹川は、石灰岩の山を貫き、浸食しており、運搬された石灰岩により幻想的な乳白色の河床を作り出している。周辺に広がる優れた保水力とろ過作用をもつ森林は、澄んだ水を谷へ落とし、乳白色の河床にブルーの水が流れる美しい景観を生み出している。

約7,000万年前に多賀町を含む湖東地域一体は、大規模な火山活動で生まれた湖東カルデラの火口にあった。この時の火砕流が湖東流紋岩を作り出し、多賀町を含む湖東平野に広く分布している。犬上川の大蛇ヶ淵は湖東流紋岩が生みだした景観である。

約400万年前には、伊賀の地に琵琶湖が誕生し、約100万年～40万年前に現在の琵琶湖の位置に落ち着いた。琵琶湖が移動していく旅の途中、多賀町に立ち寄った痕跡が四手地区に広がる古琵琶湖層群に残されている。この頃、大陸に生息していた大型哺乳類などが西日本にわたってきた。伊賀で見つかったミエゾウは、大陸からわたってきたツダンスキーゾウが進化し、多賀町のアケボノゾウは、ミエゾウがさらに日本列島の環境に適応して小型化したものと考えられている。しかし、琵琶湖の移動とともに変遷してきたゾウの仲間は、約3万年前には姿を消してしまう。最後まで生息していたナウマンゾウの化石が多賀で数多く見つかっている。

多賀の地質や自然は、人類が出現する遙か以前の地球の歴史や、地球に生きた生物の姿を具体的に示す稀有な自然遺産として残されている。

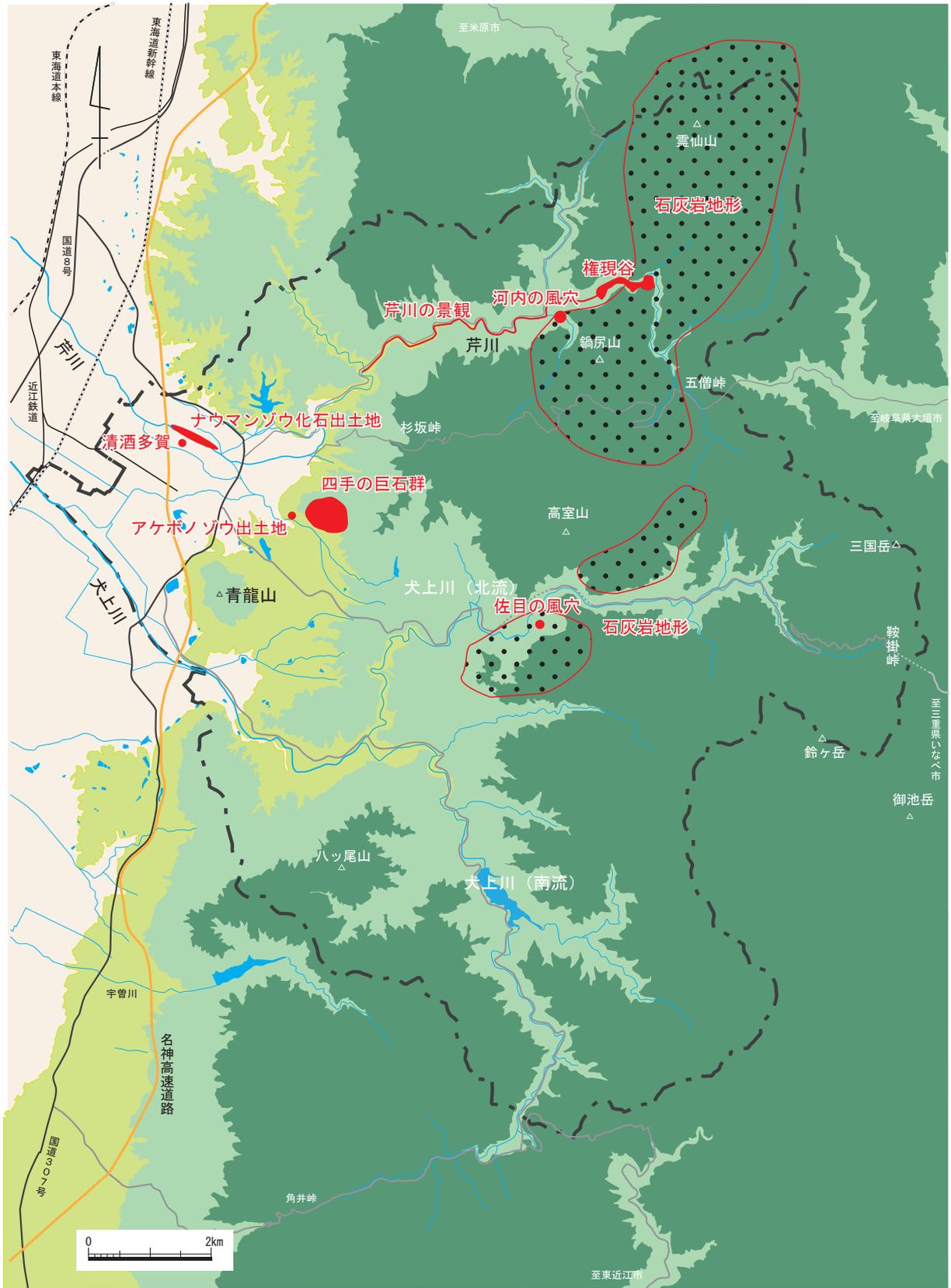


図 11-2 ストーリー① - i 主な構成文化財

ii) 幸を与える多賀の山々 —資源を介した交流

人が誕生し、野を、山を、谷を越え、さまよい歩く中で、生きるための糧となる山の幸と出会った。岩石や鉱物、山々に根付いた木々・森林、そして森に育まれた動植物は、人が暮らすための山の幸として利用された。

多賀町の8割以上を占める山地には、自然の雑木林だけではなく、植林などの人の手によって作られた森も広がり、林業や炭焼きなどの産業も盛んに行われた。人は、自然と交流し、これら森林資源を盛んに利用し、共存していた。山と人との共存関係は、暮らしの場として山間部に営まれた集落にみることができる。今となっては不便と思われる山の暮らしであるが、人が暮らす地を定めるには、その地で暮らしを成り立たせる必然があった。つまり、豊かな山の資源が豊かな暮らしを生み、ここに優れた文化が生み出されたのである。大君ヶ畑地区に残された**木地師伝承**は、間接的に山がもたらした豊かな暮らしを物語っている。

現在、山間地の集落では、**林業**をはじめとして、**桃原ごぼう**などのような、その良質な土壌を生かした野菜も栽培され、その他にも山菜の採取や狩猟によるシカやイノシシなどの捕獲により、都市部では味わえない食材を手に入れることができる。山村における日常が現代においては非日常という大きな価値を生みつつあり、新たな資源として注目されている。

一方、山資源は、山が生み出す生物資源に留まらない。山塊を形成する岩石や豊富な鉱物資源も盛んに利用された。近代になると**亜炭**などの燃料など採取も盛んとなり、鈴鹿の山中にも様々な鉱物資源を採掘する**鉱山**が経営された。多賀町域の山間部では、セメント原料としての**石灰岩**、燃料としての**亜炭**、建築資材としての**湖東流紋岩**、合金の添加物としての**マンガン**が採取され、近代日本の発展を支えてきた。これら鉱物資源は人を山に呼び寄せ、ここに山の文化が形成された。

このように、多賀の自然がもたらした生物や鉱物などの自然資源は、人との交流により利用され、多賀町の発展に寄与することとなった。しかし、化石燃料の利用やより安価な海外資源の利用が進み、自然の恵みとともに営まれていた山間部の集落は、人が暮らし、自然と交流を続ける意味を失い、無住化していった。かつて人は自然と交流し、共存してきたが、近代化とともに意義が変容し、人の暮らしの痕跡は忘れ去られ、元の自然に戻ろうとしている。しかし、自然との交流によって生まれた文化は、生業との関わりは失われたが、自然と共存することが、人の本来の姿であることを語りかける資源として現代的な価値を持ち始めている。このことから、自然との交流によって生まれた文化は、多賀の文化の基層として記録し、継承していく必要がある。

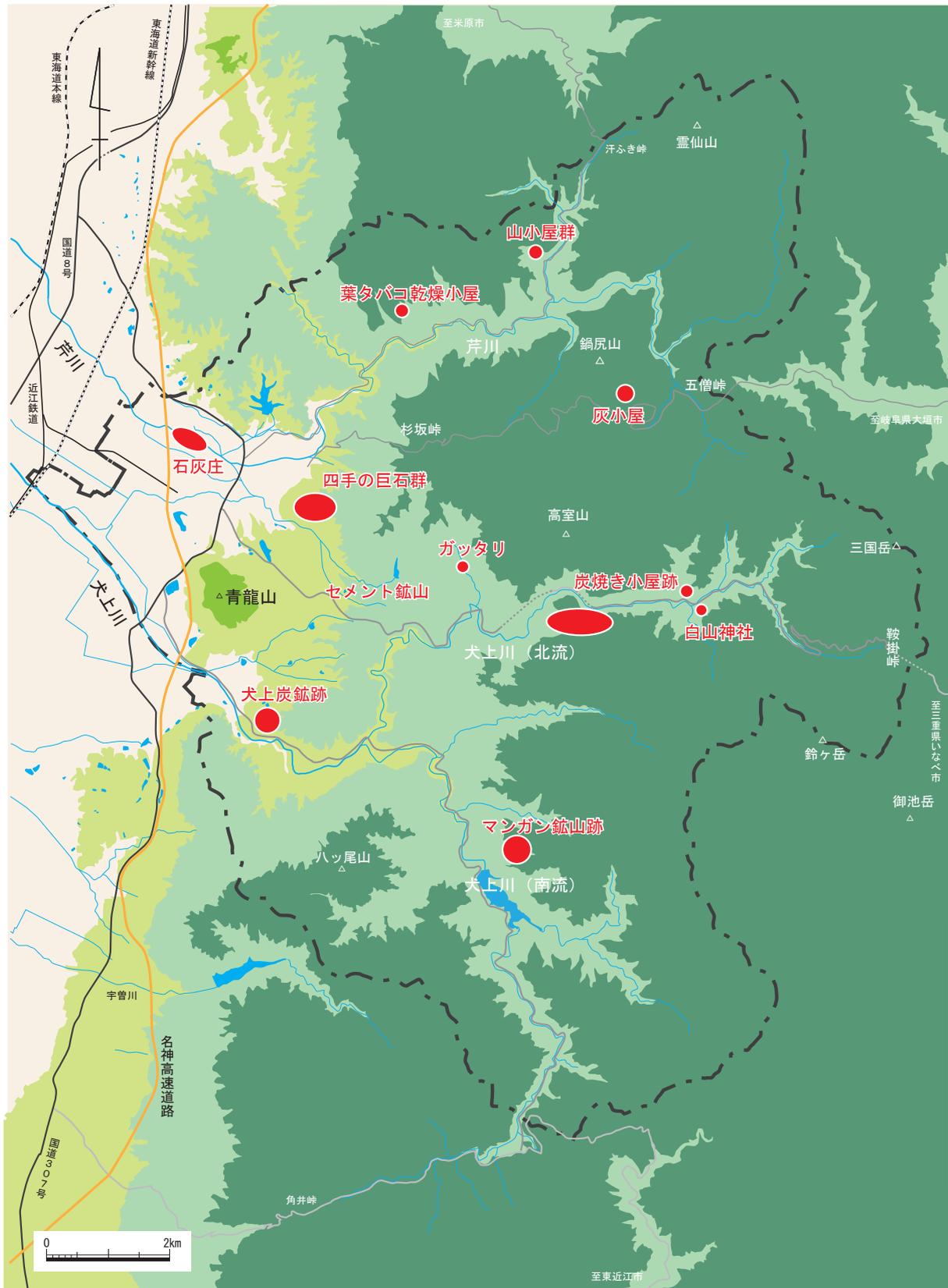


図 11-3 ストーリー① - ii 主な構成文化財

ストーリー② 自然に宿る神—自然との交流から生まれる信仰

人は、自然の中にある大きなモノ、永く時間を経たモノに対して神が宿ると信じてきた。それは磐座であり、長い年月を経て成長した巨木であり、観るものを圧倒する景色であったりする。そして、人はその姿、光景に自然の力の凝縮として神の姿を重ね合わせ、ここに自然の意を得る事への祈りを捧げた。自然と人の「交流」の中に、祈り＝信仰が生まれたのである。

神に出逢い、命を願う—多賀の森に宿る神々

多賀町は、鈴鹿山脈から流れ出る河川と、それに育まれた森という豊かで美しい、深い自然に囲まれている。そして、人々はその自然の中にある巨岩や巨木に神が宿ると信じ、信仰してきた。

その中でも、**青龍山**に対する信仰は、この自然に宿る神に対する信仰の典型的なものである。この地域一帯を見守る青き龍、すなわち水神を祀る神の山として人々からの信仰を集めた。その山頂付近には露出した巨岩があり、古来より神が宿る「**磐座**」として、人々の想いを受け止めてきた。多賀の中心にそびえる青龍山への信仰こそがこの多賀の始まりといえる。

森には**樹齢数百年の巨木**がいくつもみられる。これらは神の依代として物語が残されており、今なお圧倒的な存在感を放っている。このように自然に宿る神々の存在が顕著に感じられ、その神と人の交流の物語が、文化としてこの地に伝えられているのである。

人々はこれらの自然に宿る神に、自然の持つ力を神の意志として受けるため様々な願いを託してきた。例えば、巨木のひとつである**飯盛木**は、かつて元正天皇の病気を平癒させたすぐれた治癒の力をもつという伝承を生み、飯盛木の力が象徴する多賀大社に延命を祈願した。

自然の神は、磐や木だけではなく、山が生み出した水に対しても宿る。それは、青龍山の決して枯れることのない「御池」や芹川の上流域の水源となる水が滴る「**口権現**」などは、命を生み、命を支える「水」に対する信仰として今に伝えられている。多賀大社も、いまでこそ、延命長寿を祈願する神社として知られているが、そのはじまりは芹川がもたらす田畑を潤す水への信仰とかかわりが深いと考えられている。

水に支えられる農業、そして、そこから生まれた農作物が人の命を支える。多賀の水への祈りは、命を継ぐ祈りであり、多賀の祈りの文化の基盤となった。自然に寄り添い生きた人々は、現代に至るまで、その神の依代たる巨大な自然物に対して、さまざまな想いを託してきた。そしてこれからも、神（自然）と人が織りなす物語は、紡がれ続けていくだろう。

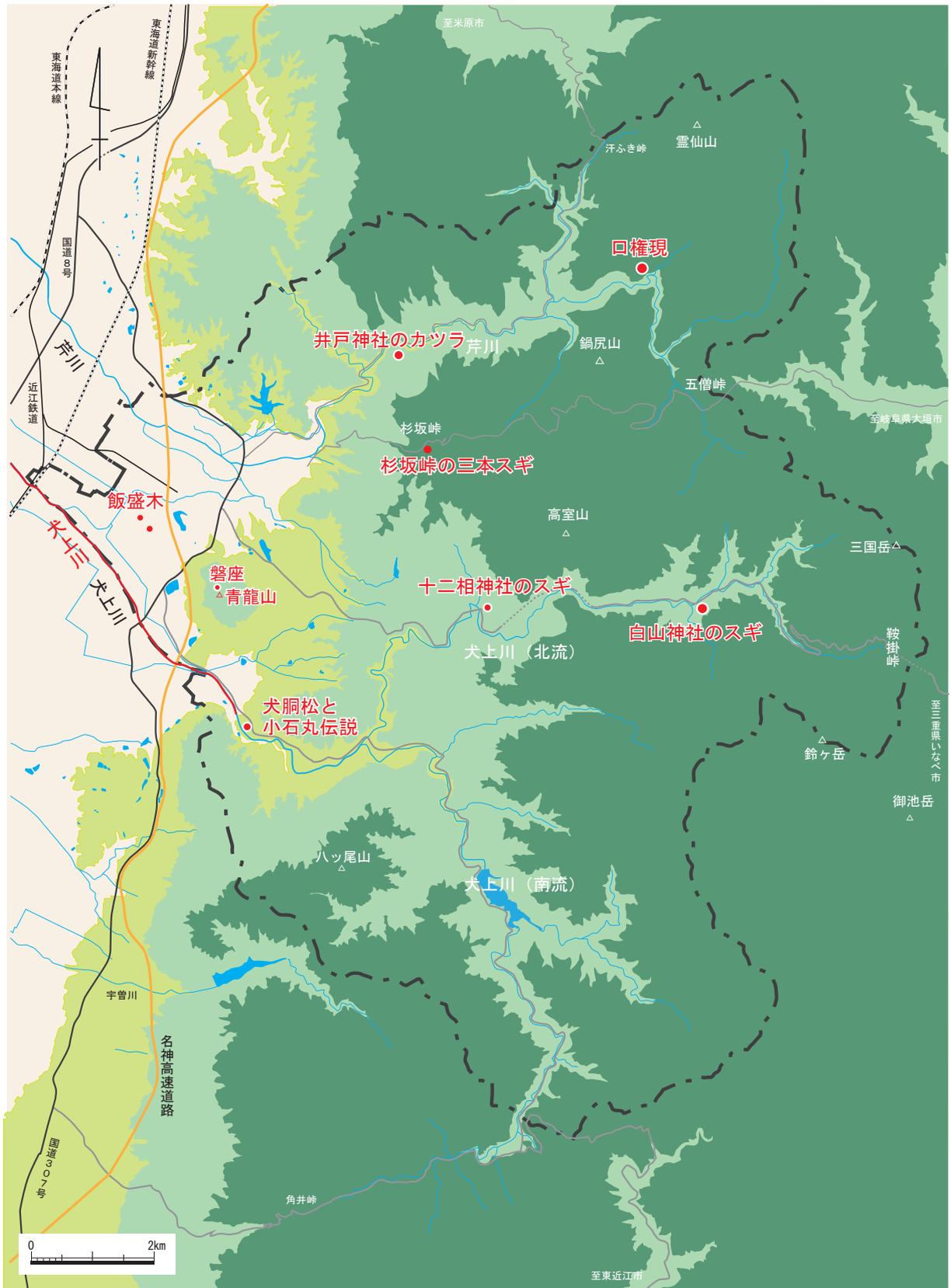


図 11-4 ストーリー② 主な構成文化財

ストーリー③ 扇状地の生活と水の恵み

多賀町の平野部は、犬上川（南流・北流）、芹川によって形成された扇状地である。扇状地は土地の保水力が低いいため、水田耕作を行うためには灌漑水路の整備が不可欠であった。灌漑の水源は、河川はもとより、山から流れ出す谷水を堰き止めた溜池も重要な位置を占める。水がもたらす恩恵とそれを得るための苦労が、水に対する感謝の念を増幅させ、これが祈りへと昇華する。水田耕作という生業の基盤を維持するための水、それを得るために形づくられた景観や文化は人と自然の「交流」が生み出したといえる。

水に祈り、水を拓くー多賀の扇状地を開発する

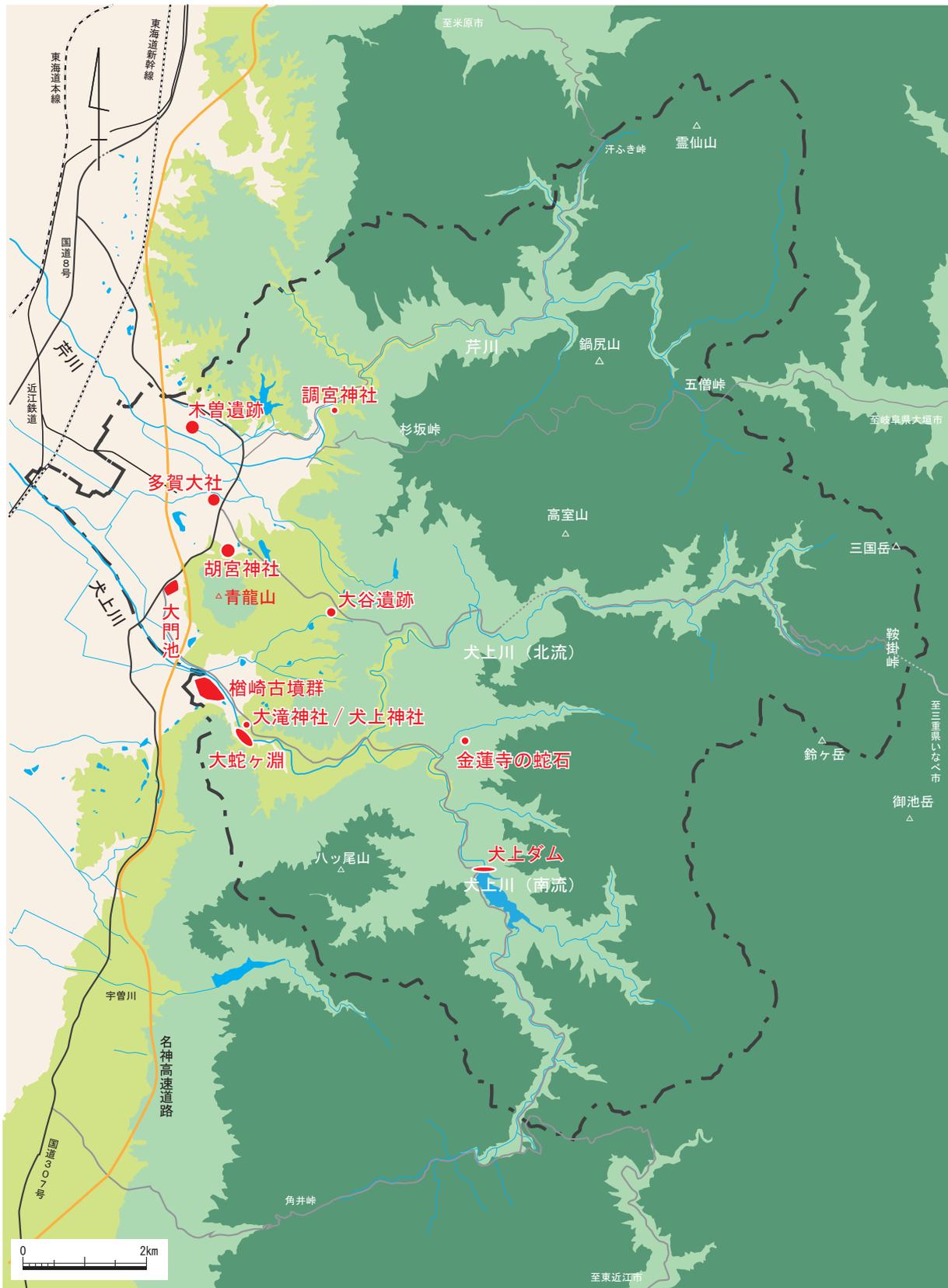
豊かな多賀の大地は、**犬上川（南流・北流）**と**芹川**により形成された扇状地を拓くことで誕生した。犬上川と芹川は、古来より「大蛇」と形容された川である。それは、この河川が人や動植物の生命の源たる「水」を与えてくれる一方で、干ばつや洪水などの水害を引き起こす水神として、人々が敬いながらも畏れてきたことを示している。人々は貴重な水をいかに利するか、ときに祈ることによってそれを克服し、**扇状地**を拓いていった。すなわち、人と水との交流が多賀の発展へと繋がっていったのである。

人々がこの地に本格的に進出するのは、縄文時代にまでさかのぼり、古代には本格的に開発が始まる。古代の扇状地開発の背景にはこの地に拠点を置いた「**犬上氏**」の存在がうかがわれる。遣隋使・遣唐使として中国へわたった犬上御田歙などを輩出した有力氏族として知られており、知識と技術をもって開発に関わったと考えられる。

しかし、扇状地に豊かさをもたらすための水利開発は、大きな困難が伴った。例えば、**大滝神社**に残る「**小石丸伝説**」は、日本武尊の子、稲別依王が愛犬小石丸を犠牲にしながらかつて大蛇と戦った物語である。「大蛇」とは犬上川に他ならない。人智の及ばぬ困難を克服するために、人々は神に祈り、それを乗り越えようとした。

また、河川改修とともに、貯水池の構築による水利開発も行われた。青龍山の西麓に**大門池**と呼ばれる貯水池がある。青龍山から流れ出た水を集めたものと考えられ、地域に水を供給する貴重な水源として知られている。大門池の歴史は奈良時代にまでさかのぼることができ、かつては「**水沼池**」と呼ばれていた。その姿は、天平勝宝3年（751年）に作成された、日本に現存する最古級の地図としても知られる『**近江国水沼村墾田地図**』に描かれている。青龍山と大門池、そして周囲に広がる美しい田園風景は、絵図に描かれた日本で最も古い水利開発の景観である。言うなれば、現代に生きるわたしたちが目にするのできる、人と水との交流を示す“日本でここにしかない景観”なのである。水を生み出す青き龍（青龍山）は、人々の命を満たす神の山として、地域の人々の信仰をより一層に集め、中世において栄華を誇る**敏満寺**の誕生へと繋がっていくのである。

このように、人の力によって、ときに神の力を借りて水を拓いたことが、この広大な扇状地に豊穡をもたらし、多賀の発展へと繋がっていったのである。



参考資料

図 11-5 ストーリー③ 主な構成文化財

テーマ2 『人の「交流」を生み出す文化財』

人・物・情報が多賀大社周辺のエリアに集まり、そこで様々な活動を通して人・物・情報が拡散していった。多賀町は交通の要所として古代から重要な役割を担ってきた地域で、交通路としては文化の終着点であり、出発点でもある。

ストーリー④ 敏満寺と南都の交流

『敏満寺縁起』によれば、敏満寺は敏達天皇が勅願し、聖徳太子が創建したといわれている。この敏満寺の発展の契機は、仏舎利の寄進先に敏満寺が選ばれたことである。平氏によって焼かれた東大寺を再建するために勸進職にあった俊重房重源が、仏舎利を納めた金銅製五輪塔を敏満寺に寄進したのである。これは東大寺との関係の深さを物語っているエピソードであり、これをきっかけに、舎利を中心とした霊場として発展していった。

そこに読み取れるのは、敏満寺と当時の仏教の中心地、南都との「交流」である。この交流が敏満寺の発展を促したのである。

俊重房重源と敏満寺の仏舎利信仰

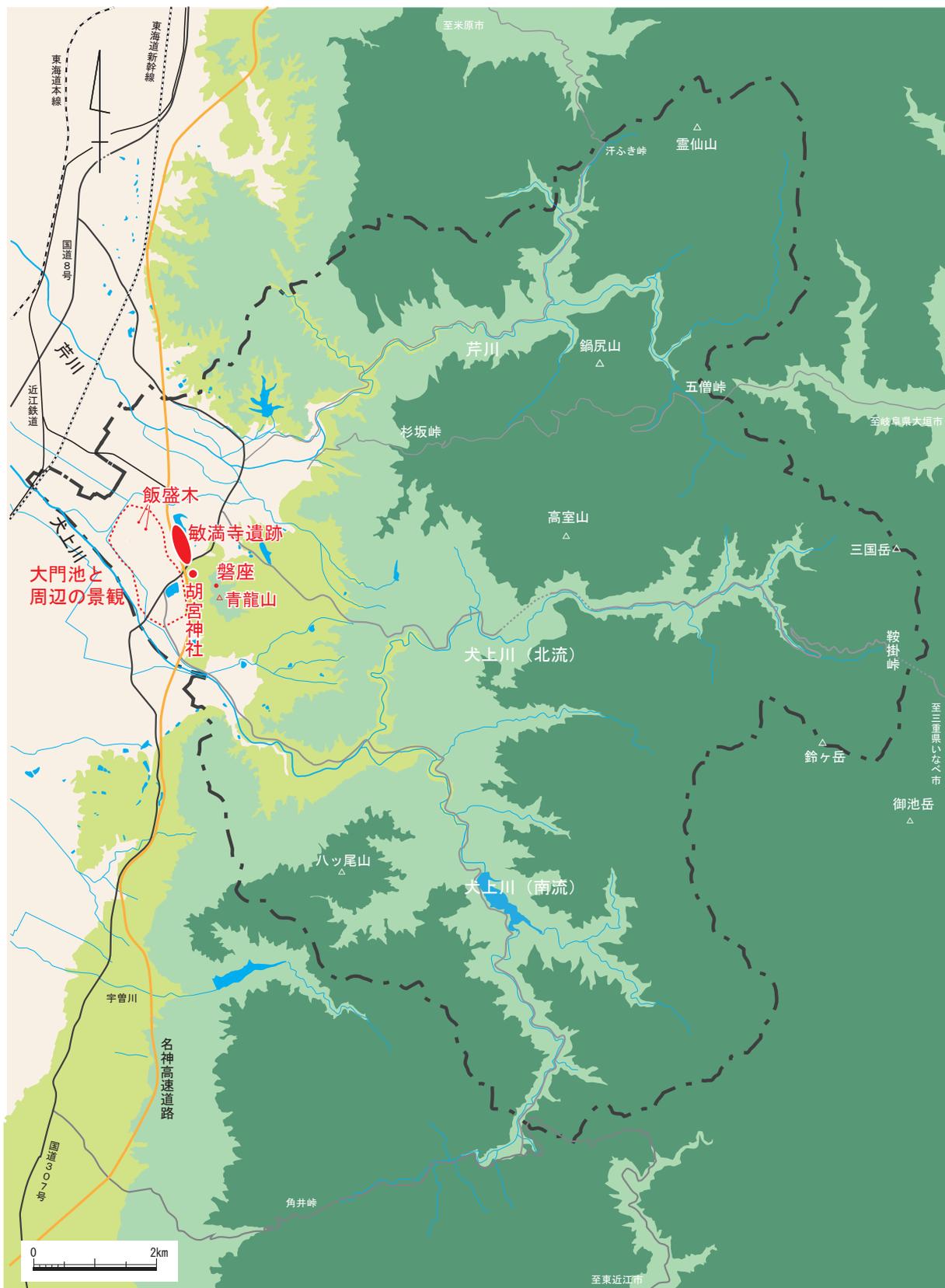
奈良時代に、青龍山の麓は南都の東大寺の荘園、水沼荘として開発された。山麓にあった寺院はミヌマ寺＝敏満寺（ビンマンジ／万葉読みでミヌマジ）と呼ばれていた。

多賀・敏満寺の名が広く知られるようになったのは、鎌倉時代の初め頃で、その原点は、東大寺復興事業を成し遂げた俊乗房重源と重源が奉納した「仏舎利」にある。

南都（奈良）の東大寺は源氏と平氏の抗争に巻き込まれ、灰燼に帰した。重源は、この東大寺復興のための大勸進職として資金と資材を集める大事業を任されたのである。その時の重源の年齢は60歳。何としてでも復興させたい重源は、東大寺とも古くから縁のある敏満寺に事業成就を祈願するとともに、**延命長寿の神**として名高い多賀の神に延命を祈願し、その神徳を得ることができた。20年後、事業を成功させた重源は、そのお礼として敏満寺に「仏舎利」とそれを収めた**金銅製の五輪塔**を奉納したのである。大勸進の成功は、長命長寿を司る神としての多賀の神の名とともに、奉納された仏舎利は、敏満寺の名を広く知らしめるきっかけとなった。以降、敏満寺は舎利信仰の聖地として、新たな舎利の奉納もおこなわれ、多くの人々の信仰を集めるに至った。

このような重源の活躍をきっかけとして多くの人々の帰依を集めた敏満寺はまさに都市というべき様態を示すまで発展した。日本最大級の中世墓地として国の史跡に指定された**石仏谷墓跡**は、敏満寺で活動していた人々が残した遺産であり、巨大都市としての威容と繁栄の様子を見ることができる。

多賀の神仏の加護により長命長寿を得て、困難な事業をなしとげた重源の逸話は、聖地としての多賀の発展を支える根拠となり、さらに様々な伝説が加えられ今に伝わっている。俊乗房重源と関連文化財群は、多賀の歴史文化がもつ普遍的価値を象徴するとともに、高齢化社会を迎えた日本において、人々の生き方に大きな刺激と活力を与えるかけがえのない資源である。



参考資料

図 11-6 ストーリー④ 主な構成文化財

ストーリー⑤ 多賀大社につながる道、そして信仰

聖徳太子の創建の縁起を持つ敏満寺は中世に大いに発展したが、戦国時代以降新興の武家勢力との争いにより力を失っていく。それと入れ替わるように新たに勢力を拡大していくのが多賀大社である。多賀大社は敏満寺が持っていた靈験を引き継ぎ、拡大させていった。そこには新興勢力と上手く結びつき、多賀の神々の持つ靈験を演出する縁起、それを広める坊人の存在があった。それは、信仰に基づいた旅（参詣）の流行もあり、多賀大社のブランディングの上手さは見逃せない。

多賀大社の発展を支えた坊人

江戸時代、聖地多賀の名は広く知られるようになった。それは多賀の歴史文化を多賀大社の発展のために上手く利用した、坊人と呼ばれる人たちの活動による。

敏満寺は天台の影響のもと、^{*}権門勢家の求めに応じて加持祈祷を行っていた。それにより広大な荘園を得て、その経営によって膨大な財を蓄積した。しかし、戦国の世になると状況が変わる。新興の武家勢力にとって、敏満寺が持つ古代的宗教権威とそれに基づく財は格好の餌食であり、その財は武家勢力によって蚕食されていった。最後は浅井長政や織田信長の攻撃により灰燼に帰し、栄華を極めた敏満寺もあえなく滅亡に至った。

消えゆく敏満寺に備わっていた権威や価値、そして聖なるエピソード―縁起―を上手に引き継いだのが**多賀大社**である。特にその求心力拡大に際して主役を演じたのは、室町時代後半から目覚ましい活躍を始めた、多賀大社の**坊人**と呼ばれる人たち―修験系の勸進聖―であった。

坊人たちは、敏満寺に伝わる俊乗房重源にまつわる歴史や伝説を鮮やかに活用し、生命にまつわる**靈地**／**延命長寿**の聖地として多賀大社の神徳を体系化したのである。そして神札を各地に配りながら「**多賀大社参詣曼荼羅図**」を掲げて多賀大社の神徳を説き、参詣の勧誘や造営時の勸進活動に勤しんだのである。また、多賀大社への帰依を促進するために、供物・杓子・延命酒・鯉節・^{するめ}鯛・菓子・薬など、多賀の神の威徳につながる物品も持参し、授与していた。

坊人たちこそが、聖地多賀の原点を作り上げていった人達である。彼らは、織田信長の力も巧みに利用し、ライバルの高野聖たちが諸国徘徊を禁じられる中、自分達の「活動」は以前のように承認するという朱印状を受けていた。その後も、坊人達を統括していた多賀大社不動院は、豊臣秀吉や江戸幕府といった時の権力者の支援を上手に取りつけ、時代の荒波を泳ぎ切った。まさに多賀の求心力を大いに高め、現在につながる「**お多賀参り**」の基礎を作り上げた存在であった。

この活動を支えたものは、延命長寿、健康といういつの時代にも人々が求める普遍的な価値に応えたことによる。人の持つこの切実な願いを受け止め、現代的な答え（利益）を考えていくことが、今後の多賀町の発展のために不可欠な要素となる。

※権門勢家（けんもんせいけい）＝社会的な特権を有した権勢のある家柄

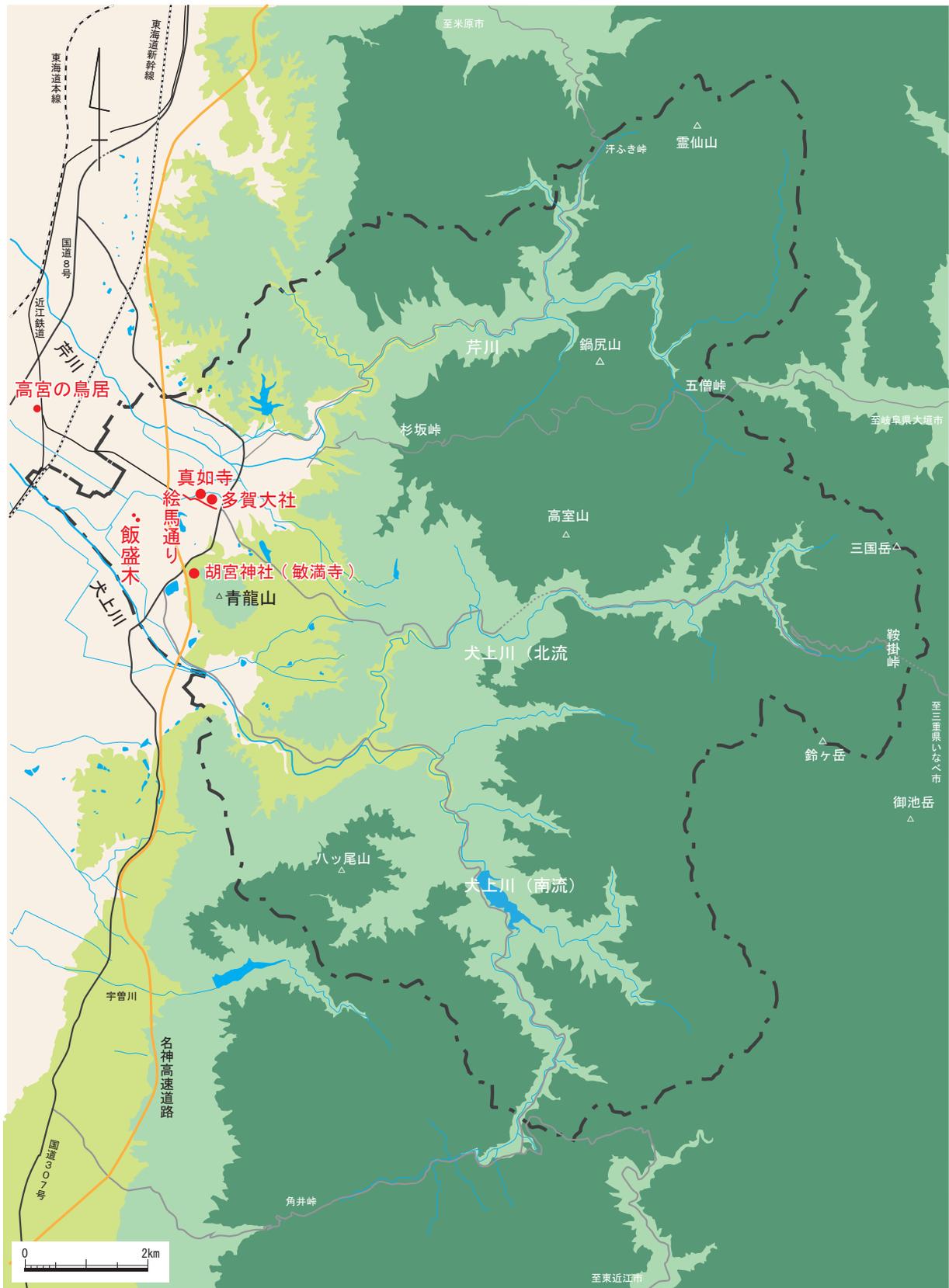


図 11-7 ストーリー⑤ 主な構成文化財

テーマ3 「交流」を道が支えるー自然・人・モノ、そして文化

多賀の道は、多賀大社につながっている。多賀大社が位置する町の中心地から道が始まり、五僧越えや鞍掛越えなどの峠道、東山道（中仙道）、御代参街道、多賀本道などの主要街道につながっている。

「多賀」から始まり、その反対に「多賀」に集まり・終わる道を介した交流が多賀を作ってきた。

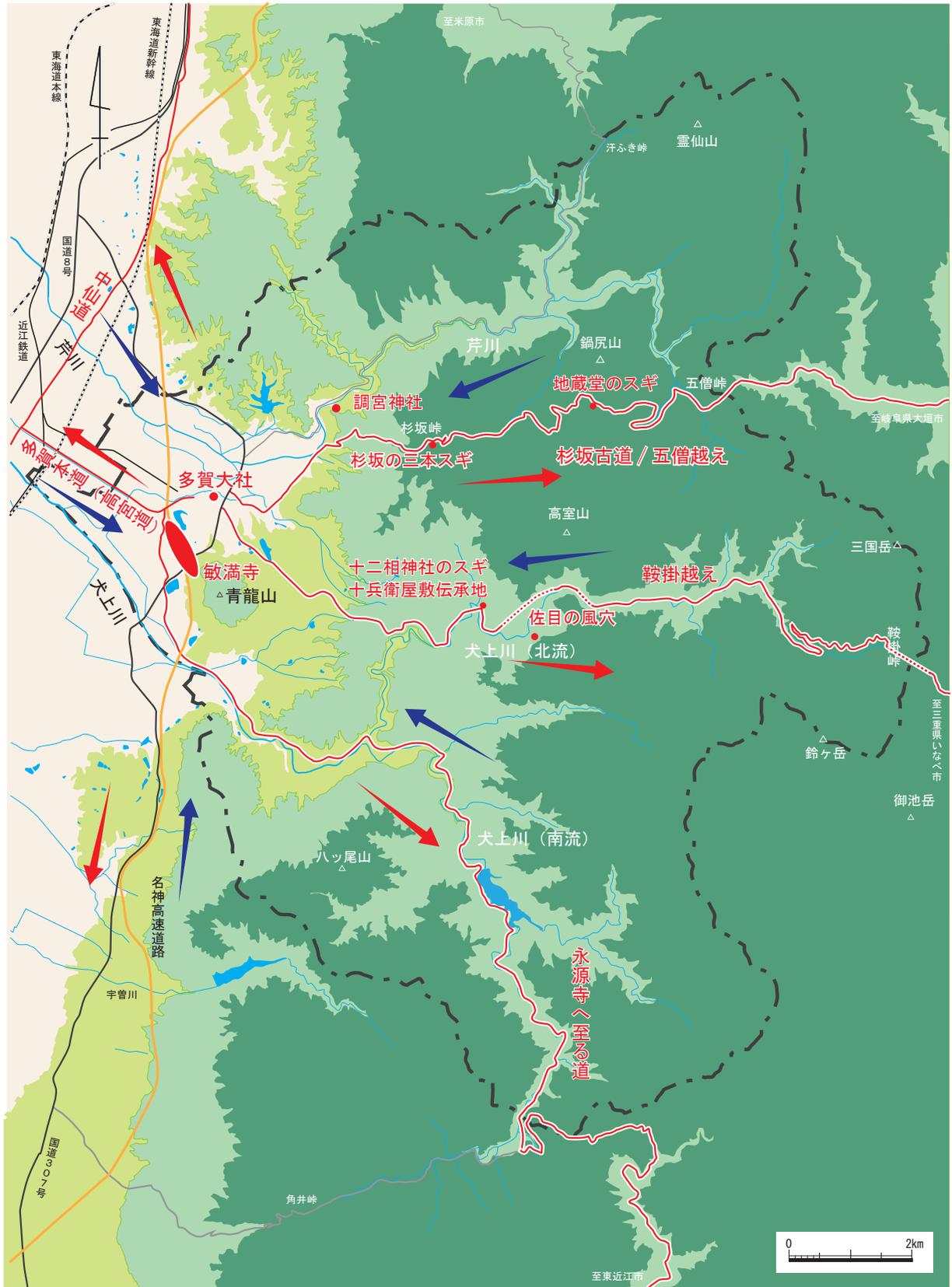
ストーリー⑥ 道が結ぶ多賀ー過去から未来へ

自然がもたらす山の資源を利用するため、山中にも人が住み、集落ができ、その集落と集落を結ぶために道ができた。そして、道を介して自然と交流し、自然との繋がりを得るために祈りが生まれたのである。この祈りは、道を介して里に下り、多賀の外へ向って広がり、外から祈りを求める多くの人を呼び寄せることとなった。ここに祈りを核とした壮大な「交流」が生まれた。道は、多賀の外の世界とつながり、外の世界の文化や人が多賀に出入りする導線の役割を果たした。道は野を越え、山を越え、多賀に集まり、そして多賀の文化とともに放射状に広がっていった。この道を介した「交流」が今の多賀を形作る礎となったのである。

山中の道には、犬上川の北流の谷筋につくられた**鞍掛越え**、芹川左岸のカルスト台地上につくられた**五僧越え**などがある。このような峠越えの道沿いの要所に中世には山城が築かれた。また、平野の道は、官道であった**東山道（中山道）**から分岐して多賀大社に至る**多賀本道**、近世になって伊勢神宮や多賀大社の信仰が盛んになるにしたがって整備された御代参街道がある。古代から中世の南都（奈良）との交流を通じてもたらされた舎利信仰の中心地としての敏満寺、近世の長命・長寿の信仰を広く集めた多賀大社のように、道の終点には信仰の場が生まれ、この信仰を目的に人が行き来した。

そして、現在の多賀には、日本の東西を結ぶ物・人の移動の大動脈である**名神高速道路（東名高速道路）**が通り、西日本最大規模のサービスエリアが設置されている。近い将来スマートインターチェンジの開通が見込まれており、さらに多くの人々を多賀に結ぼうとしている。時は変わっても、人・モノの交流を支える道の役割は変わっていない。歴史を紐解けば「**多賀大社参詣曼荼羅図**」を手に携えて、受け持つ檀那場をめぐり、信者に多賀大社の由緒を説明した坊人により多賀大社の信仰が広まった。そして各地から参拝の人々が訪れたことで近江国の随一の名所となっていたのである。この仏舎利・長命・長寿といった普遍的な価値を持った多賀の祈りの文化は、現代においても色あせることなく、道を介して全国から人を呼び寄せる魅力を有している。

過去から脈々と息づく道を介した「交流」が多賀の文化の特徴であり、交流をもたらす現代の道が、多くの人々を魅了した現代版「多賀大社参詣曼荼羅」の世界を創出する力となるだろう。



参考資料

図 11-8 ストーリー⑥ 主な構成文化財

表 11-1 ストーリーに関わる主な構成文化財の概要

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
1	胡宮神社 銅製五輪塔	国指定重要文化財(工芸品)	③ 鎌倉時代、東大寺総勸進職の俊乗房重源が、東大寺復興に力を貸した敏満寺に奉納したもの。銅製五輪塔の高さは38cmで、五輪塔底部には建久9年(1198年)12月に重源が施入した銘がある。最大の特徴は火輪の形状で、四面の四角錐が通常のものとなるが、本例は三面三角錐となっており、そのため三角五輪塔と呼ばれている。三角五輪塔の事例は極めて稀だが、重源が好んで要所に寄進していた希少例の1つに相当する。 ④ 五輪塔内部には水晶製の舍利容器が納められ、内部に仏舎利2点が内蔵されている。紙本墨書の寄進状も添えられており、〔附、紙本墨書寄進状1巻〕は、国指定重要文化財になっており、「建久九年十二月十九日大和尚」の文字や重源の花押が見出せる。現在は京都国立博物館に寄託されている。 ⑥
2	真如寺 木造阿弥陀如来坐像	国指定重要文化財(彫刻)	③ 真如寺の創建は室町時代末期の天正年間(1573～1591年)で、多賀大社の門前町に開かれたのが始まりとされる。明治時代初頭の神仏分離によって、多賀大社別当寺院である不動院も廃寺に追い込まれ、多くの仏像・仏具が廃棄された際、見かねた人々により真如寺に遷された。 ④ 本像は平安時代のもので、多賀町で最も古い仏像の1つと考えられている。全高は4尺6寸5分(1.42m)をはかる。木造漆箔の坐像で、台座・光背とも寄木造である。台座は八重六遍葺の蓮華で、周囲に千仏と大型化仏十三を付している。神仏習合期に多賀大社の本地仏として造像され、明治以降真如寺に移されたものである。 ⑥
3	多賀大社 紙本金地著色調馬・厩馬図 六曲屏風	国指定重要文化財(絵画)	⑤ 安土桃山時代～江戸時代初期に描かれた屏風で、厩の場面と屋敷前で馬を乗り馴らしている場面の2つが組になっている。 ⑥
4	胡宮神社 社務所庭園	国指定文化財(名勝)	③ 胡宮神社は敏満寺地区、青龍山山麓に所在する。現在の胡宮神社社務所は、かつての敏満寺に存在していた塔頭福寿院に相当する。福寿院は、敏満寺の長吏を代々務めた坊で、戦国期に焼亡した敏満寺の系統を近世に伝えた重要な役割を持つ。 ④ 本庭園は社務所書院の北に位置する。その境内にある社務所庭園は、もとは敏満寺の一院であった福寿院の庭園として作庭された。正確な作庭時期は不明であるが、室町時代の末期から江戸時代の初め頃ともいわれている。青龍山の自然の景観を生かした鑑賞式林泉園で、いつも水の絶えない池や、池中に建てられた亭などで構成されている。池は山際から湧出した水を貯めたものであり、青龍山の水信仰が、山から湧き出る豊富な水を起源とすることをあらためて感じさせるものである。 ⑥ 境内には小野道風筆によるとされる下乗石、鎌倉時代の重厚な石灯籠の蓮弁台座が保存されている。
5	多賀大社庭園	国指定文化財(名勝)	③ 桃山期に築造された蓬萊式庭園である。書院に面した池とこれを取り巻く築山、雅趣豊かな景石と美しい紅葉をはじめとした植栽で構成されている。 ⑤ 書院の廊下から見下ろすような庭は全国的にも希で、西日本では唯一ともいわれる。 ⑥ 池水は芹川の支流である四手川から引き込まれ、境内を流れて下流に広がる水田を潤している。池水に引き込む水路は景石によって丁寧に荘厳されていることなどから、庭園そのものが水の神を祀る祭場であり、聖なるスポットを通過させることで下流に広がる沃野の豊かな稔りを確かにするための場であったことを示している。 天正16年(1588年)、母大政所の病氣治癒を祈願した秀吉が、大政所延命への礼として1万石を寄進し、それをもとに修繕造営されたものの1つだとされている。
6	敏満寺石仏谷墓跡	国指定文化財(史跡)	④ 胡宮神社の南側に隣接する青龍山西麓に、12世紀後半～15世紀に造営された日本最大規模の中世墓地跡で、約1600に達する石仏・石塔が露出していた。 天治2年(1329年)の「敏満寺堂塔鎮守目録」によれば、墓地が形成されたこのエリアはもともと阿弥陀を本尊として死者の極楽浄土への往生を祈願した敏満寺末寺として極楽寺・往生寺・来迎寺・光照寺などが存在していた。その中心は後白河天皇中宮藻壁門院(1209～1233年)の御願寺である西福院で、この西福院奥院に設けられた藻壁門院の供養塔を核とし、敏満寺寺僧の墓所が成立し、これに結縁する形で一般民衆の墓地が広がり、結果として中世最大級の墓地が形成されたものと考えられている。 敏満寺滅亡後は使用されることがなかったため、中世の姿がそのまま残されていることも貴重な価値となっている。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
7	胡宮神社 本殿	県指定有形文化財(建造物)	③ 切妻造の屋根に反りをつけ、正面平の屋根を長くのばして庇とした三間社流造りと呼ばれるものである。屋根は檜皮葺である。擬宝珠に江戸時代寛永15年(1638年)の銘がある。 ④ 元徳3年(1331年)の敏満寺事書きによれば、「木宮兩宮、拜殿九間」と記録されているが、敏満寺全山に対して行われた永禄5年(1562年)の浅井の攻撃や、元龜3年(1572年)の織田の攻撃によって、焼亡していた。 ⑥ 寛永年間、多賀大社不動院大僧正慈性(天台宗青蓮院門跡尊勝院兼帯)の懇願により、幕府の後ろ盾をもって多賀大社ならびにその摂末社の大造営が行われた際、多賀大社一帯の復興・再整備事業の一環として大滝神社などとともに当本殿も造営されたと考えられる。
8	多賀大社 奥書院	県指定有形文化財(建造物)	③ かつて不動院の一部だった建物である。江戸中期の書院様式をとるもので、天明年間(1781～1788年)の建築と言われ、現存建物としては多賀大社で最も古い。桁行14.05m、梁間8.96m、一重、寄棟造、南西および西面庇付、棧瓦葺。
9	大滝神社 本殿	県指定有形文化財(建造物)	② 犬上川沿い、富之尾地区に建立された神社である。創建は不詳であるが、大同2年(807年)に坂上田村麻呂により創建されたともいわれる。本殿は檜皮葺の一間社流造であり、寛永15年に徳川家光によって、多賀大社、胡宮神社とともに再建された。本殿正面の扉・社額などに三つ葉葵の紋が彫り込まれ、擬宝珠には寛永15年(1638年)の銘がある。象頭形の木鼻や花鳥を刻んだ臺股、欄間など江戸初期の様式が現存し、本殿は県指定文化財にも指定されている。 ③ 境内の立地は、犬上川が急激に狭まり、約10mの落差をもって流れ落ちる「大蛇ヶ淵」と呼ばれる激流点に近接する。その景観は、水こそが命の源であることを表すかのような、生命の力強ささえ感じさせる。このような景観に立地することから、当社は俗称「滝の宮」とも呼ばれる。こういった立地と符合するように、祭神は犬上氏の祖である稲依別王、ならびに水を司る高麗神と閻羅神であり、当社は水の恵みによって地域の五穀豊穡が祈願された、まさに流域の人々にとっての命の神であったといえる。
10	多賀大社 紙本著色三十六歌仙 絵(六曲屏風)	県指定有形文化財(絵画)	⑤ 縦55.7cm(一尺八寸)、横35.7cm(一尺二寸)の図を、一曲に三図ずつ貼って六曲一双の屏風に表装したものである。当初、各図は三十六枚の扁額だったとされる。 ⑥ 中務の画面に「奉掛之遠藤喜右衛門尉直経敬白、永禄12年(1569年)十一月吉日」の墨書がある。遠藤喜右衛門尉直経は浅井長政の重臣で、元龜元年(1570年)の姉川の戦いで戦死した。この屏風はその前年に奉納されたものである。
11	多賀大社 梵鐘	県指定有形文化財(工芸品)	⑤ 天文5年(1536年)から永禄6年(1563年)にかけて、室町幕府・佐々木六角氏・浅井氏らの奉賛のもとに大々的な修繕が行われた。梵鐘は天文24年(1555年)に鑄造されており、この大規模修繕に伴って奉納されたものと考えられる。この時代のものでは、5本の指に入る大きさといわれている。 ⑥ 梵鐘には、坊人の勢力と役割を大きく広げた不動院初代住職祐尊の呼びかけにより連名で寄進した近隣の土豪122人の名が残されている。中には浅井長政の幼名猿夜叉の名や佐々木宮内少輔源賢誉(六角義賢)、京極の流れを汲む尼子氏などの名も見られ、敵・味方の利害関係を越えて寄進を取りまとめ、大規模修繕を遂行した坊人たちの手腕を垣間見ることができる。
12	多賀大社 大太刀	県指定有形文化財(工芸品)	⑤ 一口は、銘「多賀大社御劔濃州大野郡清水住人壽命作 寛永十二年(1635年)乙亥二月吉日」(附 金梨子地葵巴紋衛府太刀拵および葵紋蒔絵太刀箱)であり、もう一口は銘「山田宮御劔濃州大野郡清水住岩捲氏信 寛永十二年乙亥二月吉日」(附 金梨子地葵巴紋衛府太刀拵)である。
13	多賀大社 鉄黒漆塗二十八間筋 兜	県指定有形文化財(工芸品)	⑤ 南北朝～室町の作で、平安時代・鎌倉時代前期以前の鉢頭が大きい鉢を使う星兜とは異なり、頭が平らな鉢を使って鉢の鉄板をつなぎ合わせた筋兜である。
14	多賀大社 文書	県指定有形文化財(書跡等)	⑤ 多賀大社に残された大量の文書のうち、鎌倉時代後期～江戸時代の136通である。中でも天文14年(1545年)の武田晴信(信玄)が長寿と文徳武運を祈った願文は、中世後期の多賀大社坊人の幅広い活躍を示している。また、多賀大社の坊人の保護策を打ち出した天正9年(1581年)の織田信長の朱印状なども含まれている。 ⑥ 「附 紙本著色多賀大社境内古図」一幅は、寛永年間(1633～1638年)以後の境内を描いたものと考えられている。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
15	河内の風穴（自然）	県指定文化財 （天然記念物）	① i 河内地区に所在する鍾乳洞で、霊仙山のカルスト地形のひとつである。霊仙山周辺には大小合わせて16か所の風穴が確認されており（1977年時点）、その内の一つである。入口は狭いながら、内部には広大な空間が広がり、鍾乳石が多数みられる。滋賀県側から入った犬が、岐阜県側から出てきたという話もある。
16	多賀大社 そり橋	町指定文化財 （建造物）	⑤ 太閤秀吉が母大政所の病氣平癒のお礼として奉納した米一万石で奥書院・庭園とともに木橋として造営された。現存のものは、不動院慈性が幕府に嘆願した多賀大社一帯の復興・再整備事業の一環として、寛永15年（1638年）に設けられた石造桁橋である。橋脚15基。高欄付き。
17	多賀大社 建造物	町指定文化財 （建造物）	⑤ 明治～昭和初期。本殿1棟（附、透塀1棟 附、棟札1枚）祝詞舎1棟 ⑥ 幣殿1棟（附、東西翼廊2棟 附、棟札2枚）回廊2棟拝殿1棟（附、棟札2枚）拝殿袖回廊2棟 手水舎1棟（附、棟札1枚）神馬舎1棟（附、棟札2枚）表門1棟（附、築地塀2棟 附、棟札1枚）。
18	大日堂（敏満寺区） 天台智者大師像	町指定文化財 （絵画）	④ 天台智者とは天台宗の開祖智顛のことで、538年に中国荊州で生まれた。 ⑥ その没後およそ200年後に中国に留学し、天台山で天台宗を体得した最澄が先師と慕った。本像は、これが描かれた室町期の敏満寺が天台宗に属し、比叡山延暦寺が構築するネットワークの中にあつたことを示唆する資料として価値づけられる。
19	多賀大社 紙本著色多賀大社参詣曼荼羅図	町指定文化財 （絵画）	⑤ 室町時代後半以降、各地の寺社の伽藍復興・維持のための資金を集めるための活動に用いられた絵画史料である。多賀大社では室町時代後期1種、江戸時代寛政年間前後の2種、計3種が残る。最古のものはサントリー美術館所蔵本で、不動院祐尊による天文24年（1555年）の梵鐘鑄造の勸進奉加の関わるものの可能性が指摘されている。残る2枚は天正17年（1589年）の豊臣秀吉による奉加に関わるもの、寛永年間（1633～1638年）の不動院慈性による勸進に関わるものと考えられている。 描かれたテーマは多賀大社を中心とした聖地の案内図だが、描かれた時期ごとに若干の差異があり、多賀大社境内の変遷や胡宮神社の位置づけの変化などが読み解ける資料としても価値を持つ。
20	多賀大社 絹本著色常行念仏堂縁起絵	町指定文化財 （絵画）	⑤ 江戸時代の作。多賀明神にまつわる霊験譚に取材したもので、神仏習合の時代、時宗との関係を示す作品である。
21	多賀大社 奥書院障壁画	町指定文化財 （絵画）	⑤ 安永3年（1774年）に仏間様の建物から改造された不動院奥書院に描かれた障壁画で、富岳・鶴・唐獅子牡丹などが描かれる。
22	大日堂（敏満寺区） 銅造大日如来坐像（附木造大日如来坐像（鞆仏））	町指定文化財 （彫刻）	④ 胡宮神社の裏手に建つ大日堂に所在する。重源の後ろ盾により整備された鎌倉時代初期の敏満寺の造像群として位置づけられる。 ⑥ 当段階に含まれると思われる造像例は前段階より格段に多く、またそれらの完成度も高いことから、銅造大日如来坐像・木造地藏菩薩半跏像・銅造毘沙門天立像などについては、奈良仏師・慶派の介在が想定される。東大寺総勸進職の重源による仏舎利寄進の時期と適合することなどから、敏満寺の成長・展開の背景に重源が介在していたことを示す文化財としても重要な価値を持つ。
23	大日堂（敏満寺区） 銅造毘沙門天立像	町指定文化財 （彫刻）	④ 重源が寄進した五輪塔の金属の成分が近似していることなどから、敏満寺の成長・展開の背景に重源が介在していたことを示す文化財としても重要な価値を持つ。
24	大日堂（敏満寺区） 木造地藏菩薩半跏像	町指定文化財 （彫刻）	④ 上記とほぼ同時期の良品。製作は敏満寺再興が伝えられる12世紀で、県内でも玉眼の使用例において最も早い例の一つである。
25	大日堂（敏満寺区） 木造僧形神像	町指定文化財 （彫刻）	④ 3軀。平安時代～室町時代のもの。古相を示す1軀は、簡素な全体像等から大規模な造像事業の一環として製作されたものとは考えにくく、小堂への安置を目的とした造像だと推察されており、重源に関わる前の敏満寺の様相を示すものとして重要な資料に位置づけられる。同時期の作品として木造聖観音立像も挙げられる。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
26	多賀大社 能面・狂言面	町指定文化財 (彫刻)	⑤ ⑥ 室町～昭和の作品。室町時代、大和、伊勢、摂津などの猿楽の諸座と並び、近江では早くから猿楽の座が存在していた。室町時代の初期の近江には、上三座一長浜の山階座・下坂座、大津坂本の比叡座と、下三座一多賀敏満寺（みまじ）座＝北坂座、蒲生の大森座、甲賀水口の酒人座が存在していた。文正2年（1467年）頃には多賀大社において当座が猿楽を勤めていたことが知られている。これらの面は、室町時代以降、多賀大社で盛んに能・狂言が行われていたことを示す貴重な文化財である。
27	真如寺 懸仏	町指定文化財 (工芸品)	⑤ ⑥ 阿弥陀如来像・観音菩薩像・勢至菩薩像で構成される阿弥陀三尊懸仏である。径61.6cmのもので、鎌倉時代の正安元年（1299年）に製作された。
28	胡宮神社 紙本墨書重源文書勸進書	町指定文化財 (書跡)	④ ⑥ 重源から敏満寺衆徒にあてた書状で、元久2年（1205年）12月17日に書かれたものと推定される。勸進のために敏満寺へ参拝したいが、困難な状況にあるので、東大寺との深い結縁のよしみで、千部法華経の読誦について勸進を乞う、という内容が記されている。
29	胡宮神社 仏舎利相承図	町指定文化財 (書跡)	④ ⑥ 文暦2年（1235年）のものである。後白河法皇が中国から請来した2000粒の仏舎利が、功臣や由緒ある寺院の間で受け継がれた流れを示し、そのうちの3粒が敏満寺に奉納されたことを示すものである。当時における舍利信仰の基盤、由緒を示そうとしたものとして価値づけられる。
30	多賀大社 紙本墨書多賀大社修造勸進状	町指定文化財 (書跡)	④ ⑥ 天文12年（1543年）のものである。社寺堂舎、仏像等の造立修繕の寄付を集める際に、その趣旨と由緒を記している。
31	胡宮神社 紺紙金字大般若波羅蜜多經卷第208 残卷	町指定文化財 (書跡)	④ ⑥ わずか、1巻を伝えるのみであるが、例の少ない紺紙金字経の大般若経として貴重である。
32	胡宮神社 胡宮神社文書	町指定文化財 (書跡)	④ ⑥ 胡宮神社文書398点は、敏満寺が戦国時代に兵火に罹って廃絶したあと、その坊のひとつである福寿院（胡宮神社別当）に伝承していたものである。多賀大社と胡宮神社の位置づけをめぐる訴訟に関する文書がまとまっており、近世の胡宮神社別当福寿院が、敏満寺以来の由緒を守るため、多賀大社に抗い続けたようすが記されている。 保管場所および内容によって16分類されており、『多賀大社叢書』などで紹介された中世文書および近世文書、由緒・旧記類、土地に関する文書、作事・普請関係の文書・記録、道具や仏像など什物の引き渡し、移動に関する文書、神事・仏事関係の文書、講・配札に関する文書、勸進関係の文書、胡宮神社本地仏、あるいは石造聖観音像の開帳および京都靈山や仁和寺、近江櫛野寺などにおける開帳関係の文書、訴訟関係の文書、住職の退院、入院に関するもの、住職の日記、多賀大社とのさまざまなやりとりなどに関する文書、年始や贈答にかかる礼状等の書状類、朝廷・幕府・彦根藩に関する文書、本山・滋賀院に関する書状等、明治政府・滋賀県関係の文書、胡宮神社の牛玉宝印や「多賀胡宮大明神寿命福德祈所」の御札などが含まれている。
33	檜崎古墳 (檜崎1号墳)	町指定文化財 (史跡)	③ 犬上川左岸の檜崎地区に所在する古墳時代後期（6世紀）の円墳で、扇状地の進出にも関わった人物が埋葬されたとも考えられる。現在墳丘、横穴式石室が復元・整備されている。
34	大岡高塚古墳	町指定文化財 (史跡)	① ii ③ 芹川右岸の大岡地区に所在する古墳時代後期（6世紀）の円墳で、直径約25m、高さ約4mを測り、右片袖の横穴式石室を設ける。主に玉類や武器、工具などが副葬されていた。檜崎古墳と同様に、扇状地の進出にも関わった人物が埋葬されたとも考えられる。
35	多賀の飯盛木	町指定文化財 (天然記念物)	② ⑤ ⑥ 県指定文化財（自然記念物）。多賀地区に所在する雌雄2本のケヤキの巨木である。両者ともに樹齢600～1200年を誇り、女木は幹周9.75m、男木は幹周6.32mを測る。かつて元正天皇が病気になった際、強飯を炊き、この木を削りだして作った杓子で召し上がったところ、たちまち平癒したという伝説が残る。その後、「多賀」で作られた杓子は延命長寿を祈願するものとして、多賀町の名産となった。 室町時代末の多賀大社参詣曼荼羅図にもすでに巨木として描かれており、更に古くから聳え立っていたことがうかがえる。遮るもののない水田地帯の真ん中に立っており、遠くからでもその姿を確認することができるが、多賀大社大鳥居から望むと、かつてはその二本の先に敏満寺城の西門、青龍山山頂が一直線上に望めた。
36	アケボノゾウの骨格化石	町指定文化財 (天然記念物)	① i 四手地区で発見された、全国的にも貴重な全身骨格化石である。多賀町立博物館に展示されている。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
37	井戸神社のカツラ	町指定文化財 (天然記念物)	② 県指定文化財(自然記念物)。井戸神社は芹川の上流、向之倉に所在し、多賀大社の末社として知られる。その名の通り水を司る神を祀っている。その社殿の前には県下最大のカツラの巨木がそびえたち、その樹齢は推定 400 年、幹周 11.6 m を測る。根元付近には、小さな池が水をたたえていることから、水を司る神の宿り木として、古来より人々の信仰の対象となってきたとも考えられる。水の神とも形容される「蛇伝説」なども伝わっている。
38	高宮の常夜塔	未指定 (有形文化財： 建造物)	⑤ 文政 11 年(1828 年)に建立され、明治 2 年(1869 年)に修理されたものである。当初は高宮道に所在する多賀大社の一の鳥居東側に建てられていたものと考えられる。明治 2 年の修理時の「再建施主」として 325 名の名が彫られており、近江だけでなく、大阪・京都はもとより、名古屋や岐阜、長野の飯田・松本、山梨、浜松、敦賀、三国湊、金沢、富山、滑川、新潟、東京、横浜などの遠隔地に寄進者の分布が認められる。
39	高源寺本堂 (多賀大社不動院)	未指定 (有形文化財： 建造物)	⑤ 明応 3 年(1494 年)、多賀豊後守高備により多賀大社別当寺不動院として建立される。これをきっかけに多賀大社内の法会の勤行・護摩供などの修法のあり方は変容し、敏満寺筆頭塔頭であった般若院・成就院が多賀大社へ移っていく契機となった。 建立以前の多賀大社では、法衣は本地堂・神護寺の僧が担当し、敏満寺の筆頭塔頭である般若院・成就院が修法を取り仕切る形をとり、社役を勤める時、上記二院は大社内の別坊へ出張する仕組みだったが、建立以後は新規の別当寺不動院が担当し、文亀 3 年(1503 年)には、般若院・成就院が多賀大社の社僧となる基盤となった。 元亀元年(1570 年)、織田の兵火によって敏満寺は完全焼失後、般若院・成就院は大社内に移転し、不動院の配下となり、観音院とともに多賀大社の 4 つの神宮寺となって、多賀の求心力を大きく育んだプロモーター＝坊人たちの本拠地となった。 不動院の建物は、明治時代の神仏分離後、高源寺に本堂ほかの主要建物として遷されている。
40	調宮神社	未指定 (有形文化財： 建造物)	⑤ 多賀大社の奥宮にあたり、古例大祭の御旅所としての役割がある神社である。杉坂山に降臨した多賀の大神が休息した地に創建されたといわれる多賀大社の元宮で、現在も多賀大社の御旅所として、4 月 22 日古例大祭が執り行われ、11 月 15 日の大宮祭には本社のご神幸がある。 本殿は、多賀大社・芹川用水との歴史的関係を示唆するものとして重要であり、本殿裏手には神依る磐座が存在する。指定文化財ではないが、間口一間、奥行一間三尺の間社流造の本殿、間口三間、奥行二間切妻造の拝殿が所在する。
41	犬上神社	未指定(有形 文化財：建造 物)	③ 富之尾地区に所在する大滝神社境内に鎮座する。日本武尊の子である稲依別王を祀り、かつて王と愛犬小石丸が大蛇討伐を行った伝説が残る。
42	八重練・杉坂峠の石 標	未指定(有形 文化財：建造 物)	⑥ 杉坂古道の名残をとどめている道しるべである。
43	大日場 石仏聖観音像	未指定(有形 文化財：美術 工芸品)	④ 国道 307 号線が犬上川に差し掛かる手前 50 m の地点に位置する(敏満寺地区)。この地点は、かつてから大日場と呼ばれ、敏満寺の本尊大日如来ゆかりの場とされている。高さ 1.2 m、幅 0.4 m、厚さ 0.37 m の安山石に刻まれた石仏で、表面には浅く蓮華座と像高 0.92 m の阿弥陀定印(上品上生)の座像が浮き彫りされており、鎌倉時代中期ごろの作と考えられる。
44	大日堂 木造角大師	未指定(有形 文化財：美術 工芸品)	④ 多数の仏像が安置されている。本尊は秘仏である。江戸時代作の木造角大師は類例の少ない造形で、小さいという意外性とあわせ、本堂の魅力を伝える主役に位置づけられる。
45	多賀大社 参詣曼荼羅図	未指定(有形 文化財：美術 工芸品)	⑤ 室町時代後期の戦乱の時代の中にあって、多くの寺社は従来の権力の保護に依存できなくなり、伽藍の維持をはじめとする経済的基盤を坊人などの勧進活動(営業活動)に頼るようになった。この曼荼羅図もまた、坊人たちのプロモーション活動の必須アイテムの一つとして持ち運ばれて各地で広げられ、大社の創立・由来・靈験談・名所案内などを絵解きし、その参詣を多くの人々に勧める上で用いられた。多賀の求心力を高めた敏腕プロモーターたちの活躍の痕跡として、以下の多賀杓子、清酒、赤玉神教丸などとともに重要な文化財といえる。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
46	真如寺 地獄絵図	未指定（有形文化財：美術工芸品）	⑤ ⑥ 人間が生前に行った行為の報いとして、冥土で十王の審判を受け、地獄で罰を受ける有様を描いたもの。江戸時代に描かれたという。描写が細かく、地獄の物語が想像できると評される。11月と5月は本物の掛け軸で地獄絵図を見ることが可能である。
47	安養寺 慈性日記	未指定（有形文化財：美術工芸品）	⑤ ⑥ 慈性は公卿正二位・権大納言日野資勝の次男として文禄2年（1593年）に誕生し、青蓮院の飛地境内である天台宗の古刹尊勝院住持と多賀大社別当不動院を兼務していた。 日記には、徳川政権が発足したばかりの時代背景や、天台宗僧侶たちの活動、そして江戸初期における不動院・多賀大社の動向などが詳細に描かれている点で貴重な資料となっている。日記は、既に両院を兼帯していた慈性22歳の慶長19年（1614年）正月2日より始まり、49歳の年である寛永20年（1643年）に終わる。
48	ガッター（生業）	未指定（民俗文化財）	① ii 谷水の水流を利用した、穀物の精製装置。南後谷地区に復元されている。特大の鹿威しのような構造。山間部のくらしを知る上で大切な施設である。
49	多賀大社 祭礼	未指定（民俗文化財）	③ ⑤ ⑥ 1月3日／翁始式、2月／節分祭、4月22日／古例大祭、6月2日／お田植祭、6月30日／夏越の大祓、8月3～5日／万燈祭、9月9日／古例祭、9月22日／抜穂祭（ぬいぼさい）ほか。 このうち最も重要な古例大祭の起源は不詳だが、現存する最古の記録は文永6年（1269年）の「六波羅下知状」に記されている。その後の記録から、鎌倉時代にはすでに壮麗な例祭が盛大に行われていたと考えられており、その起源は平安時代に遡る可能性もある。現在は毎年4月22日に執行されるが、明治18年に多賀大社が官幣社に昇格するまでは4月の「中の午の日」に開催されていた。大社から調宮神社、都恵神社・寶台河原、国府君神社、尼子御旅所・打籠馬場などをめぐりながら供物を奉獻し、祭礼をおこない、大社に戻ってから「夕日の神事」を斎行する。
50	延年風流近江猿楽多賀座	未指定（民俗文化財）	⑤ ⑥ 「近江猿楽の復興」を掲げ平成5年に多賀町民を中心に結成・復活した有志団体で、多賀大社万燈祭や多賀町ふるさと祭りなどで「多賀大田楽」を上演するなど実績を重ねている。
51	かんこ踊り	未指定（民俗文化財）	③ 犬上川流域地域では昭和の初期に至るまで、多くの干害によって人々は苦しめられてきた。そんな中で、多賀では各所でさまざまな雨乞いの祭りが行われていたことが記録に残っている。そのひとつがかんこ踊りであり、山間部地域を中心にこういった風習が行われていた。特にこの伝統が長く続いたといわれる大君ヶ畑地区では、村人が御池岳へ登り、降雨の歌舞をうちつづけたという。 今ではこの風習はなくなってしまったが、大君ヶ畑地区における「大君ヶ畑かんこ踊り保存会」による記録保存活動が行われた。
52	扇状地の古代遺跡群	未指定（記念物：遺跡）	③ 犬上川扇状地帯では7世紀前半以降、本格的に集落が展開し始める。それはこれまで困難であった扇状地の開発を可能にさせた知識・技術を持ち得たからにちがいない。その中心だったと想定されるのがこの地を拠点に置いた犬上氏だったとも考えられている。 犬上氏は、遣隋使・遣唐使として中国へとわたった犬上御田鎌などを輩出した渡来系氏族で、日本武尊の子、稲依別王の後裔と言われている。当地に伝わる稲依別王の「小石丸伝説」は犬上川における開発の苦難を示したものと考えられており、その後裔である犬上氏もその開発に直接的に関わっていたことは想像に難くない。 当地域における古代遺跡としては尼子南遺跡（甲良町）で発見された古代の東山道や、長畑遺跡（甲良町）では古代の豪族居館などがあり、湖東地域の中心地のひとつとなっていたと推測される。
53	大谷遺跡と犬上氏	未指定（記念物：遺跡）	③ 大谷遺跡は、富之尾地区に所在する平安時代の墓地跡である。発掘調査によって、9世紀中ごろから10世紀中ごろの火葬墓群が発見されている。そのうち複数基から鉄製の板が出土し、これは墓誌または買地券であった可能性が指摘されている。買地券は中国から伝わった埋葬習慣のひとつともいわれている。木炭墓による埋葬、貴重な鉄板の出土などから、地域における有力者の一族墓と考えられ、当地に拠点を置いた犬上氏一族の墓所の可能性が想定されている。犬上氏は、当地における扇状地の開発に関わったとも考えられる渡来系氏族で、遣隋使・遣唐使に参加した犬上御田鎌などを輩出している。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
54	敏満寺遺跡	未指定（記念物：遺跡）	④ ⑥ 敏達天皇の勅願、聖徳太子の創建と伝わる。当初は、青龍山の麓の修験僧が修行する庵として始まり、水沼荘の開発に際して整備されたと考えられる。数度にわたる発掘調査により、12世紀以降に大きく展開し、戦国時代末期に終焉する姿が改めて浮かび上がった。いまは土塁や礎石ならびに地下に埋もれた遺構群を残すのみとなっているが、跡地には名神高速道多賀サービスエリアが設けられており、徒歩で胡宮神社境内や青龍山にもアプローチが可能で、県内外からのアクセスの良さを併せ持つ。字敏満寺には平安～南北朝期に遡る町指定文化財の彫刻・絵画が残されている。
55	敏満寺遺跡商職人地区出土遺物	未指定（その他）	④ 平成6～12年度の発掘調査で出土した遺物。旧裏参道等に沿って街村状に続く商職人の屋敷群が検出された。これらの商職人は敏満寺とその塔頭によって組織された経済活動担っていたと想定される。その都市的機能は14世紀にはじまり、15・16世紀に絶頂期を迎えており、城と館とセットになった城下の整備以前に実施された寺社による整備として注目される。戦国期には2万石を越える所領を有していた敏満寺と、地域の一元的な覇権を目指して台頭してきていた戦国期の武士層とは避けがたい抗争へ展開するが、その抗争により終止符を打たれた地方都市の事例としても重要な価値を持つ。
56	敏満寺遺跡城郭地区出土遺物	未指定（その他）	④ 16世紀半ば、最先端の織豊系の虎口を併せ持つ城郭として整備された地区の出土遺物。当地点は、商職人の居住域、主要伽藍へ続く尾根筋を防衛するために再整備された箇所と相当し、敏満寺滅亡直前の姿を示すものとして重要な価値を持つ。
57	水沼池（大門池）	未指定（記念物）	④ ⑥ 現在の敏満寺地区に大門池とよばれる用水池があり、奈良時代、この池は水沼池と呼ばれ、地域の貴重な水源となっていた。現在東大寺正倉院に保管されている「近江国水沼村墾田地図」（天平勝宝3年（751年））にもこの水沼池は描かれている。水源は、犬上・芹両河川から取水したのではなく、青龍山から流れ出たものを集水したと考えられ、当山への信仰は水とも大きく関わっている。
58	水沼荘	未指定（記念物）	④ ⑥ 東大寺正倉院保管の「近江国水沼村墾田地図」は、天平勝宝3年（751年）に作成されたもので、日本で現存する最も古い地図であり、かつ現存する世界最古の地籍図の一つとも考えられる。この地図に描かれていた古代の水沼池が現在の大門池であり、その池を用いて1200年以上前に開発された地が東大寺領水沼荘である。そこに描かれている「ミヌマ（敏満＝漢字読みでピンマン）」の地は、地図に記録された景観としては日本最古の景観であり、また地籍図として記録された世界最古の景観でもある。世界的に見ても極めて希少な価値をもつ多賀の歴史資産として保全・活用の対象となる。
59	木曾遺跡	未指定（記念物：遺跡）	③ 芹川右岸、木曾地区で発掘された集落遺跡である。古墳時代の竪穴建物や大壁建物が見つかっており、渡来系集団の存在をうかがえる遺跡である。こういった先進的な知識をもった集団が扇状地の開発に関わった事を示す資料である。
60	多賀本道（高宮道）	未指定（記念物）	⑤ ⑥ 起点となる大鳥居は彦根市高宮町に所在する。現存のものは寛永15年（1638年）の社殿造営時に建立されたもので、県内でも古式・最大のものに相当する。明神型と呼ばれる形式で、桁行14.05m、梁間8.96m、一重、寄棟造、南面および西面庇付、棧瓦葺。中山道の高宮宿に位置し、多賀道の起点となる。鳥居の扁額は、青蓮院門跡尊純法親王の筆になるもの。大鳥居の前には参拝できない旅人のために他に例のない「多賀賽銭箱」が設けてある。 多賀大社不動院慈性による胡宮神社・大滝神社なども含めた多賀大社一帯の復興を目的とした幕府支援に基づく寛永年間の再整備事業の一環として、寛永12年（1636年）建立に建立された。
61	佐目の風穴	未指定（記念物）	① i ⑥ 鞍掛越えにある鍾乳洞。犬上川北谷沿いにあり、河内風穴と同じく、霊仙山とその周辺のカルスト地形のひとつである。内部から縄文時代晩期の土器が発見された。キャンプ地的な洞穴遺跡と思われる、鞍掛越えの歴史が縄文時代まで遡る可能性をもっている。
62	杉坂峠 三本スギ	未指定（記念物）	② ⑤ ⑥ 栗栖地区の杉坂峠には、多賀大社のご神木として県内最大級の杉が残る。伝説として、かつて伊邪那岐（いざなぎ）がこの地に降り立ち、この峠を下って栗栖の里に鎮まった。下る道中に、村人から柏の葉に盛られた栗飯を差し出され、喜んで食し、その時に地面にさした箸がやがて現在の御神木になったとするいわれが残り、現在はここで、万灯祭の御神火祭が行われる。県指定自然記念物。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
63	芹川の景観（自然）	未指定（記念物）	① i ① ii 芹川は、鈴鹿山地に端を発し、多賀町河内・栗栖・月ノ木・中川原など、町域の北部を横断する河川である。主流長 16.9 km・流域面積 65.0 km ² の河川である。石灰岩の山を浸食するため、上流域の河床には石灰岩が広がる。澄んだ水と相まって、乳白色の川となって流れ下る。石灰岩の山塊でみられる河川景観ともいえる。
64	マンガン鉱山（資源）	未指定（記念物：遺跡）	① ii 多賀町萱原地区にあった。鈴鹿山脈には、旧永源寺町や土山町内にもマンガン鉱山があった。小規模なこともあり、詳細は分からない。
65	亜炭鉱山（資源）	未指定（記念物：遺跡）	① ii 補助的燃料として、富之尾地区などで亜炭の採掘が行われ、戦時中には彦根方面の工場などに、石炭の補助燃料として出荷されていた。鉱脈が水田下まで及ぶこともあり、崩落や地盤沈下などの被害もあったといわれる。 富之尾では犬上亜炭鉱山（昭和 36 年閉山）が知られる。飯場や事務所などの施設の痕跡は見るともいえないが、山中には坑道が残る。同じく富之尾には富之尾鉱山もあったが、犬上鉱山ほどの規模ではなかった。四手に若林炭鉱があったが、小規模であり、南後谷の人が従事していたようである。
66	芹川用水	未指定（建造物・名勝）	③ ⑤ ⑥ 芹川上流、栗栖地区に所在する調宮神社は、多賀大社の元宮ともいわれており、現在も多賀大社の御旅所として、本社の御神幸がある。芹川上流、栗栖に所在する、当社に近接して、芹川からの用水口が設けられており、ここを取水口として、下流域に広く水が流れ、食物の豊穰へとつながっていく。この地は、神の降臨の地であるとともに、貴重な水源地としての水信仰の地でもあったと考えられる。
67	犬上川	未指定（記念物）	② ③ 町域の南部を横断する河川。鈴鹿山脈より流れ出た北流、南流は川相地区付近で合流する。多賀町・甲良町域に広大な扇状地を形成するとともに、流域地域の貴重な水源地となった。ときに洪水、ときに干害を引き起こす河川のありようを人々は水神＝大蛇とたとえ、信仰の対象とされてきた。流域地域にはさまざまな大蛇伝説が民話として伝えられており、人々の河川に対する畏れ、敬いの想いを読み取ることができる。
68	犬上川ダム	未指定（有形文化財：建造物）	③ 犬上川南谷、萱原地区に所在し、昭和 21 年に建造された日本初の農業用コンクリートダムである。型式は重力式コンクリートダムで、主に灌漑用水、発電のために利用されている。 犬上川扇状地域は、古来より慢性的な水不足に悩まされており、それが当地域に点在する水信仰へと繋がっていった。干害による被害は昭和にまで続き、中でも昭和はじめの早魃時には、犬上川を取水源とする村々による紛争にまで発展する。この完成により、古代から延々とつづいた慢性的な水利の問題はようやく解消されることとなり、現在では水がたたえる美しい町として、農林水産省が認定する日本疎水百選にも選ばれている。
69	犬上川の堰跡	未指定（有形文化財：建造物）	③ 扇状地において水利の問題は流域住民の死活問題である。犬上川流域地域では、江戸時代においても取水を巡って多くの水論が行われてきたことが記録に残っている。そして犬上川の分水のための堰が設けられ、そのひとつが一ノ井の堰と呼ばれていた。現在は、かつて堰が設置された付近に石碑が建てられている。
70	胡宮神社の御池	未指定（記念物）	③ 胡宮神社は多賀大社と同じく伊邪那岐命、伊邪那美命の二柱を祭神としているが、かつては水を司る高禰神が祀られ、雨乞いの祈禱も行われたともいわれている。さらに、当社における信仰の起源は、神体山である青龍山頂上に所在する巨石群（磐座）と考えられており、多賀町域における信仰の起源になったともいわれる。その境内奥地には御池と呼ばれる決して枯れることのない聖池があり、青龍山の参拝者はここで心身を清めた。麓には奈良時代に構築された水沼池（現在の大門池）があり、青龍山から流れ出た水が集水されたものと考えられる。この地に社が建てられたのも、山麗の人々に水を恵む神聖な山として崇められたからと考えられる。
71	口権現	未指定（記念物）	③ 芹川上流、河内地区の炭原集落の奥地に所在する権現谷へと通ずる入口である。とてつもなく大きな巨石やスギの巨木の前に鳥居が立ち、これらの巨大な自然物が神として崇められていたのだろう。この付近から、湧水が発し、芹川へと繋がっていく。人々に潤いを与える河川の、大元となる水源の神として人々から信仰を集めていたと考えられる。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容
72	青龍山	未指定 (記念物)	③ ④ 犬上川右岸敏満寺地区付近にそびえる山で、標高 333 m を測る。その名のごとく、青き龍=水の神を祀る神体山として流域地域の人々の信仰を集めたと考えられる。山麓に建立された胡宮神社、さらにかつて当地で栄華を誇った敏満寺も青龍山への信仰が深かった。その西麓に位置する水沼池はこの山から流れ出したものを集水したと考えられ、奈良時代に当地に存在した水沼荘など、地域の貴重な水源となった。この水信仰が起点となり、中世敏満寺が多くの人々の信仰を集めていくことになる。ここ多賀町を聖地たらしめた原点となる地である。
73	青龍山の磐座	未指定 (記念物)	② ③ ④ 胡宮神社の奥地、青龍山の頂上付近に所在する巨石群。この巨大な自然物に神が降臨し、多賀の信仰がはじまったとされる。周囲には枯れることのない御池などもあり、この地で命の源たる水を求めた人々が水神として崇めたと考えられる。その後、水神の石柱である高麗神を祀る胡宮神社が建立された。奈良時代、山麓に構築された貴重な水源のひとつ、水沼池の水源となったと考えられる。
74	大蛇ヶ淵	未指定 (記念物)	① ③ ⑤ 犬上川上流、富之尾地区に所在する犬上川の最大の激流地点。かつて邪悪な大蛇が棲みついていたといわれ、犬上君の祖ともいわれる日本武尊の子、稲依別王と愛犬小石丸によって退治されたという伝説が残る。その討伐の際に、不幸にも王によって小石丸の首がはねられてしまうが、その首が王を狙っていた大蛇に噛みつき、そのまま犬上川へと落ちていったという。この伝説は、河川開発には多くの犠牲が伴うという人々の想いが込められたものとも言われている。
75	金蓮寺 蛇石	未指定 (記念物)	③ 金蓮寺は、犬上川南谷の大杉地区に所在する。浄土真宗本願寺派の寺院である。寺には「蛇石」と呼ばれる大小あわせて二つの石があり、これを磨くと雨が降ると言い伝えられてきた。かつてはこの大杉地区においても雨乞いの舞「かんこ踊り」の風習があったと言われており、干害に苦しめられてきた人々が神へと祈った習慣が、山間部地域にも伝えられてきたのである。なお、大杉地区は、犬上川南谷へとそそぐ大杉川沿いに立地する集落で、石積みにより構築された古くからの景観が残っている。
76	権現谷の海洋生物化石群(自然)	未指定 (記念物)	① i 霊仙山東麓の、多賀町河内・大君ヶ畑地区を貫く谷である。林道権現谷線が整備され、河内地区と大君ヶ畑地区(国道 306 号)と接続する。狭小な道ではあるが、自動車でも通行可能である。アサハギ谷出合から北側は、断崖絶壁が迫る景色をみられる。三重県側からの古道である五僧越えのアサハギ谷出合より北側と、途中の白谷付近が化石産地として知られる。フズリナ・サンゴ・三葉虫など、石灰岩のもととなる海洋生物化石産地である。古生代にあったテーチス海に堆積した海洋生物化石で、古生層と呼ぶ。テーチス海は、日本列島付近から中国大陸の南を西へ延び、地中海まで達していた。鈴鹿山地にみられる古生層は、伊吹山北方の横山岳から綿向山付近までの、60 km の範囲に分布する。
77	四手の巨石群(自然)	未指定 (記念物)	① ii 多賀町四手地区と背後の山麓に点在する、湖東流紋岩類の巨石群。集落入口には「四手の巨石めぐり」と示された案内看板がある。 湖東流紋岩類の岩石は、東近江市永源寺町紅葉尾付近を火口とする火山活動の噴出物からなり、溶結凝灰岩に分類される。湖東流紋岩類は、湖東地域に分布し、安土城の石垣や、古墳の横穴式石室などに利用された。
78	白山神社の大杉	未指定 (記念物)	② 白山神社は犬上川北谷、大君ヶ畑地区に所在する。伊弉諾神、白山権現など四柱を祭神とする。江戸時代に編纂された『淡海木間撰』には木地師の祖として知られる惟孝親王がここ大君ヶ畑に在住したとの記述が残る。さらに当社には親王が作成したと伝えられる高坏、木椀が残されているという。そしてその境内には、巨大な二本の大杉がそびえたつ。この壮大な景観を前に、惟喬親王は木地師としての本能が騒いだのかもしれない。
79	犬上神社 犬胴松と小石丸伝説	犬胴松：未指定 (記念物・伝承)	③ ⑤ 富之尾地区の大滝神社境内にある犬上神社に伝わる「小石丸伝説」では、稲依別王と愛犬小石丸による大蛇退治が物語られている。大蛇は水神の象徴である一方で天災をももたらす悪という 2 面性を表し愛犬小石丸を犠牲にしながらも、この地に巣食う大蛇を討伐した神話は、犬上川の水利開発には大きな苦難と犠牲を伴ったことを物語っている。小石丸の胴を埋めた場所には松の木を植え、小石丸の勇敢さを後世に伝えたという。なお、小石丸の首は犬上川最大の激流点である大蛇ヶ淵の対岸の小さな祠に祀られたと伝わる。

※○番号はストーリー番号

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容	
80	十二相神社 スギ	未指定 (記念物)	③ ⑥	十二相神社は犬上川北谷、佐目地区に所在する。大滝神社の境外摂社で、少彦名命を祭神とする。本殿には12の灯りが祀られている。そしてその本殿を囲むように巨大な4本のスギの木が立ち並んでおり、それらの樹齢は推定500年、幹周は6.4mを測る。静かな社殿のたたずまいと、それを覆うような巨木たちが織りなす景観は、厳かな雰囲気醸し出している。江戸時代の文献『淡海温故録』には、この近辺に明智十兵衛が所在したとの記述があり、近年地域住民が主体となり十兵衛屋敷の整備が進められている。
81	石灰岩鉱山(資源)	未指定 (記念物)	① ii	佐目・後谷地区などには石灰岩鉱山があった。山地が石灰岩のため、採掘が盛んに行われた。後谷地区(廃村)からは、住友鉱業多賀鉱山跡(昭和40年閉山)の建物を眺望できる。佐目の風穴へのアクセスの途中には、滋賀産の多賀鉱山がある。資源採掘の歴史は、山間地に位置する多賀町にとって無視できないことである。
82	霊仙山と近江カルスト(自然)	未指定 (記念物)	① i	多賀町霊仙を中心に、河内・佐目などの山頂にみられるカルスト地形で、近江カルストと呼ばれる。四国や秋吉台よりも規模は小さいが、多くの登山者が訪れる。霊仙山および経塚山・高室山の山頂に、ドリーネやカレンフェルトと呼ばれる、石灰岩地帯特有の地形が広がっている。霊仙山頂の、雨乞い信仰の場でもあるお虎ヶ池は、ドリーネに水が溜まったものと考えられている。
83	胡宮神社 石造聖観音立像	未指定(伝承)	④ ⑥	胡宮神社社務所に隣接する観音堂の本尊で、鎌倉時代中期の作と考えられる。観音堂は三間四方で、その内陣の逗子内に祀られている。楊子観音とも呼ばれ、高さ2m、最大幅0.8m、厚さ0.4～0.5mの安山岩自然石に、像高1.68mの聖観音像を線刻する。聖徳太子が諸国巡回の時、ここで奇石をみて、石造の聖観音を自作したという言い伝えがある。
84	地藏堂の大スギ	未指定(伝承・記念物)	⑥	五僧越えの途中、地藏峠にある地藏堂に大スギは、本国に無事に帰れた島津氏が、感謝の意を込めて植樹したものと伝わる。
85	鞍掛越え	未指定 (その他)	⑥	鞍掛越えは多賀と三重県いなべ市を結ぶ山越え古道で、三重県側からの多賀大社への参拝道としても使われ続けてきた。現在の国道306号と重複する箇所が多い。峠の由来は木地師の祖といわれる惟喬親王が峠で馬の鞍を外して休んだこととされる。鞍掛越え沿いには佐目・大君ヶ畑地区などの集落が営まれ、各々が山地資源を用いた生業によって成り立ってきた。中でも鞍掛越えの中心的集落である大君ヶ畑地区は、木地師の文化を継承し、宿場的な役割も担ってきた集落である。
86	永源寺経由三重県へ至る道	未指定 (その他)	⑥	犬上川南谷に行くルートで、八風街道に繋がり、石樽峠を越えて三重県につながる。現県道34号。百済寺からの大峠越えが尾根上に行くのに対し、犬上川南流の谷筋をいくルートである。
87	五僧越え(島津越え)	未指定 (その他)	⑥	五僧越えは多賀町と岐阜県大垣市(旧上石津町)を結ぶルートで杉坂古道とも呼ばれ、関ヶ原合戦時、敵陣突破した島津軍が通った道として知られる。道中には、東から、五僧・保月・杉の集落があり、岐阜県側の時山と多賀を結ぶ重要な交易ルートであった。「五僧」の名は、西方(岐阜県側)より来る5人の僧が住んだことに由来している。
88	炭焼き小屋跡・灰小屋(生業)	未指定 (その他)	① ii	かつて盛んであった製炭の名残。山の森林資源の利用の様子を残している。
89	林業関連施設(資源)	未指定 (その他)	① ii	霊仙・河内・大君ヶ畑地区などの山中には、多くの林道が整備されていた。県道から外れた林道沿いや、林道の支線沿いなどに炭焼き小屋が残る。河内地区から、現在は廃村となった落合地区への県道沿いなどに、山作業小屋をみることができる。いずれも際立って立派な建物ではないが、人々が山とともに生きてきた証である。権現谷林道をはじめとして、多くの林道が多賀の山中に造られた。さらに山中には、小規模な谷川を跨ぐ橋などがあり、これらは切出し用の作業道とみられる。
90	十兵衛屋敷伝承地	未指定 (伝承)	② ⑥	佐目地区は、「淡海温故録」によると、光秀の2～3代前が主君の土岐成頼に背いて美濃を離れ、六角高頼を頼って多賀町佐目に移住したとの明智光秀の出生地伝説がある。
91	土田の石灰庄	未指定 (その他)	① ii	多賀町土田地区にあったといわれる。町域に豊富にある石灰岩により、古来から石灰の産地として知られていた。平安時代には土田付近に石灰庄があったといわれ、後に「本山石灰」と呼ばれるようになり、公家衆への御用達ともなった。江戸時代には「ひろい石」と呼ばれる石灰岩を拾い集めて売りに行くという風習が広まり、多くの民衆は年貢の足しにしたという。この風習は明治以降まで続く。

※○番号はストーリー番号

参 考 資 料

No.	構成文化財	指定	関連ストーリーと内容	
92	多賀の農産物と狩猟動物(生業)	未指定(その他)	① ii	多賀ニンジン・多賀ソバ・桃原ごぼうなど、近代以降に作られ始めた。多賀の土壌に馴染み根付いた地域の農産物である。豊かな森林にはシカ・イノシシなども生息し、害獣として駆除される一方、食材としても利用されている。
93	お多賀杓子	未指定(その他)	⑤ ⑥	多賀杓子伝説として、元正天皇の病気に際し、多賀大社の神主が強飯を炊き、しでの木で作った杓子を献上したところ、天皇の病がたちまち治癒したという逸話が残されており、その際の杓子は「お多賀杓子」として今に伝わり、そのしでの木は現存する飯盛木だとされる。坊人たちが各地で繰り広げた営業活動において、お札などととも無病長寿の縁起物の土産として家々に配り歩き、多賀大社の宣伝に用いたものとして重要である。
94	絵馬通り	未指定(その他)	⑤ ⑥	多賀大社表参道であり、多賀の名物としては糸切餅、千代結び、多賀そば、鍋焼うどん、地酒「多賀」、あられ、お多賀杓子などの販売店が並ぶ。当エリアには登録文化財が2件あり、うち1件は明治10年に建築された木造2階一階建・瓦葺の建造物「かぎ楼」がある(大正期増築)。もう1件は「かめや旅館」で、かめや旅館木造2階建、瓦葺の本館1棟(大正13年)と木造平屋建、瓦葺の広間1棟(昭和8年)が登録されている。
95	糸切餅	未指定(その他)	⑤ ⑥	刃物を用いず三味線糸で餅を切ることからこの名がつけられている。餅の表面に配された青2本、赤1本の筋は、文永・弘安の役の際、元軍の退散を祈願したお札にと敵船の一部が多賀大社に奉納されたが、この元軍の船印を模したものとされている。、蒙古襲来を撃退したのを記念して、天保年間(1830～1840)に北国屋市兵衛が考案したとの説がある。
96	清酒	未指定(その他)	⑤ ⑥	坊人たちが「延命酒」として呼んでいたものは、彼らの営業活動において縁起物の土産として配布されていた。
97	赤玉神教丸	未指定(その他)	⑤ ⑥	腹痛、食傷、下痢止めの薬として多賀神社の神教によって調製したことが始まりといわれ、坊人が多賀参詣の勧誘に際し、縁起物の土産とともに神薬として配り歩いた。
98	俗謡	未指定(その他)	⑤ ⑥	「お伊勢参らばお多賀へ参れ、お伊勢お多賀の子でござる」は、『古事記』などに伝わるように、多賀大社の祭神は、伊勢神宮の祭神である天照大神を生んだ伊邪那岐・伊邪那美であることから生まれた俗謡で、「お伊勢参ればお多賀へ参れ」・「伊勢へ七たび、熊野へ三たび、お多賀さまへは月まいり」は多賀大社の宣伝・参詣誘致に用いられた。
99	虫くい折れ柏紋・長寿石	未指定(その他)	⑤ ⑥	敏満寺を舞台にエピソードを残した重源の伝承は、おそらく坊人たちのプロモーション活動の中で多賀大社に取り込まれ、信仰に生かされたと考えられる。重源の延命長寿祈願に由来する「虫くい折れ柏紋」は多賀大社の神紋として残り、「寿命石」は延命を祈る人々の信仰の対象となっている。いずれも多賀ならではの歴史文化の魅力を伝える象徴としての価値が見出せる。
100	白山神社(信仰)	未指定(伝承)	① ii ⑥	木地師の集落とされる大君ヶ畑地区に所在する神社。木地師の祖・惟喬親王作の椀があるとされる。
101	葉タバコ乾燥小屋(生業)	未指定(その他)	① ii	戦後、桃原地区の辺りでは葉タバコの栽培が行われていた。その際に葉を乾燥させる倉庫跡である。
102	霊仙七カ寺	未指定(伝承)	① ii	霊仙山は多賀町、米原市にまたがり、鈴鹿山脈の最北に位置する山。標高は1094mを測り、東は岐阜県大垣市、不破郡関ヶ原町に属する。奈良時代、霊仙山麓に興福寺の僧である宣教大師が7つの寺院を建立したとする伝説が残る。そのうち観音寺、安養寺、大杉寺の3つが多賀町域に所在したといわれている。現在の米原市所在する松尾寺はそのひとつともいわれているが、伝承以外にその痕跡を記すものはなく、幻の寺院ともいわれる。その伝承として、白鳳元年(672年)と慶雲元年(704年)の2度にわたり霊仙山頂に霊仙寺が建立されたと伝わる。また霊仙山は、「かんこ踊り」の際に信仰される山でもあり、青龍山同様、古来より水信仰の対象となっていた。

※○番号はストーリー番号

表 11-2 多賀町内の国指定文化財

種別1	種別2	指定年月日	名称	員数	所有者 (管理者)	所在地	時代・年代	指定記号 番号	備考
重文	工芸品	大正 11 年 4 月 13 日	銅製五輪塔 内ニ水晶舍利塔アリ 底ニ建久九年十二月重源 施入ノ 銘アリ 附 紙本墨書寄進状 一卷(建久 九年十二月十九日:大和尚花押(重 源)トアリ)	1 基	胡宮神社	敏満寺	鎌倉(建久 9 年)	工 170	
重文	彫刻	大正 15 年 8 月 30 日	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	真如寺	多賀	平安	彫 725	修(昭 50)
重文	絵画	昭和 39 年 1 月 28 日	紙本金地著色調馬・厩馬図六曲 屏風	1 双	多賀大社	多賀	桃山	絵 1569	美工防災(昭 43・44)

種別1	種別2	指定年月日	名称	管理者 (監理団体)	所在地	指定理由	指定面積 (㎡)	所有区分	備考
名		昭和 9 年 12 月 29 日	胡宮神社社務所庭園	胡宮神社	敏満寺	名 1	683	社	
名		昭和 10 年 6 月 7 日 令和 2 年 3 月 17 日 追加	多賀大社庭園	多賀大社	多賀	名 1	9,165.42	社	
史跡		平成 17 年 7 月 14 日	敏満寺石仏谷墓跡	(多賀町)	敏満寺	史 7	10,475.64	社	

表 11-3 多賀町内の国登録有形文化財

名称	登録年月日	構造様式	所在地	建築年代
かぎ楼	平成 13 年 4 月 24 日	木造 2 階一部Ⅲ階建、瓦葺、建築面積 308 ㎡	多賀	明治 10 年大正期増築
かめや旅館本館	平成 14 年 2 月 14 日	木造 2 階建、瓦葺、建築面積 155 ㎡	多賀	大正 13 年
かめや旅館広間	平成 14 年 2 月 14 日	木造平屋建、瓦葺、建築面積 118 ㎡	多賀	昭和 8 年
旧一圓家住宅主屋	平成 26 年 10 月 7 日	木造 2 階建、瓦葺、建築面積 212 ㎡	一円	安政 4 年(1857) / 明治 24 年改修
旧一圓家住宅文庫蔵	平成 26 年 10 月 7 日	土蔵造 2 階建、瓦葺、建築面積 24 ㎡	一円	明治前期
旧一圓家住宅米蔵	平成 26 年 10 月 7 日	土蔵造 2 階建、瓦葺、建築面積 28 ㎡	一円	江戸末期
旧一圓家住宅雑蔵及び木蔵	平成 26 年 10 月 7 日	土蔵造 2 階建、瓦葺、建築面積 28 ㎡	一円	江戸末期

表 11-4 多賀町内の県指定文化財

種別1	種別2	指定年月日	名称・構造形式	員数	所有者 (管理者)	所在地	時代・年代	指定記号 番号	備考
県有	建造物	昭和 32 年 8 月 26 日	胡宮神社本殿 三元社流造、檜 皮葺	1 棟	胡宮神社	敏満寺	江戸寛永 15(擬宝珠 銘)	建 6	屋(昭 43)報告 書
県有	建造物	昭和 42 年 9 月 29 日	多賀大社奥書院 桁行 14.05 × メートル、梁間 8.96 ×メートル、一 重、寄棟造、南西および西面庇付、 棧瓦葺	1 棟	多賀大社	多賀	江戸中期	建 33	半(昭 50)報 告書 屋部(平 25)
県有	建造物	昭和 48 年 6 月 27 日	大滝神社本殿 一間社流造、檜 皮葺	1 棟	大滝神社	富之尾	江戸寛永 15(擬宝珠 銘、慈性日記)	建 39	屋部(昭 54)
県有	絵画	昭和 47 年 4 月 1 日	紙本着色三十六歌仙絵(六曲屏 風)中務の画面に「奉掛之遠藤 喜右衛門尉直 経敬白、永禄 十二年十一月吉日」の墨書があ る	1 双	多賀大社	多賀	室町	絵 6	
県有	工芸品	昭和 61 年 3 月 28 日	梵鐘 天文 四年九月 日の刻 銘がある	1 口	多賀大社	多賀	室町	工 38	
県有	工芸品	平成 3 年 3 月 30 日	大太刀銘 多賀大社御劔濃 州大野郡清水住人壽命作 寛永十二年乙亥二月吉日 附 金梨子地葵巴紋衛符太刀お よび葵紋蒔絵太刀箱	1 口	多賀大社	多賀	江戸	工 41	
県有	工芸品	平成 3 年 3 月 30 日	大太刀 銘 山田宮御劔 濃州大野郡清水住若氏信 寛永十二年乙亥二月吉日 附 金梨子地葵巴紋衛符太刀	1 口	多賀大社	多賀	江戸	工 4 2	
県有	工芸品	平成 10 年 6 月 19 日	鉄黒漆塗二十八間筋兜	1 頭	多賀大社	多賀	南北朝～室町	工 48	美工防災(昭 43・44)
県有	書跡等	昭和 61 年 3 月 28 日	多賀大社文書 附 紙本着色多賀大社境内古図 一幅	136 通	多賀大社	多賀	鎌倉～江戸	書 15	修(昭 50)
県天		昭和 34 年 2 月 10 日	河内の風穴	多賀町	多賀町河内	地 6	4,463		

参 考 資 料

表 11-5 多賀町内の町指定文化財

種別	指定年月日	名称・構造形式	員数	所有者 (管理者)	所在地	時代・年代	備考
建造物	昭和 59 年 10 月 22 日	多賀大社そり橋 石造桁橋 15 基高欄付	1 基	多賀大社	多賀	寛永 15 年	
建造物	平成 18 年 7 月 1 日	多賀大社建造物 本殿 1 棟 附、透塀 1 棟 附、棟札 1 枚 祝詞舎 1 棟 幣殿 1 棟 附、東西翼廊 2 棟 附、 棟札 2 枚 回廊 2 棟 拝殿 1 棟 附、棟札 2 枚 拝殿袖回廊 2 棟 手水舎 1 棟 附、棟札 1 枚 神馬舎 1 棟 附、棟札 2 枚 表門 1 棟 附、築地塀 2 棟 附、 棟札 1 枚	11 棟	多賀大社	多賀	明治～昭和初期	本殿：屋 (昭 47) 屋部 (平 19) 祝詞舎：屋 (昭 46) 幣殿：屋部 (平 17) 拝殿：屋 (昭 45・平 16) 手水舎：屋 (昭 46) 半 (平 18) 神馬舎：屋 (昭 43) 表門：屋 (昭 42)
絵画	昭和 62 年 11 月 7 日	天台智者大師像	1 幅	字敏満寺	敏満寺	文和 2 年	
絵画	平成 5 年 11 月 1 日	紙本着色多賀大社参詣曼荼羅図	1 幅	多賀大社	多賀	桃山	
絵画	平成 7 年 11 月 1 日	絹本着色常行念仏堂縁起絵	3 幅	多賀大社	多賀	江戸	
絵画	平成 15 年 8 月 1 日	絹本着色源氏物語明石之巻図	4 面	高源寺	檜崎	江戸後期	
絵画	平成 18 年 7 月 1 日	多賀大社奥書院障壁画	27 面	多賀大社	多賀	江戸後期	
彫刻	昭和 62 年 11 月 7 日	木造聖観音立像	1 軀	胎蔵庵	河内	平安	
彫刻	平成 5 年 11 月 1 日	木造大日如来坐像	1 軀	高松寺	八重練	平安後期	
彫刻	平成 7 年 11 月 1 日	銅造大日如来坐像 附 木造大日如来坐像 (髷仏) 1 軀	1 軀	字敏満寺	敏満寺	鎌倉	
彫刻	平成 7 年 11 月 1 日	銅造毘沙門天立像	1 軀	字敏満寺	敏満寺	鎌倉	
彫刻	平成 7 年 11 月 1 日	木造地藏菩薩半跏像	1 軀	字敏満寺	敏満寺	鎌倉	
彫刻	平成 7 年 11 月 1 日	木造僧形神像	3 軀	字敏満寺	敏満寺	平安～室町	
彫刻	平成 15 年 8 月 1 日	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	称名寺	土田	鎌倉	
彫刻	平成 15 年 8 月 1 日	木造地藏菩薩立像	1 軀	瑞光寺	富之尾	鎌倉	
彫刻	平成 15 年 8 月 1 日	能面・狂言面	72 面	多賀大社	多賀	室町～昭和	
工芸品	昭和 56 年 9 月 17 日	緑釉蓋付蔵骨器	1 具	多賀町	多賀町	平安	
工芸品	昭和 56 年 9 月 17 日	緑釉痰壺	1 具	多賀町	多賀町	平安	
工芸品	昭和 62 年 11 月 7 日	懸仏	1 面	真如寺	多賀町	鎌倉	
工芸品	平成 5 年 11 月 1 日	懸仏 (阿弥陀三尊像)	1 面	安養寺	多賀町	鎌倉	
工芸品	平成 7 年 11 月 1 日	金銅装筭	1 背	専行寺	土田	室町	
書跡	昭和 56 年 9 月 17 日	紙本墨書重源文書重勳進状	1 通	胡宮神社	敏満寺	鎌倉	
書跡	昭和 62 年 11 月 7 日	仏舍利相承図	1 巻	胡宮神社	敏満寺	文暦 2 年	
書跡	平成 5 年 11 月 1 日	紙本墨書多賀大社修造勳進状	1 巻	多賀大社	多賀	天文 12 年	
書跡	平成 7 年 11 月 1 日	紺紙金字大般若波羅蜜多經 卷第 208 残巻	1 巻	胡宮神社	敏満寺	鎌倉	
書跡	平成 18 年 7 月 1 日	胡宮神社文書	398 点	胡宮神社	敏満寺	鎌倉～明治	
歴史資料	平成 18 年 7 月 1 日	紙本淡彩妙寿尼 (村山たか女) 像	1 幅	高源寺	檜崎	明治～昭和初期	
史跡	昭和 56 年 9 月 17 日	大岡高塚古墳	1 基	個人	大岡	6 世紀頃	
史跡	昭和 56 年 9 月 17 日	檜崎古墳	1 基	(多賀町)	檜崎	6 世紀頃	

種別	指定年月日	名称	員数	所有者	所在地	時代・年代	備考
天然記念物	平成 7 年 11 月 1 日	飯盛木	2 本	多賀大社	多賀町		
天然記念物	平成 7 年 11 月 1 日	多賀町四手産 アケボノゾウ化石 全身骨格			四手		
天然記念物	平成 14 年 4 月 25 日	井戸神社のカツラ	1 本	向之倉地区	向之倉		

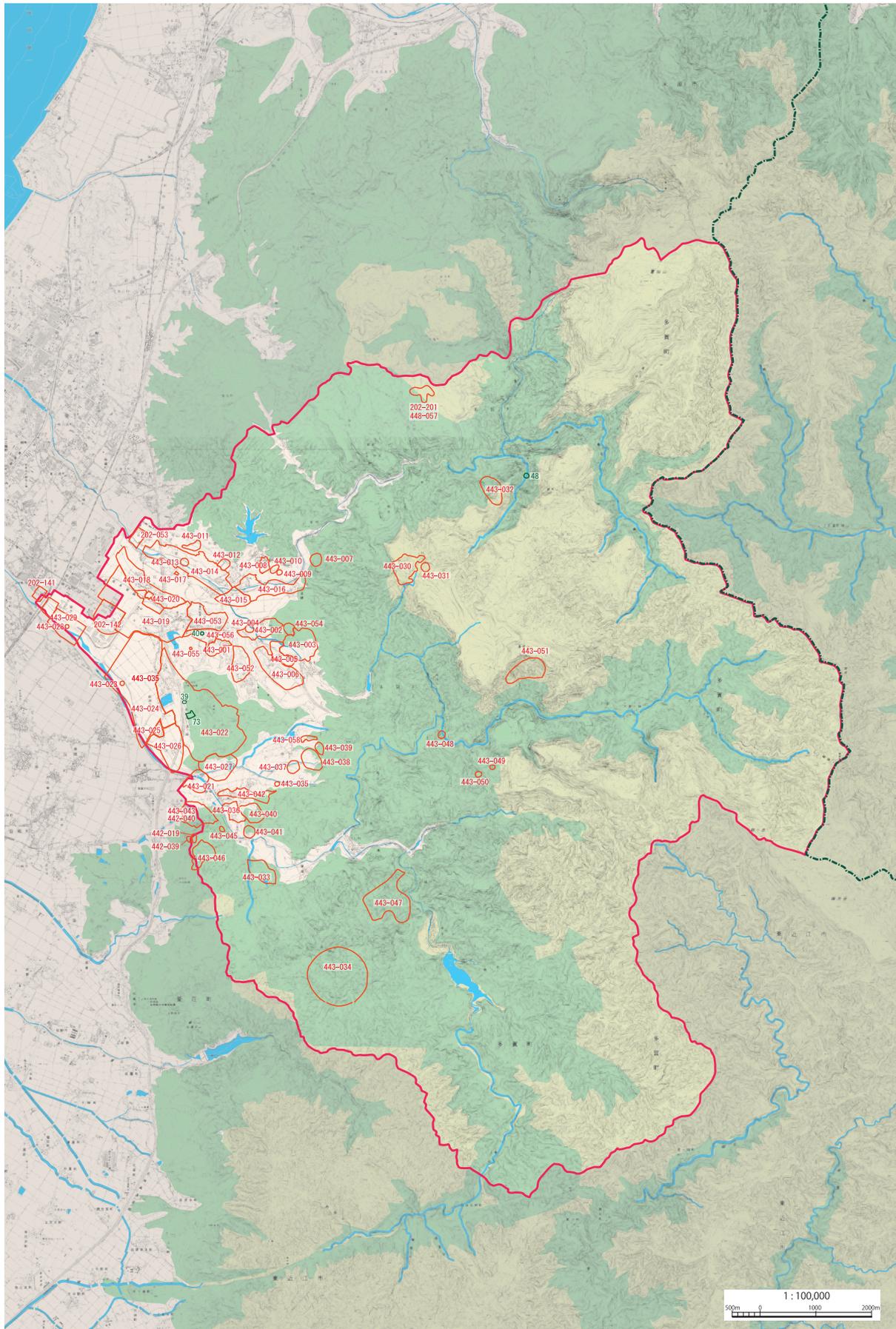


図 11-9 多賀町内の埋蔵文化財包蔵地

参 考 資 料

表 11-6 多賀町の埋蔵文化財

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	種類	時代	立地	現状	備考
443-001	多賀城遺跡	タガジョウイセキ	多賀	城跡	中世	平地	その他	
443-002	大岡遺跡	オオオカイセキ	大岡	集落跡・古墳	縄文～中世	平地	水田	
443-003	大賀城遺跡	オオガジョウイセキ	大岡	城跡	中世	平地	林	
443-004	石塚古墳群	イシヅカコフン	大岡	古墳群	古墳	平地	水田	円墳数基
443-005	大岡古墳群	オオオカコフン	大岡	古墳群	古墳	山腹	山林	旧高塚古墳群・円墳13基・横穴式石室・須恵器（一部町史跡）
443-006	四手遺跡	シテイセキ	大岡・四手	散布地	古墳～中世	平地	水田	アケボノゾウ化石（町指定）
443-007	栗栖城遺跡	クルスジョウイセキ	栗栖	城跡	中世	山頂	林	
443-008	一円館遺跡	イチエンヤカタイセキ	一円	城跡	中世	山頂	その他	
443-009	一円古墳	イチエンコフン	一円	古墳	古墳	山腹	山林	円墳数基
443-010	一円廃寺	イチエンハイジ	一円	寺院跡	その他	山腹	山林	伝承地
443-011	小林城遺跡	コバヤシジョウイセキ	木曾	城跡	中世	山頂	林	
443-012	曾我城遺跡	ソガジョウイセキ	木曾	城跡	中世	山頂・平地	林・水田	
443-013	木曾古墳	キノコフン	木曾	古墳	古墳	平地	水田	円墳・須恵器
443-014	木曾遺跡	キノイセキ	木曾・久徳・中川原	散布地	古墳～中世	平地	水田	竪穴住居・掘立柱建物
443-015	久徳城遺跡	キュウトクジョウイセキ	久徳	城跡	中世	平地	宅地	
443-016	久徳遺跡	キュウトクイセキ	久徳・一円	集落跡	縄文・奈良～近世	平地	水田	
443-017	新田遺跡	ニツタイセキ	中川原	散布地	中世	平地	水田	
443-018	川原遺跡	カワハライセキ	土田	散布地	中世	平地	水田	
443-019	土田遺跡	ツチダイセキ	土田	集落地・墓跡	縄文・奈良～中世	平地	水田	葬墳墓19基・竪穴住居
443-020	土田館遺跡	ツチダヤカタイセキ	土田	館跡	中世	平地	その他	
443-021	籠城山城遺跡	ロウジョウヤマジョウイセキ	敏満寺	城跡	中世	山頂	林	
443-022	敏満寺遺跡	ビンマンジイセキ	敏満寺	寺院跡・集落跡・墓跡	縄文・室町	丘陵	山林・畑地	仁王門跡・金堂跡・古銭・軒瓦・土器・石造物・住居・掘立柱建物・埋葬（一部、国史跡）
443-023	大塚古墳	オオツカコフン	敏満寺	古墳	古墳	平地	水田	前方後円墳・横穴式石室
443-024	敏満寺西遺跡	ビンマンジニシイセキ	敏満寺	集落跡	平安	平地	畑地・水田	旧水沼壮遺跡・掘立柱建物・土師器・灰軸陶器
443-025	大門池南遺跡	ダイモンイケミナミイセキ	敏満寺	墓跡	その他	平地	墓地	銅銭
443-026	守野遺跡	モリノイセキ	敏満寺	散布地	奈良～中世	平地	水田	
443-027	倉谷遺跡	クラタニイセキ	敏満寺	城跡	中世	丘陵	山林	
443-028	猿蓑氏館遺跡	サルオギシヤカタイセキ	猿木	館跡	中世	平地	その他	
443-029	猿木遺跡	サルキイセキ	猿木	散布地	奈良～中世	平地	水田	
443-030	桃原城遺跡	モバラジョウイセキ	桃原	城跡	中世	平地	林	
443-031	杉遺跡	スギイセキ	桃原	経塚	その他	山頂	山林	
443-032	河内城遺跡	カワチジョウイセキ	河内	城跡	中世	山頂	その他	
443-033	滝ヶ原遺跡	タキガハライセキ	藤瀬	散布地	奈良～中世	平地	水田	
443-034	八尾山城遺跡	ヤオヤマジョウイセキ	藤瀬	城跡	中世	山頂	林	
443-035	長尾塞跡	ナガオカマアト	富之尾	塞跡	奈良	山麓	水田	須恵器・登窯
443-036	堂ノ下遺跡	ドウノシタイセキ	富之尾	散布地	奈良～中世	平地	水田	
443-037	梨の木西遺跡	ナシノキニシイセキ	富之尾	墓跡	平安	丘陵	畑地	古銭・蔵骨器
443-038	小屋寺遺跡	コヤデイセキ	富之尾	寺院跡	その他	丘陵	山林	伝承地
443-039	梨の木東遺跡	ナシノキヒガシイセキ	富之尾	墓跡	平安	丘陵	畑地	蔵骨器
443-040	殿山遺跡	トノヤマイセキ	富之尾	城跡	奈良～中世	山麓	畑地・水田	
443-041	レイソウ寺遺跡	レイソウジイセキ	富之尾	寺院跡	その他	平地	畑地	
443-042	富之尾遺跡	トミノオイセキ	富之尾	散布地	奈良～中世	平地	水田	
443-043	檜崎古墳群	ナラサキコフン	檜崎	古墳群・集落跡	縄文・奈良～近世	平地	水田	円墳・方墳・横穴式石室・（一部町史跡）・掘立柱建物・瓦・檜崎氏居館跡
443-045	檜崎東遺跡	ナラサキヒガシイセキ	檜崎	塞跡	白鳳	山麓	山林	瓦塞跡・軒瓦
443-046	勝楽寺山城遺跡	ショウラクジヤマジョウイセキ	檜崎	城跡	室町	山頂	山林	高筑豊後守の城・石垣（甲良町）
443-047	一ノ瀬城遺跡	イチノセジョウイセキ	一ノ瀬	城跡	中世	山頂	林	
443-048	佐目館遺跡	サメヤカタイセキ	佐目	館跡	中世	その他	その他	

遺跡番号	遺跡名	フリガナ	所在地	種類	時代	立地	現状	備考
443-049	深泥ヶ池遺跡	ミドロガイケイセキ	佐目	洞窟	奈良	山腹	洞窟	深泥ヶ池の洞窟
443-050	佐目遺跡	サメイセキ	佐目	洞窟	縄文	山腹	洞窟	別称佐目の風穴・石灰洞窟・縄文土器
443-051	高室山城遺跡	タカムロヤマジョウイセキ	保月	城跡	中世	山頂	山林	
443-052	小菅谷遺跡	コスガダニイセキ	多賀	散布地	中世	平地・丘陵	水田・山林	
443-053	月ノ木遺跡	ツキノキイセキ	月ノ木	散布地	奈良～中世	平地	水田	
443-054	大岡東遺跡	オオオカヒガシイセキ	大岡	散布地	中世	山腹	山林	
443-055	内山遺跡	ウチヤマイセキ	多賀	窯跡	近世	山麓	山林	
443-056	多賀神社遺跡	タガジンジャイセキ	多賀	社寺	中世～近世	境内	境内	
443-057	男鬼入谷城跡	オオリニューウダニジョウアト	入谷	城跡	中世	山頂	山林	
443-058	大谷遺跡	オオタニイセキ	富之尾	その他 墓跡	平安	丘陵	山林・その他	鉄板・鉄製品・土師器・灰釉陶器

表 11-7 多賀大社 祭事 (祭事曆)

月	祭典日	曜	時間	祭典名
1月	1日	月	0:00	祭旦祭
	1日	月	7:30	山田・井伊・祖母・揖取・日向神社 月次祭
	3日	水	8:00	元始祭
	3日	水	13:00	御使殿馬頭人差定式
	3日	水		馬頭人初社参式
	7日	日	7:00	昭和天皇祭遙拝
	15日	月	10:00	月次祭
	15日	月	7:30	古例焼納式
	28日	日	10:00	月次祭
2月	1日	木	10:00	月次祭
	3日	土	10:30・13:30	節分祭
	8日	木	11:00	高松神社春祭
	11日	日	10:30	紀元祭
	15日	木	10:00	月次祭
	28日	水	10:00	月次祭
3月	1日	木	10:00	月次祭
	15日	木	10:00	月次祭
	17日	土	11:00	祈年祭
	21日	水	9:00	春季皇霊祭遙拝
	27日	火	11:00	古稀筵寿祭
	28日	水	10:00	月次祭
4月	1日	日		月次祭
	3日	火		神武天皇祭遙拝
	8日	日		御使殿御湯式
	8日	日		御使殿御注連帳式・御神入式
	12日	木		馬頭人御注連帳式 御神入式
	15日	日		熊野神社例祭
	15日	日		井伊神社例祭
	15日	日		御使殿御湯式
	15日	日		御使殿大御供式
	15日	日		御使殿胡宮参向
	18日	水		馬頭人大御供式
	21日	土		御使殿御湯式
	21日	土		宵宮祭
	21日	土		神遷式
	21日	土		胡宮神社神輿参社式
	22日	日		古例大祭
	23日	月		後宴祭
	24日	火		撰社山田神社例祭
	24日	火		撰社日向神社例祭
	26日	木		馬頭人御神上式御注連上式
	28日	土		月次祭
	29日	日		昭和祭
	29日	日		御使殿御神上式御注連上式
5月	1日	火		月次祭
	10日	木		傘寿筵寿祭
	15日	火		月次祭
	26日	土		金婚筵寿祭
	28日	月		月次祭
6月	1日	金		月次祭
	3日	日		御田植祭
	15日	金		月次祭
	28日	木		月次祭
	30日	土		六月古例祭
	30日	土		大祓式
	30日	土		年神社 龍神社例祭

月	祭典日	曜	時間	祭典名
7月	1日	日		月次祭
	1日	日		九月頭人差定式
	28日	土		月次祭
8月	1日	水		月次祭
	3日	金		杉坂山御神火祭
	3～5日	金～日		万灯祭
	15日	水		月次祭
	16日	木		秋葉神社例祭
	25日	土		天満神社例祭
	28日	火		月次祭
9月	1日	土		月次祭
	9日	日		九月古例祭
	12日	水		九月頭人御神上式御注連上式
	15日	土		月次祭
	20日	木		喜寿筵寿祭
	23日	日		秋季皇霊祭遙拝
	23日	日		拔穂祭
	24日	月		観月祭
	25日	火		愛宕神社例祭
	27日	木		池坊献華式
	28日	金		講社大祭
	30日	日		米寿筵寿祭
10月	1日	月		月次祭
	8日	月		高松神社例祭
	15日	月		月次祭
	15日	月		末社熊野新宮社・熊野神社・天神神社・三宮神社・ 聖神社例祭
	16日	火		献茶式
	17日	水		神嘗祭遙拝式
	28日	日		月次祭
11月	1日	木		月次祭
	3日	土		明治祭
	8日	木		金咲稲荷神社例祭
	15日	木		大宮祭
	20日	火		夷神社例祭
	23日	金		新嘗祭
	28日	水		月次祭
12月	1日	土		月次祭
	1日	土		山田神社例祭
	1日	土		日向神社例祭
	1日	土		神明両宮 子安神社例祭
	1日	土		祖母神社 揖取神社例祭
	15日	土		月次祭
	20日	木		御煤払式
	23日	日		天長祭
	28日	金		月次祭
	31日	月		大祓式
	31日	月		除夜祭

表 11-8 多賀町内の文化財（指定等文化財以外）

種別		名称・構造形式		所有者 (管理者)	所在地	備考
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（一丁）		多賀	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（二丁）		多賀	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（三丁）		月之木	「多賀道と御代参街道」多賀道 多賀町立文化財センター保管
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（四丁）		月之木	「多賀道と御代参街道」多賀道 多賀町立文化財センター保管
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（六丁）		月之木	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（七丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（八丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（九丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（十二丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（十三丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（十四丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（十五丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（十六丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	原道丁石（十七丁）		中川原	「多賀道と御代参街道」多賀道
有形文化財	建造物	石造物	標石		八重練	「多賀道と御代参街道」五僧越え
有形文化財	建造物	石造物	道標		敏満寺	「多賀道と御代参街道」大門池横
有形文化財	建造物	石造物	道標		多賀	「多賀道と御代参街道」多賀道 「左京道 / 右本社道」
有形文化財	建造物	石造物	道標		土田	「多賀道と御代参街道」大堀道 「右多賀大社道」
有形文化財	建造物	石造物	道標		中川原	「多賀道と御代参街道」原道 「左とりい本ミチ / 右たか大社みち」
有形文化財	建造物	石造物	道標		敏満寺	「多賀道と御代参街道」湖東道 「左のみやへ二丁多賀道八丁」
有形文化財	建造物	石造物	道標		敏満寺	「多賀道と御代参街道」湖東道 「胡宮み…たがみ…」地蔵堂裏残欠
有形文化財	建造物	石造物	道標		土田	「多賀道と御代参街道」大堀道 「右飛古祢 左多可み屋」
有形文化財	建造物	石造物	常夜燈		多賀	「多賀道と御代参街道」原道 多賀大社北口移設
有形文化財	建造物	石造物	常夜燈		土田	「多賀道と御代参街道」大堀道 八幡神社に移設
有形文化財	建造物	石造物	加茂の明神さん		久徳	石塔。祭礼日はなく、いわれも不明。
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	真如寺	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	日吉神社	桃原	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	安養寺	河内宮前	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	胡宮神社	敏満寺	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	高源寺	檜崎	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	高源寺	檜崎	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	日吉神社	桃原	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	日吉神社	桃原	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	安養寺	河内宮前	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	瑞光寺	富之尾	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	高源寺	檜崎	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	宝篋印塔	八幡神社	南後谷	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	法華塔	胡宮神社	敏満寺	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	法華塔	安養寺	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	法華塔	観音堂	敏満寺	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	安養寺	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	安養寺	多賀	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	西徳寺	多賀	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	日吉神社	桃原	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	高源寺	檜崎	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	小字加茂地先	久徳	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	称名寺	土田	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	称名寺	土田	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	五輪塔	西琳寺	富之尾	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔	墓地	四手	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔	墓地	河内宮前	紀年銘あり「多賀町史 下巻」

参 考 資 料

種別		名称・構造形式		所有者 (管理者)	所在地	備考
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔	真福寺	河内	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔	安養寺	多賀	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔	小字曹源地先	河内	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔	称名寺	土田	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔	墓地	藤瀬	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	一石五輪塔		今畑	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	無縫塔	光明寺	敏満寺	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	無縫塔	墓地	四手	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	無縫塔	正覚寺	敏満寺	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	無縫塔	称名寺	土田	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	無縫塔	墓地	藤瀬	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	無縫塔	墓地	檜崎	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	結界石	西琳寺	富之尾	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	三界万霊塔	高原寺	檜崎	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	三界万霊塔	永福寺	中川原	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	三界万霊塔	安養寺	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	多賀大社	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	多賀大社	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	多賀大社	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	真如寺	多賀	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	原田天神前	敏満寺	紀年銘あり「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	西徳寺	多賀	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	ひしや裏	多賀	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	打籠	尼子	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	毘沙門堂	尼子	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	尼子	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	諏訪神社内	四手	「多賀町史 下巻」 4基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	四手	「多賀町史 下巻」 3基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	高松神社	八重練	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	大岡	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	河内	「多賀町史 下巻」 7基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	落合神社	落合	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	入谷神社	入谷	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	甲頭倉	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	水谷	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	調宮神社	栗栖	「多賀町史 下巻」 4基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	きぬかさ地藏	一円	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	権原神社	一円	「多賀町史 下巻」 5基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	開蓮寺	木曽	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	曾我神社	木曽	「多賀町史 下巻」 3基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	市杵島姫神社	久徳	「多賀町史 下巻」 11基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	高畑地先	久徳	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	野上神社	月之木	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	秋葉神社	中川原	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	土田	「多賀町史 下巻」 6基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	胡宮神社	敏満寺	「多賀町史 下巻」 19基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	大門正覚寺	敏満寺	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	敏満寺	「多賀町史 下巻」 4基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	猿木神社	猿木	「多賀町史 下巻」 3基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	赤淵神社	川相	「多賀町史 下巻」 7基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	藤瀬	「多賀町史 下巻」 3基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	大滝神社	富之尾	「多賀町史 下巻」 5基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	西琳寺	富之尾	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	檜崎	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	富之尾	「多賀町史 下巻」 10基

種別			名称・構造形式	所有者 (管理者)	所在地	備考
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	聖児神社	一ノ瀬	「多賀町史 下巻」 3基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠		樋田	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	堤神社	萱原	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	萱原神社	萱原	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	山の神社	萱原	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	円通寺	萱原	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	大神社	大杉	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	尊雄神社	小原	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	十二相神社	佐目	「多賀町史 下巻」 4基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	南後谷	「多賀町史 下巻」 3基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	白山神社	大君ヶ畑	「多賀町史 下巻」 4基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	八幡神社	保月	「多賀町史 下巻」 2基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠		杉	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	多賀大社	多賀	「多賀町史 下巻」 33基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	日向神社	多賀	「多賀町史 下巻」 5基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	奥の院	多賀	「多賀町史 下巻」 12基
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	美奈戸神社	五僧	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	灯籠	井戸神社	向之倉	「多賀町史 下巻」
有形文化財	建造物	石造物	石造聖観音立像	胡宮神社	敏満寺	聖徳太子が諸国巡回の時、ここで奇石をご覧になり、石造の聖観音を自作されたという言い伝えがある。
有形文化財	建造物		西明寺		一円	
有形文化財	建造物		樞原神社		一円	
有形文化財	建造物		聖児神社		一ノ瀬	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		真教寺		大岡	
有形文化財	建造物		八幡神社		大岡	「滋賀県の近世社寺建築」
有形文化財	建造物		金蓮寺 本堂		大杉	「滋賀県の近代和風建築」明治11年
有形文化財	建造物		白山神社		大君ヶ畑	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		宗願寺		大君ヶ畑	
有形文化財	建造物		妙玄寺		大君ヶ畑	「滋賀県の庭園」大正作庭
有形文化財	建造物		落合神社		落合	
有形文化財	建造物		萱原神社		萱原	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		河内安養寺		河内	
有形文化財	建造物		赤淵神社		川相	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		長楽寺		川相	
有形文化財	建造物		昭蓮寺		木曾	
有形文化財	建造物		永昌寺		木曾	
有形文化財	建造物		開蓮寺		木曾	「滋賀県の庭園」江戸後期作庭
有形文化財	建造物		曾我神社		木曾	
有形文化財	建造物		東光寺		久徳	
有形文化財	建造物		稻荷神社		栗栖	
有形文化財	建造物		調宮神社		栗栖	
有形文化財	建造物		西願寺		栗栖	
有形文化財	建造物		西連寺		甲頭倉	
有形文化財	建造物		後谷神社		後谷	
有形文化財	建造物		浄願寺		後谷	
有形文化財	建造物		光遍寺		後谷	
有形文化財	建造物		東光寺		小原	
有形文化財	建造物		十二相神社		佐目	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		遠久寺		佐目	「滋賀県の庭園」明治作庭
有形文化財	建造物		猿木神社		猿木	
有形文化財	建造物		樞原神社		炭原	
有形文化財	建造物		西明寺		霜ヶ原	
有形文化財	建造物		聖児神社		霜ヶ原	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		光明寺		杉	
有形文化財	建造物		曾原神社		杉	
有形文化財	建造物		安養寺		多賀	

参 考 資 料

種別		名称・構造形式	所有者 (管理者)	所在地	備考
有形文化財	建造物		西徳寺	多賀	「滋賀県の庭園」江戸後期作庭
有形文化財	建造物		月讀神社	月之木	
有形文化財	建造物		称名寺	土田	
有形文化財	建造物		正福寺	土田	
有形文化財	建造物		専行寺	土田	「滋賀県の庭園」江戸後期作庭
有形文化財	建造物		神明社	樋田	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		西光寺	樋田	
有形文化財	建造物		稲荷神社	富之尾	
有形文化財	建造物		岩橋寺	富之尾	
有形文化財	建造物		瑞光寺(木中地藏)	富之尾	
有形文化財	建造物		西琳寺	富之尾	「滋賀県の庭園」明治作庭
有形文化財	建造物		法性寺	富之尾	
有形文化財	建造物		永福寺	中川原	
有形文化財	建造物		西音寺	中川原	「滋賀県の庭園」昭和作庭
有形文化財	建造物		高源寺	檜崎	
有形文化財	建造物		八幡神社	檜崎	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		円徳寺	屏風	
有形文化財	建造物		泰寺	屏風	
有形文化財	建造物		光明寺	敏満寺	
有形文化財	建造物		崇徳寺	敏満寺	
有形文化財	建造物		正覚寺	敏満寺	「滋賀県の庭園」明治作庭
有形文化財	建造物		福成寺	敏満寺	
有形文化財	建造物		浄通寺	藤瀬	
有形文化財	建造物		八幡神社	藤瀬	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		大神宮神社	佛ヶ後	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		乳地藏(地藏堂)	保月	
有形文化財	建造物		照西寺	保月	
有形文化財	建造物		仙源寺	佛ヶ後	
有形文化財	建造物		八幡神社	南後谷	大滝神社の境外摂社
有形文化財	建造物		蓮浄寺	南後谷	「滋賀県の庭園」明治作庭
有形文化財	建造物		井戸神社	向之倉	
有形文化財	建造物		永法寺	桃原	
有形文化財	建造物		浄光寺	桃原	
有形文化財	建造物		日吉神社	桃原	
有形文化財	建造物		香積寺	八重練	
有形文化財	建造物		高松寺	八重練	「滋賀県の庭園」江戸後期
有形文化財	建造物		谷神社	霊仙	
有形文化財	建造物		了眼寺	霊仙	
有形文化財	建造物		八幡神社	尼子	
有形文化財	建造物		山田神社	彦根市野田山町	多賀大社の境外摂社
有形文化財	建造物		東出地藏尊	土田	「滋賀県の近世社寺建築」
有形文化財	建造物		市橋茂男家	多賀	「滋賀県の近世民家」
有形文化財	建造物		小菅八重子家	久徳	「滋賀県の近世民家」
有形文化財	建造物		大橋善治郎家	月之木	「滋賀県の近世民家」
有形文化財	建造物		山本まつ家	敏満寺	「滋賀県の近世民家」江戸末期
有形文化財	建造物		藤本コト家	河内中村	「滋賀県の近世民家」
有形文化財	建造物		藤本繁夫家	河内宮前	「滋賀県の近世民家」18世紀末(推定)
有形文化財	建造物		鈴居すゑ子家	霊仙落合	「滋賀県の近世民家」
有形文化財	建造物		山口卯一家	水谷	「滋賀県の近世民家」19世紀移築(推定)
有形文化財	建造物		宮下愛子家	水谷	「滋賀県の近世民家」
有形文化財	建造物		山本孫三郎家	萱原	「滋賀県の近世民家」
有形文化財	建造物		大滝山林組合	大滝・富之尾	「滋賀県の近代和風建築」昭和26年
有形文化財	建造物		敏満寺公民館	敏満寺	「滋賀県の近代和風建築」昭和17年
有形文化財	建造物		大杉公民館	大杉	「滋賀県の近代和風建築」昭和28年
有形文化財	建造物		多賀荘農業共同組合	多賀	「滋賀県の近代和風建築」昭和11年

種別	名称・構造形式	所有者 (管理者)	所在地	備考		
有形文化財	建造物		萱原分校	萱原	「滋賀県の近代和風建築」昭和9年	
有形文化財	建造物		藤本長藏家 蔵	河内	「滋賀県の近代和風建築」	
有形文化財	建造物		寺谷宅(心月書院)	大君ヶ畑	「滋賀県の近代和風建築」大正6年	
有形文化財	建造物		延寿堂本舗	多賀	約170年前(平成6年時点)	
有形文化財	建造物		大杉医院	大杉	28年前(平成6年時点)	
有形文化財	建造物		藤田春男家住宅	杉	約80年前(平成6年時点)	
有形文化財	建造物		西山喜代一家住宅	杉	「滋賀県の近代和風建築」	
有形文化財	建造物		宮西重昭家住宅	水谷	約170年前(平成6年時点)	
有形文化財	建造物		山本りゆ家住宅	甲頭倉	約100年前(平成6年時点)	
有形文化財	建造物		筒井昭真家住宅	水谷	約60年前(平成6年時点)	
有形文化財	建造物		大日堂(胡宮神社)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」	
有形文化財	建造物		犬上堰堤	萱原地先・犬上川	「滋賀県の近代化遺産」昭和21年	
有形文化財	建造物		金屋頭首工	富之尾地先・犬上川	「滋賀県の近代化遺産」昭和9年	
有形文化財	建造物		土田湯水場	土田	「滋賀県の近代化遺産」昭和8年頃	
有形文化財	美術工芸品	歴史史料	久徳の城夢のあと(歌)	久徳公民館	久徳	作詞・吟詠 久徳照吉
有形文化財	美術工芸品	歴史史料	赤田普請に使われた道具木札	久徳公民館	久徳	昭和57年5月銘
有形文化財	美術工芸品	歴史史料	家門御政帳箱	久徳公民館	久徳	箱:天保2年 地図:寛政8年
有形文化財	美術工芸品	歴史史料	多賀神社祠堂建物図面	個人	多賀	
有形文化財	美術工芸品	典籍	紙本墨刷大般若経	胡宮神社(大日堂)	敏満寺	
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造阿弥陀如来立像	照西寺	保月	「多賀町史 下巻」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造阿弥陀如来立像	西蓮寺	甲頭倉	「多賀町史 下巻」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造地藏菩薩半跏像	正覚寺	敏満寺	「多賀町史 下巻」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造地藏菩薩半跏像	高源寺	檜崎	「多賀町史 下巻」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	如意輪観音坐像(1)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	十一面観音立像(1)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	観音菩薩立像(1)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(1)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(2)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(3)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	如意輪観音坐像(2)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(4)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	不空羅観音坐像	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	観音菩薩立像(2)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	准胝観音坐像	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(5)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	如意輪観音坐像(3)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	如意輪観音坐像(4)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	十一面観音立像(2)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(6)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	十一面観音立像(3)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	如意輪観音坐像(5)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(7)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(8)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	観音菩薩立像(3)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(9)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(10)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	十一面観音立像(4)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(11)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	観音菩薩立像(5)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	如意輪観音坐像(6)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	観音菩薩立像(6)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	馬頭観音坐像	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像(12)	胡宮神社(観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」

参 考 資 料

種別		名称・構造形式	所有者 (管理者)	所在地	備考	
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像 (13)	胡宮神社 (観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	千手観音立像 (14)	胡宮神社 (観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	十一面観音立像 (5)	胡宮神社 (観音堂)	敏満寺	「名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造重源坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造愛染明王立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造不動明王立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造十一面観音立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造九曜像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造大黒天立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造大国主命像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造 (尊容不明)	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造神像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造庚申像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造元三大師坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造虚空蔵菩薩坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造阿弥陀如来立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造弁財天坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造不動明王立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造薬師如來坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造吉祥天立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造毘沙門天立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造青面金剛立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造愛染明王坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造愛染明王立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造慈覚大師坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造大日如來坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造文殊菩薩坐像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造大黒天立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	紙本着色茶枳尼天像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造角大師像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	陶製歡喜天像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	銅誕生釈迦仏像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造毘沙門天立像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	彫刻	木造不動明王二童子像	胡宮神社 (大日堂)	敏満寺	多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書第 17 集「敏満寺遺跡石仏谷墓跡」
有形文化財	美術工芸品	書跡	慈性日記	安養寺	多賀	
有形文化財	美術工芸品	古文書	多賀大社文書・近現代	多賀大社	多賀	

種別			名称・構造形式	所有者 (管理者)	所在地	備考
有形文化財	美術工芸品	工芸品	刀剣一式	多賀大社	多賀	
有形文化財	美術工芸品	工芸品	梵鐘	光遍寺	後谷	
有形文化財	美術工芸品	絵画	多賀大社参詣曼陀羅図	多賀大社	多賀	
有形文化財	美術工芸品	絵画	吉崎御坊絵図	照西寺	保月	
有形文化財	美術工芸品	絵画	絹本着色釈迦十六善神像	胡宮神社(大日堂)	敏満寺	
無形文化財	演劇		多賀座(近江猿楽)		—	有志による団体。復活したもの。
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	赤田普請に使われた道具一覧看板	久徳公民館	久徳	文化6年銘
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	銚子尺棹	久徳公民館	久徳	三本、袋入り
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	蟹又	久徳公民館	久徳	
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	大鶴嘴	久徳公民館	久徳	
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	げんのう	久徳公民館	久徳	
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	湯沸かし釜	久徳公民館	久徳	
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	破れた鼓	久徳公民館	久徳	
民俗文化財	有形民俗文化財		ゴンボホリグワ・ゴンボグワ		桃原	ゴボウ収穫用の独自のクワ。甲頭倉の鍛冶屋より購入していた。
民俗文化財	有形民俗文化財		蒸気機関車(D51 1149)		敏満寺	SLパーク跡
民俗文化財	有形民俗文化財		寿命石	多賀大社	多賀	
民俗文化財	有形民俗文化財		青龍山の磐座		敏満寺	
民俗文化財	有形民俗文化財	民具	ガッター(米つき機)		南後谷	復元されたもの
民俗文化財	無形民俗文化財		葉タバコ栽培		桃原	昭和30年代後半まで栽培していた。乾燥小屋もかつて10軒あった。
民俗文化財	無形民俗文化財		道普請		桃原・敏満寺	彼岸の頃、班に分けて、道の整備をする。
民俗文化財	無形民俗文化財		かんこ踊り(雨乞い)		大君ヶ畑他	保存会のみ残っている
民俗文化財	無形民俗文化財		三季講	白山神社	大君ヶ畑	
民俗文化財	無形民俗文化財		成人式		栗栖	
民俗文化財	無形民俗文化財		報恩講		中川原・久徳	
民俗文化財	無形民俗文化財		番方講		久徳・一円・八重練・栗栖	西門徒の行事。久徳地区には番方講の古文書も残されている。
民俗文化財	無形民俗文化財		地藏盆		土田	
民俗文化財	無形民俗文化財		山の神講		萱原	山の神の祭り。
民俗文化財	無形民俗文化財		伊勢講		多賀・土田・富之尾・檜崎	
民俗文化財	無形民俗文化財		太子講		桃原・萱原	各字で行う日や内容も異なる。
民俗文化財	無形民俗文化財		二十日講		敏満寺	宮の一年の祈禱講。1月20日に行われる。
民俗文化財	無形民俗文化財		しめし講		四手	毎年1月15日、若衆が公民館に集まり、祭礼の為の準備をしたり儀式を教授した。
民俗文化財	無形民俗文化財		豆腐講		中川原	毎年2月11日、永福治に参集し、村人の仲間入りの儀式を行った。
民俗文化財	無形民俗文化財		代保志義		檜崎	毎年12月20日前後、宮世話の総集會。
民俗文化財	無形民俗文化財		行者講		敏満寺・檜崎	大和大峯山の役行者の信仰。
民俗文化財	無形民俗文化財		綱打ち		久徳	かつて綱がかけられていたことに由来する行事。現在は小路の総會となっている。
民俗文化財	無形民俗文化財		湯立・湯の花		久徳・萱原	多賀大社の巫女さんが行う五穀豊穡を願う祭礼。田植えが終わった頃に行う。
民俗文化財	無形民俗文化財		靈仙参り		久徳	靈仙山にムラの代表が雨乞いに行った。靈仙には各地区のお参り用の池がある。
民俗文化財	無形民俗文化財		祭礼一式	多賀大社	多賀	
民俗文化財	無形民俗文化財		春祭り	胡宮神社	敏満寺	
記念物	名勝地	庭園	土田氏庭園		土田	「滋賀県の庭園」昭和作庭
記念物	名勝地	庭園	中川氏庭園		中川原	「滋賀県の庭園」江戸後期作庭
記念物	名勝地	庭園	小菅氏庭園		久徳	「滋賀県の庭園」明治作庭
記念物	名勝地		大蛇ヶ淵		富之尾	
記念物	名勝地		蛇石	金蓮寺	大杉	
記念物	名勝地		靈仙山		—	
記念物	名勝地		鍋尻山		—	

参 考 資 料

種別		名称・構造形式	所有者 (管理者)	所在地	備考
記念物	名勝地	高室山		—	
記念物	名勝地	ハッ尾山		—	
記念物	名勝地	犬山ダム(萱原ダム)		萱原	
記念物	名勝地	芹川ダム		一円	
記念物	名勝地	高宮池		多賀	
記念物	名勝地	大門池		敏満寺	
記念物	名勝地	石切場		大岡・八重練・ 四手	
記念物	名勝地	陣屋のドリーネ・カレンフェルド		南後谷他	
記念物	名勝地	佐目の風穴		佐目	
記念物	名勝地	深泥ヶ池洞窟		佐目	
記念物	名勝地	鉢山跡		後谷	
記念物	名勝地	小便岩		杉	杉坂道「多賀道と御代参街道」
記念物	名勝地	周り岩(唐箕岩)		杉	杉坂道「多賀道と御代参街道」
記念物	植物	カツラ		向之倉	「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		杉坂	杉坂時の神木杉 県指定自然記念物「多賀町史 下巻」
記念物	植物	ケヤキ		河内宮前	「多賀町史 下巻」
記念物	植物	飯盛木		多賀	「多賀町史 下巻」
記念物	植物	ケヤキ		霊仙	落合神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		保月	薩摩スギ「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		後谷	八幡神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	ケヤキ		樋田	陽明神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		富之尾	大滝神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		杉	春日神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	ケヤキ		多賀	八幡神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	モミ		甲頭倉	お堂「多賀町史 下巻」
記念物	植物	ケヤキ		甲頭倉	お堂「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		八重練	高松神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		大杉	天照大神境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		大杉	天照大神境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	モミ		仏ヶ後	大神宮神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	アカガシ		後谷	八幡神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	イチョウ		多賀	八幡神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		川相	赤淵神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		佐目	十二相神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		大君ヶ畑	白山神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		多賀	多賀大社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		宮前	八幡神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ			調宮神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	スギ		萱原	萱原神社境内「多賀町史 下巻」
記念物	植物	時習館の梅		栗栖	「多賀町史 下巻」
記念物	植物	西音寺の座論梅		中川原	「多賀町史 下巻」
記念物	植物	女塚のスギ		桃原	「多賀町史 下巻」
記念物	植物	飛ノ木(カツラ)		栗栖	「多賀町史 下巻」
記念物	植物	ギフチョウ		—	
記念物	植物	オオムラサキ		—	
記念物	植物	カワセミ		—	
記念物	植物	ヤマセミ		—	
記念物	植物	クマタカ		—	
記念物	植物	オシドリ		—	
記念物	遺跡	船塚	多賀大社	多賀	
記念物	遺跡	多賀道		多賀町～彦根市	

表 11-9 多賀町の特筆すべき自然

分類	項目	場所	説明
腹足類	権現谷の陸貝	権現谷	ミカドギセル / モミジヤマキ / サゴイブキクロイワマイマイ / オオケマイマイ他
植物	芹川のカワノリ	向之倉～水谷分岐	
植物	藤瀬のヒツジグサ	藤瀬	ため池の浮葉植物
両生類	芹川のオオサンショウウオ	栗栖	絶滅?
両生類	大君ヶ畑のコガタノブチサンショウウオ	大君ヶ畑	
鳥類	犬上ダム野鳥	萱原	オシドリ、ヤマセミ、ヒドリガモ、コガモ
植物	霊仙山周辺の好石灰岩性植物		イチョウシダ、ヒメフウロ
植物	霊仙山の早春植物		ニリンソウ、イチリンソウ、ヒトリシズカ、ショウジョウバカマ、セツブンソウ、フクジュソウ、カタクリ
魚類	犬上川上流(雨谷)のアジメドジョウ	萱原奥	
魚類	エチガ谷の在来イワナ	エチガ谷	
哺乳類	萱原のムササビ	萱原～樋田	
鳥類	南後谷のフクロウ	南後谷	
鳥類	霊仙山周辺のイヌワシ	今畑～大君ヶ畑	1ペア
鳥類	丘陵地のオオタカ	富之尾～四手	
哺乳類	河内風穴のテングコウモリ	河内宮前	
哺乳類	落合のモモンガ	落合	鈴鹿山脈で唯一
植物	今畑のブナ林	今畑	
植物	霊仙山のカルスト平原		
化石	ナベイケ(石灰洞)のツキノワグマ幼獣化石	大君ヶ畑	約 3000 年前
化石	権現谷の蝶穴のニホンザル化石	権現谷	約 10000 年前
動物	河内風穴の洞穴性生物	河内宮前	カワチメクラチビゴミムシ、モリアオプシスグライガーイ、コバヤシミジンツボ
動物	佐目のコウモリ穴固有の洞穴性生物	佐目	サメメクラチビゴミムシ、スズカメクラツチカニムシ
哺乳類	四手のオヒキコウモリ	四手	滋賀県唯一の記録
哺乳類	山地エリアのニホンカモシカ	芹川上流部、犬上川上流部	
植物	ササユリ	八尾山ほか	
昆虫類	ムカシトンボ	大洞谷	
昆虫類	ハッチョウトンボ	藤瀬	湿地
鳥類	芹川ダムの野鳥		カルガモ、ヒドリガモ、コガモ
植物	赤坂山のクロヤツシロラン	多賀	
魚類	犬上川のビワマス	富之尾	産卵行動みられる
昆虫類	高取山のゲンジボタル	藤瀬	
昆虫類	太田川のホタル	多賀	ゲンジボタル+ヘイケボタル
昆虫類	芹川上流のヒメボタル	甲頭倉～河内	陸貝食性
哺乳類	山地～里山エリアのシカ		ジビエ
哺乳類	山地～里山エリアのイノシシ		ジビエ
植物	権現谷の紅葉	権現谷	
植物	大滝神社の紅葉	富之尾	
植物	胡宮神社の紅葉	敏満寺	
貝類	霊仙山カルスト池のマメシジミ		
貝類	山地～里山エリアのミドリシジミ類		
昆虫類	里山エリアのギフチョウ	富之尾	
鉱物	霜ヶ原の水晶	霜ヶ原(通称赤坂山)	スカルン鉱物
哺乳類	河内風穴のユビナカウモリ	河内宮前	和歌山県・福井県と往来
植物	藤瀬の湿地性植物	藤瀬	モウセンゴケ、コバノトンボソウ
鳥類	山地エリアのクマタカ	大君ヶ畑	
鉱物	権現洞のムーンミルク	権現谷	微生物が関与している鍾乳石
鉱物	河内風穴の鍾乳石群	河内宮前	
鉱物	高宮池のヒシ群落	多賀	
鉱物	大君ヶ畑の天然ダム堆積物	大君ヶ畑	16世紀頃の犬上川堰き止め堆積物、ソバの実化石
鉱物	萱原のマンガン鉱山跡	萱原	菱マンガン鉱
記念物	河内不動明王の湧き水	権現谷	
両生類	山地エリアのモリアオガエル		
魚類	太田川のカネヒラ	多賀	タナゴ類

参 考 資 料

分類	項目	場所	説明
魚類	大君ヶ畑のミゾゴイ	権現谷林道	サギ類
哺乳類	河内風穴のコキクガシラコウモリ	河内宮前	越冬集団
哺乳類	小原の穴のコキクガシラコウモリ	小原	通年
両生類	山地エリアのナガレヒキガエル		
爬虫類	山地～里山エリアのシロマダラ		トカゲ食のヘビ

『滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2015年版』（平成28年4月）において、植物種は640種選定されている。そのうち多賀町内で確認しているものは次の通りである。

表 11-10 多賀町で確認している希少な植物種

絶滅危惧種	イワヤシダ、ミノコバイモ、サルメンエビネ、マヤラン、ミズチドリ、ウチョウラン、オキナグサ、モメンヅル、アオホオズキ、モリアザミ、カセンソウ、ヒメヒゴダイなど
絶滅危惧増大種	イチョウシダ、マルミスブタ、セキショウモ、ホンゴウソウ、トキソウ、ヤマトキソウ、シズイ、コウボウ、ヤマブキソウ、トモエソウ、ノタヌキモ、イナバアザミ、ナベナなど
希少種	ハマハナヤスリ、ハコネシダ、イワトラノオ、ヒメサザラン、ピロードシダ、ジュンサイ、ヒツジグサ、ウスバサイシン、アギナシ、ヤナギスブタ、ヒロハノアマナ、キバナノアマナ、ギンラン、キンラン、ホクリクムヨウラン、セイタカスズムシソウ、サギソウ、カヤラン、ヒメニラ、ヤマトミクリ、ホシクサ、イワタケソウ、ウキシバ、フクジュソウ、アズマイチゲ、セツブンソウ、ヤマジャクヤク、ビウコエビラフジ、アサダ、ヒナスミレ、ウシタキソウ、カラタチバナ、クロタキカズラ、スズサイコ、オオヒナノウスツボ、オウギカズラ、マネキグサ、イブキコメグサ、キヨスミウツボ、イヌタヌキモ、シデシャジン、オケラ、タイミンガサ、ニッコウヒョウタンボクなど
要注目種	アカハナワラビ、アヤメ、チョウセンナニワズ、クリンソウ、レンゲツツジ、イヌノフグリ、コムラサキ、キキョウ、ウスゲタマブキ、ハナビゼリなど
分布上重要種	ヒロハハナヤスリ、クモノシダ、ホウビシダ、サザラン、カラクサシダ、コトウカンアオイ、ヒロハテンナンショウ、ヒメザゼンソウ、マルバサンキライ、アマナ、クモキリソウ、ノハナショウブ、タイワンヤマイ、メガルカヤ、キバナイカリソウ、ウスゲレイジンソウ、トウゴクサバノオ、シギンカラマツ、ツゲ、ベニバナヤマジャクヤク、ザリコミ、ミツモトソウ、イブキシモツケ、シモツケ、ヨコグラノキ、コバノチョウセンエノキ、コバノイラクサ、タカトウダイ、エゾノタチツボスミレ、イブキトラノオ、トウカイモウセンゴケ、クロミノニシゴリ、ウメガサソウ、ヤマトグサ、サツキヒナノウスツボ、サワアザミ、キンキヒョウタンボク、コウグイスカグラ、イワツクバネツツギなど
その他重要種	ナガホノナツノハナワラビ、コケシノブ、ヒロハヤブソテツ、タニヘゴ、カタイノデ、クリハラン、イトモ、ヒナノジャクジョウ、エビネ、ナツエビネ、コバノトンボソウ、ヒオウギ、マメスゲ、ミカヅキグサ、マツカサススキ、ウキガヤ、ウシクサ、ミスミソウ、タキミチャルメルソウ、ミヤコミス、イワウメツル、ヒメミソハギ、ミズマツバ、ヤナギイノコズチ、ソバニセセジュズネノキ、ツルガシワ、コバノカモメツル、スイラン、オグルマなど

表 11-11 町内各地域の郷土食（年中行事の食）

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
1月1日	正月	河内宮前	雑煮・白味噌・丸餅	白味噌・丸餅・カブラ・里芋・アゲ	調理は囲炉裏でした。マメになるように、マメで作ったお箸で食べた。
1月	正月	後谷	雑煮・白味噌・丸餅		丸餅・白味噌（イエで作ったお味噌）・丸餅は直径5cmくらい。焼いてから入れた。菜っ葉が入っていた。
1月2・3日	正月	栗栖	雑煮・白味噌・丸餅	白味噌・丸餅	京都のお雑煮
1月	正月	富之尾	雑煮・白味噌・丸餅	丸餅・白味噌・大根・ニンジン・小芋	餅は焼いてから。すましもした。ネギをたくさん刻みアゲを入れ贅節をかけた。
1月	正月	屏風	雑煮・味噌・丸餅	自家製味噌・丸もちを煮る・あげ・大根	小正月くらいまで食べた。
1月	正月	入谷	雑煮・味噌・丸餅		丸餅・味噌・ネギ・かまぼこ・アゲ
1月	正月	入谷	雑煮・味噌・丸餅		丸餅・味噌・かまぼこ・人参
1月	正月	屏風	雑煮・味噌・丸餅	カブラ・丸もち	カブラをサイコロに切り、合わせみそを入れる
1月1日	正月	大岡	雑煮・味噌・丸餅		
1月1日	正月	甲頭倉	雑煮・味噌・丸餅	揚げ・ネギ	お餅がある限り作った。手作り味噌
1月1日	正月	栗栖	雑煮・味噌・ハマグリ（ひと口大の丸餅）	揚げ・大根・里芋・ネギ	
1月1日	正月	大岡	雑煮・白味噌・角餅	白味噌・角餅・大根など	里芋・油揚げ・ネギを入れた。味噌は家で作っていた。
1月1日	正月	敏満寺	雑煮・味噌・角餅	かぶら・ネギ・かまぼこ	味噌は、家で麩を混ぜて作っていた。正月らしいことをし始めたのはテレビの影響である。
1月1日	正月	藤瀬	雑煮・味噌・角餅	角餅・味噌・揚げ・カブ・シイタケ	親頭（里芋の親芋）を入れる。
1月1日	正月	土田	雑煮・味噌・角餅	角餅・味噌・カブ・里芋・ニンジン	
1月1日	正月	多賀	雑煮・すまし・丸餅	かまぼこ・ネギ	
1月	正月	富之尾	雑煮・すまし・丸餅		丸餅（焼く）・おすまし
1月1日	正月	大杉	雑煮・すまし・丸餅	人参・ネギ	家族が円満に過ごせるように丸餅である。
1月1日	正月	豊原	雑煮・すまし・角餅	揚げ・豆腐（自家製）大根	「代々豆に」「代々＝大根」「まめ（元気）に＝豆腐」
1月1日	正月	大杉	雑煮・すまし・角餅	かまぼこ・小芋・揚げ・ネギ	普段は味噌汁だが、正月のみ醤油仕立て、焼いた角餅である。

参考資料

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
1月1日	正月	南後谷	雑煮・すまし・角餅	かまぼこ・ネギ・油揚げ	
1月1日	正月	大杉	雑煮・すまし・角餅	豆腐・ネギ・里芋（親芋）・揚げ	いつか頭になるように家族全員、親頭（小さめの親芋）を食べる。
1月2日	正月	久徳	雑煮・すまし・ハマグリ（一口大の餅）		特に決まりはない。
1月	正月	水谷	雑煮・すまし・ハマグリ（一口大の餅）		鰹出汁のすまし・ハマグリ（餅）・揚げ・ネギが入る。
1月	正月	落合	雑煮・すまし		すましに、鶏肉、かまぼこ、ネギ、を入れる。餅は焼かない。上からかつおぶしをまぶす。三ヶ日お味噌にお餅を入れていた。
1月1日	正月	河内下村	雑煮・すまし		
1月1日	正月	久徳	雑煮・味噌・	大根・人参・かぶら・ネギ・油揚げ	丸く生きたため輪切り。細く長く生きたため細切り。1日は包丁使わず、大晦日に切る。
1月	正月	佐目	雑煮・味噌		お味噌・大根が入っていた。
1月1日	正月	河内下村	雑煮・味噌・親芋		長男は、カシラになるようにと親芋をいれる。
1月1日	正月	河内下村	雑煮・丸餅	大根・人参・蕪・ネギ・揚げ・里芋	
1月1日	正月	久徳	雑煮・ひと口サイズより大きめの餅		切るのは縁起が悪い。
1月	正月	保月	雑煮・		豆腐汁で雑煮を食べた。すましや、味噌などイエによって様々。正月だけ豆腐を作って売っていた。お餅は、丸餅やら角餅やら色々。
1月1日	正月	藤瀬	お煮しめ		
1月1日	正月	藤瀬	たたきごんぼ		
1月2日	新年会	南後谷	たたきごんぼ	ゴボウ	ゴボウ10本分作った。
1月	正月	敏満寺	たたきごんぼ		
1月	正月	大杉	たたきごんぼ	ごぼう・酢・砂糖・唐辛子	ごぼうの皮をそいで米のとぎ汁に浸けるとアクがとれる。
1月	正月	甲頭倉	たたきごんぼ		酢・醤油・すりごま
1月	正月	川相	たたきごんぼ		
1月	正月	入谷	たたきごんぼ		入谷のゴボウは桃原でとれる白いものと違って黒っぽい。入谷のゴボウも有名だった。
1月	正月	敏満寺	くるみごんぼ	ごぼう・くるみ	河内出身の奥さんが、ごんぼとくるみを和えていた。
1月	正月	敏満寺	棒鱈		
1月	正月	萱原	棒鱈		
1月	正月	久徳	棒鱈	棒鱈	
1月	正月	川相	棒鱈	棒鱈	
1月	正月	富之尾	棒鱈		鱈を米のとぎ汁に三日三晩浸けてもどす。戻し汁で小芋や大根、人参、ねじりこんにやくを炊いた。
1月	正月	落合	棒鱈		何日間か水に浸してから、里芋と煮る。むすび昆布も入れた。
1月	正月	桃原	芋棒		小芋と棒鱈を炊いた。
1月1日	正月	南後谷	棒鱈と里芋を炊いたの	里芋・棒鱈	棒鱈は、多賀の「やおひで」で買った。
1月1日	正月	南後谷	魚を炊いたの		
1月1日	正月	南後谷	煮物	人参・大根・ゴボウ・椎茸・蓮根	
1月2日	正月	栗栖	黒豆	黒豆	ゴマメ・黒豆・数の子を「三種肴」という。「よびし」に出した。
1月	正月	敏満寺	黒豆		
1月	正月	久徳	黒豆	黒豆	
1月	正月	桃原	黒豆		
1月	正月	大杉	黒豆		
1月	正月	富之尾	黒豆		豆もイエで作っている。
1月	正月	落合	黒豆		7mmから1cm角に切ったコンニャクを入れた。一緒に煮ると黒くなりお菓子のようなになる。
1月	正月	入谷	黒豆		サイコロ状に切ったコンニャクが入る。黒豆は買ってきていた。
1月2日	新年会	南後谷	黒豆	黒豆	7合炊いた。昼間は練炭の火にかけて、3日間かけて作った。
1月2日	正月	栗栖	ゴマメ	イリコ	ゴマメ・黒豆・数の子を「三種肴」という。「よびし」に出した。
1月	正月	富之尾	ゴマメ		(タツクリ) 田んぼがよくできるように。
1月	正月	大杉	ゴマメ		フライパンで炒って醤油と砂糖で味付けした。
1月	正月	川相	ゴマメ	イリコ	
1月	正月	落合	ゴマメ		ササガキゴボウと炊いた。甘くない。
1月	正月	敏満寺	たつくり		

参 考 資 料

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
1月	正月	久徳	たつくり		
1月2日	新年会	南後谷	たつくり		砂糖・醤油と酒をちょっと入れるとからまらずバラバラに仕上がる。
1月2日	新年会	南後谷	お酒	3升	門徒さんの新年会。小皿に5品。10～12cmの小皿40人前作っていた。
1月2日	新年会	南後谷	コンニャク	コンニャク	10丁分煮た。三角に切る。
1月2日	新年会	南後谷	カマボコ	カマボコ	紅白のかまぼこや松竹梅である。
	新年会	土田	ずき焼き		隣り組の新年会
1月3日	鏡割り	大杉	鏡割り	餅	焼いて食べる。
1月3日	正月	久徳	鏡餅を切る		水餅にして10日以降に食べる。
1月	正月	河内下村		ネギ	祝の席にネギは使わない。
1月2日	正月	栗栖	かずのこ	数の子	ゴマメ・黒豆・数の子を「三種肴」という。「よびし」に出した。
1月	正月	萱原	かずのこ		
1月	正月	久徳	かずのこ		29日に娘と作る。昭和44年の本を参考に20種類作っている。
1月	正月	大杉	かずのこ		
1月	正月	富之尾	かずのこ		昔は安かった。田んぼの肥料にしていた。琵琶湖の方から数の子やゴマメを売りに来た。
1月	正月	萱原	赤豆を甘く炊いたもの		
1月	正月	萱原	おたふく豆を甘く炊いたもの		そら豆サイズの豆
1月	正月	桃原	イトコ煮		小芋と小豆を煮る。山形の料理か？
1月	正月	萱原	おにしめ		
1月	正月	久徳	煮しめ		
1月	正月	栗栖	煮しめ	蒟蒻・人参・鶏・椎茸・里芋・ゴボウ	
1月	正月	落合	煮しめ		ゴボウ・ニンジン、里芋、結ぶ昆布を入れた。
1月	正月	久徳	酢ごんぼ	ゴボウ	
1月	正月	久徳	煮ごんぼ	ゴボウ	
1月	正月	久徳	昆布巻き	昆布	
1月	正月	大杉	昆布巻き		約3cmに切ったニシンを巻いた。かんぴょうが無い時は竹の皮で結んだ。
1月	正月	富之尾	昆布巻き		喜ぶ(ヨロコブ)と語呂合わせ。ニシンを巻いてイエで手作りした。
1月	正月	栗栖	ニシンの昆布巻き	ニシン・昆布	29日から作る。ニシンは米のとぎ汁に浸けておく。シュロの葉で結ぶ。
1月	正月	大杉	ナマス	大根・人参・昆布	千切り塩もみ、油揚げ・かんぴょう・干し椎茸を煮たのを酢・砂糖・味噌で和える。
1月	正月	栗栖	紅白なます	大根・人参	
1月	正月	大杉	コンニャク・里芋・ゴボウを炊いた		
1月	正月	栗栖	きんとん	栗・芋	
1月	正月	久徳	きんとん	サツマイモ	
1月	正月	栗栖	海老酢漬	エビ	
1月	正月	栗栖	ぜんざい	小豆	お正月から炊いていた。
1月	正月	萱原	ガヤを煎ったもの	ガヤ(カヤの実)	アーモンドのような実。干すとはじける。割ってアラレ煎りで煎る。
1月	正月	桃原	鶏	鶏	えびす講でひよこを買って来て育て、玉子を生まなくなると解体してハレの日に食べた。
1月	正月	久徳	のし鶏	鶏	
1月	正月	河内宮前	豆・栗・カヤの実	豆・栗・カヤの実	「マメでくりくり、かやかや(がやがや)」と言う意味で、栗の木の箸で食べた。
1月	正月	桃原	こつくり	鮎	生きた鮎を十数匹買い、家の前の井戸で泳がせておく。
1月	正月	桃原	盛り合わせ		とんかつ・サラダ・リンゴ等
1月	正月	敏満寺			餅を焼いて食べる。
1月	正月	八重練	大根の一本漬	大根	大変手間がかかるので、現在は5～10本の大根を半分漬けにする。
1月	正月	屏風	白豆とゴンボ	白豆・昆布	炒った白豆と小さく切った昆布を塩味であえたものを、大晦日女性を作る。朝寺に持ってきていた
1月	正月	屏風	餅		家で食べるものは丸餅・離れた家族にはのしもちにして切ったものを送る。

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
1月	正月	屏風	よもぎ団子		干していたよもぎと、コリ粉（二番米）を石臼で搗ったものお餅に半分混ぜてつき、餡を入れる。
1月	正月	桃原	すき焼き		夜にする。
1月	正月	多賀	すき焼き	鶏肉	牛肉はほとんどなかった。
1月	正月	栗栖	すき焼き	牛肉	多賀の山田肉屋で買った。
1月	正月	萱原	すき焼き	牛肉	親戚・近所の人と。御用聞きが来て注文した。牛肉一貫目(4kg) 竹の皮に包んでいた。
1月	正月	八重練	すき焼き		多賀のお肉屋さんで買っていた。
1月	正月	水谷	よびしゅう		1日のみ親戚に挨拶をする。
1月	正月	河内宮前	おせち	たたきゴボウ・コンニャク・カマボコ・田作り	田作りは囲炉裏で作った。
1月	正月	落合	おせち料理		ずっと仕事をしていてお餅を搗く間も無かったので、お赤飯にした時もあった。
1月	正月	水谷	おせち料理		ゴマメ・棒鱈・小芋とイカを炊いたの・焼き豆腐・黒豆（豆は自家栽培）
1月	正月	入谷	おせち料理		・黒豆…サイコロ状に切ったコンニャクが入る。黒豆は買ってきていた。 ・数の子・えび豆・ニシンの昆布巻き・ゴボウの昆布巻き・小芋と棒鱈を炊いたもの・カブラの千枚漬・栗きんとんはしなかった。
1月	正月	後谷	おせち料理		豆・数の子・野菜が入った。
1月7日	七草	河内宮前	七草粥	芹	近くの川で芹を採って粥にした。ナズナなど他のモノはその年によって違うが、芹は必ず入った。
1月7日	七草	桃原	七草粥	大根・カブ・ハコベ・餅	1升餅は床の間と神棚。仏壇・農業倉庫・台所・お地藏さん・車・机などに小餅を飾る。
1月7日	七草	久徳	七草粥・丸餅	すずな・すずしろ・人参の葉など	七草は買って来ないで畑にあるものです。
1月7日	七草	河内下村	七草粥		今はしていない。
1月7日	七草	大岡	七草粥		昔はしていなかったが、最近ではしている。
1月7日	七草	南後谷	七草粥	大根・カブラ・セリ	セリは採りに行った。他の七草は雪の下。
1月7日	七草	栗栖	七草粥	大根・カブラ・セリ・ホウレンソウ	家にある野菜で作った。
1月7日	七草	川相	七草粥	大根・かぶら・人参の葉	
1月7日	七草	萱原	ナミン	白菜・揚げ・豆腐・角餅・生米	白嚼仕立て。角餅に米が煮えてくっつく。
1月7日	七草	大岡	ぜんざい	小豆	七草粥な食べなかった。
1月7日	七草	土田	七草粥		自宅周辺で自生しているものを入れた。餅も入れた。
1月7日	七草	富之尾	七草粥		ネギ・大根の葉を入れた。お餅も入れた。
1月7日	七草	入谷	七草粥		家のカブラや大根を入れた。無いものは買ってきた。丸餅を入れる。
1月7日	鏡開き	入谷	ぜんざい		鏡餅を割った時におぜんざいをした。
1月10日	鏡開き	久徳	ぜんざい		鏡もちをぜんざいにする。
1月11日	鏡開き	栗栖	鏡開き	餅	カビが生えるので三日が終わったら切る。
1月14日	小正月	桃原	小豆粥	小豆	朝から食べた。
1月15日	小正月	萱原	アルキナユ（小豆粥）	角餅・米・小豆	角餅に米ひとつかみと小豆を塩ゆでし仏さんに供える。食べるとき砂糖を足す。
1月15日	小正月	桃原	小豆粥	小豆・餅	小豆は先に炊いて、米と焼いていない餅を入れる。塩味。
1月15日	小正月	久徳	小豆粥	小豆	塩味
1月15日	小正月	河内下村	小豆粥	小豆	今はしていない。
1月15日	小正月	川相	小豆粥	小豆	
1月15日	小正月	河内宮前	小豆の粥	小豆	甘くない。
1月15日	小正月	富之尾	小豆粥		塩味、三ヶ日に切った鏡餅を入れる。鏡餅は、三日に切ってもらい、七草用・小豆粥用に分ける。
1月15日	小正月	入谷	小豆粥		小豆粥に丸餅を入れた。
1月15日	やぶ入り	屏風	すき焼き		
成人の日	成人の日	大杉	小豆粥	小豆・餅	
1月末	寒餅	後谷	寒餅	餅	1月末についた。配給のお米が少なかったもので、1ヶ月主食をもたすために丸餅をついていた。
11月～2月3日	おとりこし	川相	シライ（白和え）	人参・コンニャク・ホウレンソウ・豆腐	練りゴマ・白味噌・砂糖・みりん（少し）で和える。
11月～2月3日	おとりこし	川相	丁子麩の辛子和え	丁子麩・キュウリ（最近入れる）	酢・醤油・すりごま・練りゴマ・白味噌・粉辛子・少し豆腐を入れる。
11月～2月3日	おとりこし	川相	ゴボウと人参のオアイ	炒りゴマ	こってり甘辛く炊いて（すき焼きのタレで代用する）炒りゴマをすらずに和える。

参 考 資 料

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
11月～2月3日	おとりこし	川相	酢の物		
11月～2月3日	おとりこし	川相	コンニャクの煮しめ	コンニャク	三角に切る。正月は結ぶ。
11月～2月3日	おとりこし	川相	カブラの酢の物	カブラ・昆布・三杯酢	
11月～2月3日	おとりこし	川相	つるんぼし	渋柿	吊るし柿
冬	お講	桃原	お講汁	揚げ・豆腐・蕪・ネギの味噌汁	当番の家が、角樽に入れて持って行く。お椀を各自持って集まった。
冬	おこない	河内下村	鮓ずし・漬物・酒の肴		家にあるものを持ち寄った。
冬	おこない	河内下村	シンコ	米を家で挽く・砂糖は入れない	5～7cmのダンベル状にして両端を軽くつぶす。茹でる。囲炉裏で焼いてよばれた。
冬	おこない	河内下村	くるみごんぼ	クルミ・ゴボウ	山のクルミを煎って甘味噌で和える。
冬	おこない	河内下村	炊き込みご飯・カレーライス		今は炊き込みご飯がカレーライス。
冬	おこない	落合	大根を味噌で煮た		お寺の行事、男の人しか行かない。寺に集まって大根を味噌で煮た。あるものでしていた。丸餅を焼かずに入れる。お下がりの餅を入れる。
2月3日	節分	大岡	鱈の丸焼き	イワシ	最近になって始めた。
2月3日	節分	栗栖	鱈を焼く	イワシ	
2月3日	節分	桃原	イワシ	イワシ	イワシを食べ豆まきをする。
2月3日	節分	土田	イワシを焼く	イワシ	大豆を炒るか、ピーナツで豆まきをしていた。
2月3日	節分	後谷	豆		豆を煎った。豆は自家製である。
2月16日	太子講	桃原	カブラ・大根の味噌汁	カブラ・大根	イエで作った一品を持ち寄り、皆でご飯を食べた。区長がご飯を炊いた。
3月3日	ひな祭り	栗栖	ばら寿司	干びょう・高野豆腐・人参・椎茸・	ピンクのかまぼこ・チリメンジャコ・紅ショウガ・キヌサヤ
3月3日		土田	ばら寿司	カンピョウ・チリメンジャコ・シイタケ・ニンジン・かまぼこ・ちくわ・錦糸卵など	貝のおつゆを食べた。
3月3日	ひな祭り	桃原	三色ひしもち・あられ		白餅と、ピンク・緑の色粉を入れ、のばした餅を包丁でひし形に切った。
3月3日	桃の節句	河内宮前	菱餅	よもぎ	よもぎのお餅をのばして菱形に切った菱餅を食べた。
3月13日	春の奉仕作業	敏満寺	カシワ飯	鶏	春の奉仕作業後、鶏を1匹つぶして食べた。
彼岸	彼岸	萱原	彼岸団子	米粉・餅粉・餡	昔は寺で作った。
彼岸	彼岸	桃原	ぼたもち	餅・小豆	
彼岸	彼岸	落合	ぼたもち		もち米に餡をまぶす。きな粉もあった。餡は、イエで作ったゆるい餡だった。近所や親戚に配った。
4月8日	花まつり	八重練	甘茶		
春・秋	祭り	久徳	ばら寿司		重箱二段に作って近所に配った。春は餡入りヨモギ餅、秋は白い餅であった。
春・秋	祭り	久徳	ばら寿司	かんびょう・干し椎茸・高野豆腐・人参	2升炊いていた。トッピングは、錦糸卵、紅ショウガ、ブンドマメ（さやいんげん）
春・秋	祭り	水谷	ばら寿司	カンピョウ・椎茸・にんじん・グリーンピース・錦糸卵・紅ショウガ	
春・秋	祭り	入谷	ばら寿司		カヤクは人参や高野豆腐、しいたけなどが入った。錦糸卵・紅ショウガ
春・秋	祭り	大岡	ちらし寿司		
春・秋	祭り	敏満寺	ちらし寿司		ジャコ・かんびょう・干し椎茸・人参・山椒・錦糸玉子が入っていた。
春・秋	祭り	後谷	ちらし寿司		ちらし寿司をした。
春・秋	祭り	久徳	餅	もち米	
春・秋	祭り	久徳	ヨモギ餅	ヨモギ	
春・秋	祭り	大岡	ぼたもち	粒あん・きなこ・黒ゴマに砂糖を混ぜた	近所におすそ分けした。
春・秋	祭り	入谷	ぼたもち		餡入りの餅を作った。
春・秋	祭り	樋田	ぼたもち		ぼたもちを作ってくれた。きなこをまぶすだけだった。
春・秋	祭り	水谷	すき焼き		多賀の山田肉屋に買いに行った。
春・秋	祭り	入谷	すき焼き		人が集まった時にすき焼きをする。
春・秋	祭り	栗栖	すき焼き	牛肉	多賀の山田肉屋で買った。
春・秋	祭り	萱原	すき焼き	牛肉	
春・秋	祭り	多賀	すき焼き	鶏肉	
春・秋	祭り	久徳	すき焼き	かしわ	飼っていたニワトリをしめた。農協のあっせんでひな鳥を注文して買った。

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
春・秋	祭り	藤瀬	すき焼き	鶏	家で飼っていたニワトリをさばきすき焼きにした。骨はスープにする。骨を吸うことを「スワボル」という。
春・秋	祭り	甲頭倉	すき焼き・バーベキュー	牛肉	
春・秋	祭り・盆	佐目	じゅんじゅん(すきやき)		鶏のすき焼き・ジュンジュン。牛が一番良いが、イノシシや豚でした。
春・秋	祭り・正月	水谷	鮎ずし		正月や祭りのごちそう。頭の固い部分は、おばあちゃんが、熱いお湯を入れてすすって美味いと思っていた。くさいと思っていたが、今になってしてみると、頭も柔らかくなり美味いと思うようになった。
4月8日	花まつり	屏風	あめ玉		屏風で花祭りはなく、向之倉・桃原・甲頭倉に子供たちは親に連れられてお寺にお参りした。
4月20日	祭り・胡宮神社	敏満寺	餡入り餅	ヨモギ餅・肉桂餅・紅白餅	親戚に持って行った。
4月21日	古例大祭	栗栖	宵宮団子(ヨミヤダango)	餅・炊いたご飯・ヨモギ・	餡入り・ヨモギ団子・白い団子・ピンクのお餅。重箱に詰める。
4月22日	古例大祭	栗栖	鮎を炊いたの	鮎	
4月22日	古例大祭	栗栖	ばら寿司		持ち帰ってもらうように作った。
4月22日	多賀まつり	土田	ぼたもち		小豆を炊いてぼたもちを用意した。
5月4日	萱原祭り	萱原	ヨモギ団子	ヨモギ	昔はイエで作った。
5月5日	端午の節句	大岡	柏餅		買ってきて食べた。
5月5日	端午の節句	後谷	柏餅		サルトリイバラの葉、サルトリイバラの葉は保存していた。
5月5日	子どもの日	栗栖	ボンガラ団子	小麦粉・餡玉	田んぼが忙しいころ。
5月5日	五月節句	桃原	ボンガラ餅	米粉・餅粉・餡	イバラの葉二枚ではさんだ。
5月5日	端午の節句	八重練	ボンガラ餅		買っていた。
初夏	五月休み・田植えまつり	藤瀬	ボンガラ餅		小麦粉の生地にあんごを包みばんがらの葉で挟んで蒸した。
6月	六月祭り	入谷	ボンガラ餅		ボンガラを作った。
		樋田	ボンガラ餅		作らなかったが、友達で作ったのはもらって食べた。
初夏	田植えの後	富之尾	ボンガラ餅・イバラ		ボンガラの葉は、塩漬けて冷凍保存しておく。イバラとも言った。小麦粉か米粉で中に小豆の粒あんを包んだ。そら豆の餡の事もあった。
5月5日	五月節句	入谷	チマキ	米粉	ちまきを作った。団子は米粉で蒸す。チマキは神さんと仏さんにお供えする。
5月5日	端午の節句	河内宮前	チマキ	白い餅・笹の葉・イグサ	家によっては100本くらい蒸した。
5月5日	端午の節句	桃原	チマキ		笹を採ってきて、田んぼの草で結んだ。
5月5日	端午の節句	富之尾	チマキ		チマキは米粉に砂糖を入れて甘く作った。
5月5日	端午の節句	後谷	チマキ		チマキを作った。塩味の米粉団子をササで包み蒸した。たくさん作って保存食にはしなかった。
旧暦5月5日	端午の節句	萱原	チマキ	米粉・餅粉・笹	米粉・餅粉を笹で巻いて茹でる。
初夏	田植え	栗栖	おにぎり	梅干し・紫蘇	ハヤビル・コオビル・コビルと言った。
初夏	田植え	栗栖	おかず		ハヤビル・コオビル・コビルと言った。
初夏	田植え	栗栖	おやつ		ハヤビル・コオビル・コビルと言った。
初夏	田見舞い	栗栖	餅	餅	重箱に入れて持って行った。
初夏	田植え	八重練			季節の山菜と鶏、鮎、ウナギ、油揚げなどを食べていた。
初夏	田植え	富之尾	ごはん		夜明け朝4時頃から夕暮れまで作業した。前日夜にごはんを炊いて、おひつのまま田んぼに持って行った。おかずにお漬物を持って行き、お椀も持って行った。
初夏	田植え後	富之尾	餅		手伝いに来てくれた人に配った。白いお餅がメインでヨモギ餅もあった。ボンガラ餅もした。
6～7月頃	サナブリ(タナブリ)	萱原	小豆餅	小豆	田仕事がひと段落するころに行く。
初夏		土田	五月餅	小麦・よもぎ・餡	よもぎ餅は、小麦粉に餡を入れて蒸した。
6月1日	五月休み	保月	ガンタチ餅		小麦粉に小豆を包んでガラタテの葉に包んで蒸した。
7月1日	五月休み	水谷	焼き鯖		親元から焼き鯖やニシン、鯖・ニシンの缶詰を嫁ぎ先に届けた。
7月1日	五月休み	水谷	ガンバラ団子		ガンバラの葉ガラタテ(ボンガラ・サルトリイバラ)を取りに行き、ガンバラ団子を作った。小麦団子に粒あんを入れてガンバラの葉で包み蒸す。サナブリはまた別の日、6月22日までに田んぼを植えないかん。
6月頃	田休み	敏満寺	ボンガラ餅	ボンガラ(サルトリイバラ)	米粉を団子にして、そら豆や枝豆餡をくるみ、ボンガラで包み蒸す。
6月30日	荒神さんの茅の輪	多賀	ボンガラ餅	小麦粉・そら豆餡	がらたて餅は高級で高尚な人が言う言い方。

参 考 資 料

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
7月1日	多賀大社のお田植	多賀	ボンガラ餅	小麦粉・そら豆餡	小豆は高価なのでそら豆で餡を作った。
7月16日	涼み祭り	敏満寺	ボンガラ餅	ボンガラ(サルトリイバラ)・ユリコ餅・餡	胡宮神社に巫女さんが来て湯神楽をしたあと、子どもはお菓子がもらえる。各家庭でボンガラ餅は作った。
8月14日	お盆	河内下村	ボンガラ餅	餡入りだんご	盆の餅なのでボンガラ餅。多賀の風月堂はアケンバラの出身なので、頼んで作ってもらう。
8月15日	お盆	河内下村	ぼたもち		
8月15日	お盆	河内下村	おかず	ヒフのおひたし・たたきごんば	ヒフは川に生えている草。
8月15日	お盆	河内下村	里芋ご飯	里芋	餅にお砂糖を添えて善光寺に供える。
8月15日	お盆	河内下村	白い小餅3つ	餅	
8月16日	お盆	河内下村	ひねだんご・ひねりだんご		5～7cmにのぼした餅を3回くらいひねる。
8月	お盆	後谷	餅・そうめん		お餅を作った。素麺など食べた。
8月	お盆(盆踊り)	屏風	バーベキュー・流しそうめん		
8月	盆	萱原	すき焼き	牛肉	
8月	盆	多賀	すき焼き	鶏肉	
8月	盆	栗栖	すき焼き	牛肉	多賀の山田肉屋で買った。
8月	盆	栗栖	すき焼き	牛肉	
8月	盆	甲頭倉	すき焼き・バーベキュー	牛肉	
8月	盆	川相	バーベキュー		
8月	盆	栗栖	フナの子付け	フナ	井戸でフナを飼っていた。
8月	盆	栗栖	赤飯	小豆・もち米	
8月	盆	川相	ばら寿司		
8月	盆	川相	素麺	素麺	
8月	やぶ入り	屏風	そうめん・野菜・フライ・バラ寿司		
8月25日	地藏盆	多賀	カレー		ご馳走をおばさんが仕切って作っていた。
8月25日	地藏盆	多賀	ばら寿司		
8月25日	地藏盆	多賀	ぜんざい	小豆	
8月最終週	施餓鬼	藤瀬	ウナギもどき	豆腐・山芋・海苔	海苔の上に豆腐と山芋を混ぜたものをのせ、割りばしで筋をつけ揚げる、ウナギに見せかけた精進料理である。
8月最終週	施餓鬼	藤瀬	雲片(うんべい)	野菜くず	野菜くずにとろみをつける。
8月最終週	施餓鬼	藤瀬	がんもどき	きくらげ・ニンジン	団子にして揚げ油を抜く。
8月最終週	施餓鬼	藤瀬	ゴマ豆腐	吉野葛・ゴマ	練りごまゴマと吉野葛を混ぜて火にかけて混ぜる。すごく肩が痛くなる。
秋	お月見	屏風	小芋		ススキを飾った。
秋	運動会	後谷	巻きずし		運動会は巻きずしだった。
11月最終日	報恩講	南後谷	お華束(ケソク)	餅	親指の爪サイズの餅を6個×23段×6セット作る。
11月最終日	報恩講	南後谷	おつゆ	里芋・油揚げ・豆腐・ネギ	
11月最終日	報恩講	南後谷	ポテトサラダ	じゃがいも・人参	
11月最終日	報恩講	南後谷	煮物	大根・人参・里芋	
11月最終日	報恩講	南後谷	ナマス	大根・人参・油揚げ	
11月最終日	報恩講	南後谷	おひたし	ホウレンソウ・小松菜	採れた野菜でつくる。
11月最終日	報恩講	南後谷	天ぶら		手間がかかるのでご馳走だった。
11月最終日	報恩講	南後谷	切り干し大根	大根	
11月最終日	報恩講	南後谷	煮しめ	大根	親鸞聖人の体
11月最終日	報恩講	南後谷	煮しめ	コンニャク	親鸞聖人の袈裟
11月最終日	報恩講	南後谷	煮しめ	人参	親鸞聖人の血
11月最終日	報恩講	南後谷	煮しめ	椎茸	親鸞聖人の帽子
11月最終日	報恩講	南後谷	煮しめ	ゴボウ	親鸞聖人の杖
10月～11月	報恩講	藤瀬	お講汁	大根・小芋・シイタケ・揚げ	バラ寿司・オードブル・鮎ずし・尼講が汁を炊いたものなどを持ち寄っていた。白い餅が配られた。
10月～11月	報恩講	八重練	お講汁	カブ・大根・あげなど	前日から準備をして大きなお鍋で作っていた。
10月～11月	報恩講	樋田	お講汁		ゴエンさんのおつとめの後に、皆がおつとめして、そのあとお講汁をいただいた。モッコに乗せて2人で吊って運んだ。大きいヤカンも持ってきた。ごはん・お漬物(家で漬けた大根・たくあん)を持ってきた。

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
10月～11月	報恩講	樋田	お講汁		先代のゴエンさんが亡くなるちょっと前までしていた。大きい鍋、4升鍋(シショウナベ)で炊いていた。おかずは5升鍋。前日から昆布出汁をとって炊いた。カブラ・小芋・ジャガイモ・油揚げ(必ず入れなあかんもん)・しいたけは高く買って買えなんだ。昆布は箱で買って、昆布巻きを作っていた。たけのさんのおこが美味しかった。
10月～11月	報恩講	八重練	オケソク	餅	一円の饅頭屋さんに頼む。お供えはお餅・お菓子・果物などで、お餅はムラで作っていた。
10月～11月	報恩講	屏風	お弁当		弁当を持ち寄って皆で食べた。
10月～11月	報恩講	屏風	小芋とイカ	小芋・イカ	小芋の皮をむくとき、オケに小芋と水を入れて板でガシャガシャ回すときれいに皮が剥けた。イカは皮をむかずにワタだけとってそのまま煮ると小芋に色がつく。
10月～11月	報恩講	屏風	昆布巻き	昆布・ごぼう・かんぴょう	ゴボウを中心にに入れてカンピョウで結び炊いた。
10月～11月	報恩講	屏風	きんぴらごぼう	ゴボウ・ゴマ	ゴボウは細く切る。最近ニンジンを入れる。ゴマをふる。
10月～11月	報恩講	屏風	たたきごぼう	ゴボウ・ヒザンショウ	醤油と酢で味付けし、ヒザンショウをふりかける。ヒザンショウは山椒が赤くなったもの。
10月～11月	報恩講	屏風	丁子麩の辛し和え	丁子麩	酢・辛子・味噌・砂糖・すりごまで和える。丁子麩は水がしみこみやすいように片方だけ切る。
10月～11月	報恩講	屏風	ぜいたく煮	たくあん・古漬け	花ガツオと炊く。
10月～11月	報恩講	屏風	ねぎのスタ	イカ・かまぼこ・ねぎ	辛子酢味噌で和える。
10月～11月	報恩講	屏風	お講汁		お講の当番があったが、ある話者は作り方を知らなかった。
10月～11月	報恩講	向之倉	お講汁		野菜を入れて煮詰める。鰹出汁のお味噌汁。お寺でおつとめをした後にご飯をよばれる。当番の人がおつゆを炊いて持って行く。報恩講のあと、月々のお講の日が決っていた。箱に茶碗を入れて持って行った。
	おとりこし	後谷	白和など		11月～1月までに各家庭でした。隣近所の人が参りに来る。親戚の食事(白和えなどの手料理)と村の人のお茶菓子(こんにやくの煮つけ・里芋を煮たもの・タタキゴボウなど)
	おとりこし	八重練	ぼたもち		読経の後の会食で、小豆のおかず、甘く煮た金時豆 wp 食べる。
	おとりこし	屏風	細めんの焼きそば		
	おとりこし	屏風	白和え・丁子麩・天ぷら・こんにやく・炊きもの		村中で集まって精進料理を食べて酒を飲んだ。
	おとりこし	向之倉	甘酒・小芋・オアイ		甘酒をよばれる。夜食に小芋を炊いて、オアイ(和えもの)もあった。
	祝の席	川相	こつくり	鯉	飼っていた鯉を三枚おろしにした。
	祝の席	川相	鍋料理	タラ・シャケ	
	よびし	栗栖	鮎ずし	フナ・ごはん	よびし=おもてなし。普段は子が入っていないのを食べよびしは、子入りだった。
	山の神講の日	大杉	あんころ餅	小豆	重箱に詰めて親戚や近所にふるまった。ぜんざいを作ることもあった。
12月27日	餅つき	川相	餅つき	もち米 30 kg	子どもなど6軒に送るので27日につく。
12月30日	餅つき	栗栖	餅つき	もち米	1升餅は床の間と神棚。仏壇・農業倉庫・台所・お地藏さん・車・机などに小餅を飾る。
12月30日	餅つき	萱原	こわ餅	米と餅米	米と餅米を1升蒸して、神様に供える。
12月30日	餅つき	萱原	角餅	もち米	ひと臼2升をレンジです。
12月30日	餅つき	萱原	あられ	もち米・山芋	山芋を入れて作りむしろに干す。
12月30日	餅つき	久徳	丸餅	もち米	お供え用をつく。
12月28日・30日	餅つき	屏風	丸もち	餅米	29日は苦がつくという人もいたが、福をとるため、特についてはいけない日はないと言う話者もいる。
12月28日～30日	餅つき		福餅	白い餅やよもぎ餅に餡	一段のお重に入れて親戚や兄弟に配った。
12月30日	餅つき	土田	のし餅・鏡餅	もち米	12月30日くらいに揚ぐ。
12月30日	餅つき	佐目		もち米	12月30日餅つきをしていた。おくどさんでもち米を2段重ねにして蒸して、臼に移してついた。ご飯状のものをかたまりにしてから、小つき(コツキ)から始める。仕上げだけつく。鏡餅と丸餅を作る。のし餅は作らなかった。餡入り餅やヨモギ餅を作った。
12月28日	餅つき	水谷			12月28日に餅つきをした。5～6臼分搗いてのし餅などにした。仏さんと神さんに2臼分お鏡さんにした。お雑煮用には、ひと口大のお餅を丸め「ハマグリ」という。
12月30日	餅つき	入谷	餅		12月30日に3升くらい餅をついた。丸餅と鏡餅を作った。
12月30日	餅つき	後谷	餅つき		今でも餅つきはしている。
12月末	餅つき	敏満寺	鏡餅	もち米	神棚・ほとけさん・おくどさんにお供えする。ウラジロ・みかんと供える。
12月末	餅つき	向之倉			餅を作った。ヨモギ餅・あん餅を作った。

参 考 資 料

時期	行事等	字	食の名称	食材	説明
12月30日	餅つき	富之尾	鏡餅	もち米	・お鏡さんは、床の間にひと重ね、三宝の上にウラジロを敷いて餅を二段重ねユズリハとダイダイを飾った。 ・お鏡さんにひびが入ると今年は日照り、と言われた。金槌で砕いて、油で揚げたりした。 ・12月30日に餅つきをした。北の方から来た人は29日に揚く餅は、福（フク・29）餅と言って縁起が良いと言った。
12月末	餅つき	佐目	餅		親元が作って持ってきてくれた。ついた餅は、箱に流し入れ平らにならして、5cm角に切る。神さんに供えた後によばれる。
12月31日	除夜会	南後谷	酒		除夜の鐘をついて、門徒さんにふるまった。
12月31日	除夜会	南後谷	スルメ	スルメ	除夜の鐘をついて、門徒さんにふるまった。
12月31日	大晦日	大杉	ニシン蕎麦	ニシン・ソバ	
12月31日	大晦日	多賀	年越しそば	ソバ	揚げやネギが入っていた。ニシンなど贅沢品はなかった。

表 11-12 町内各地域の郷土食（人生儀礼に関わる食）

時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
11月3日	村入り	河内下村	三段重	コンニャク・エビ	酒のつまみが入っている。こんにゃく・エビなど。
	結婚式	萱原	赤豆の甘煮	赤豆	つば（黒塗りの碗）
	結婚式	萱原	スルメ	するめ	つば（黒塗りの碗）
	結婚式	萱原	コンニャク煮	コンニャク	つば（黒塗りの碗）
	結婚式	萱原	モロコの塩焼き	モロコ	つば（黒塗りの碗）
	結婚式	萱原	酢ゴボウ	ゴボウ	つば（黒塗りの碗）
	結婚式	萱原	揚げ甘辛煮	油揚げ	ひら（5品）
	結婚式	萱原	紅白かまぼこスライス	かまぼこ	ひら（5品）
	結婚式	萱原	里芋煮	里芋	ひら（5品）
	結婚式	萱原	むすび昆布煮	昆布	ひら（5品）
	結婚式	萱原	むすびかんぴょう煮	干びょう	ひら（5品）
	結婚式	萱原	鯛のもこうづけ	鯛	生の鯛を竹で編んだ皿の上のせ、紅白の紙でよった紐で結ぶ。
	結婚式	萱原	ダイビキ	ハマチ	生のハマチを持ち手つきの竹で編んだカゴにのせる。
	結婚式	萱原	焼魚		スズリプタ・重箱サイズの折り箱に入れる。
	結婚式	萱原	羊羹	羊羹	スズリプタ・重箱サイズの折り箱に入れる。
	結婚式	萱原	紅白饅頭	饅頭	スズリプタ・重箱サイズの折り箱に入れる。
	結婚式	萱原	果物	果物	スズリプタ・重箱サイズの折り箱に入れる。
	結婚式	久徳	海老豆・赤飯	赤飯	婚家に帰って一口ずつ、おてしお(小皿)に付けて出した。
	結婚式	久徳	三段重の真ん中	生菓子 羊羹	白あんに色付けて鶴亀にかたどったもの。
	結婚式	久徳	三段重の上	かまぼこ・焼き鯛	三段重は料理屋さんを作る。
	結婚式	久徳	三段重の下	赤飯	
	結婚式	南後谷			多賀の料理屋から料理をとった。
	結婚式	川相	紅白かまぼこ	カマゴコ	
	結婚式	川相	紅白お餅	餅	
	結婚式	川相	小さい紅白お餅	餅	村歩きの時配る。焼いてお砂糖と醤油をつけて皆で食べた。
	結婚式	敏満寺	会席料理	刺身・焼き魚など	仕出し屋に来てもらい、婚家の台所で料理をしてもらった。
	結婚式	久徳	オリ	赤飯・エビ・鯛・かまぼこ・紅白饅頭	出席者に配る。イエに持ち帰って食べる。
	結婚式	藤瀬	マンジュウホッカイ		近所の人に紅白饅頭を配る。
	結婚式	久徳	祝いの膳	鯛の刺身	おばんざいは、婚家で作った。
	結婚式	久徳	紅白饅頭	饅頭	マンジュウホッカイに入れてあいさつ回りをした。
	結婚式	屏風	紅白饅頭		
	結婚式	保月	紅白饅頭		山の下から色々買ってきてご馳走があった。紅白饅頭は見に行ったらくれた。飴玉ももらった。
	結婚式	土田	紅白饅頭・紅白の砂糖		
	結婚式	大杉	ホッカイ	紅白まんじゅう	トナリ歩きで配った。
	結婚式	土田	大きい羊羹・饅頭2種		折箱に入っていた。
	結婚式	河内宮前	鯛・数の子・煮付け・サバのみずし		祝い膳は金持ちの家は買ったが、そうでない家は借りた。
	結婚式	土田	赤飯		親戚や隣り組に配った。

時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
	結婚式	樋田	おつゆ・おひたし		結婚式の食事は、料理屋さんでとった。付け出しのお浸しや、おつゆは炊いてもらった。
	結婚式	屏風	お膳	豆腐などが入ったヒラ・豆などが入ったオツボ・豆腐の白和えなどが入ったチョコ・魚	
	結婚式後	河内宮前	お赤飯	小豆・もち米	三つのお重に南天とゴマ塩と一緒に入れる。
	妊娠中	敏満寺	柿	渋柿	柿を食べると便秘になりやすいので、「妊婦に柿食わずな」と言って、妊婦には食べさせなかった。
	妊娠中	大杉	スルメ	するめ	食べるとダメ。
	妊娠 6・7 か月頃	土田	腹餅	餅	大きい餅を切り分けて隣りに配った。
	産前産後	栗栖	鯉こく	鯉	
	産前産後	栗栖	鯉の味噌汁	鯉	
	産後	土田	魚とズイキを炊いたもの		悪い血が降りるので良い。味噌味
	産後	土田	餅		餅を食べると母乳の出がよくなる。
	産後	桃原	ごぼうの種	ゴボウのタネ	ごぼうの種を 10 粒ほど飲むとお乳がよく出る。
	産後	久徳	ハラワタモチ	紅白の餅	7 日祝にハラワタモチを作り、黒い豆を添えて濃い親戚に配った。
	産後	河内宮前	鮎の味噌汁	鮎・餅	鮎の味噌汁に餅を入れた。乳の出がよくなる。
	産後	大杉	青背の魚・タケノコ		精が出過ぎて乳の出が悪くなるので控えた。
	産後	大杉	ズイキ・赤豆・うずら豆	ズイキ	古い血が降りるので食べるとよい。
	七日祝い	敏満寺	赤飯	もち米・小豆	産後から 7 日目に親元から赤飯が贈られる。
	食い初め	川相	鯛	鯛	
	食い初め	川相	オカイサン（おもゆ）	米	哺乳瓶に入れた。
	食い初め	川相	餅	餅	炊いてお椀に入れた。
	食い初め	桃原	膳でお祝い		
	食い初め	敏満寺	百日目の食い初め		小さな膳と小さな食器に飾りつけたものを用意し、赤ちゃんに食べさせる真似をした。
	食い初め	久徳	食い初め	鯛・麦・豆	膳を出して子どもに食べさせる真似をさせた。
	食い初め	土田	鯛の尾頭・赤飯・汁物		
	葬式	久徳	でだしのおにぎり	米	丸い塩おにぎり
	葬式	八重練	でだしのおにぎり	米	丸い塩おにぎり
	葬式	栗栖	出立ちのおにぎり	米	朝食べていただく。丸の塩むすび
	葬式	水谷	出立ちのおにぎり	米	丸いおにぎり
	葬式	土田	出立ちのおにぎり	米	丸い塩おむすび
	葬式	大岡	丸い塩おにぎり	米	
	葬式	藤瀬	丸い塩おにぎり	米	土葬に行って帰ってきた人が食べる。
	葬式	敏満寺	にぎりめし	米	角が立たないように丸いにぎりめし。塩むすび
	葬式	甲頭倉	塩むすび	米	俵型
	葬式	敏満寺	握り飯	米	
	葬式	桃原	塩のにぎりめし	米	出棺の前にみんなで食べた。
	葬式	大岡	おにぎり	米	
	葬式	敏満寺	はちはい豆腐	豆腐	おかわりはダメ。すまし汁にお玉ですくって入れた豆腐が入っている。ネギはダメ。
	葬式	久徳	はちはい豆腐	鯉・昆布・椎茸の濃い出汁	豆腐は 8 等分。こってり作る時は、豆腐に醤油の色が染まるまで朝から晩まで煮る。
	葬式	大岡	はちはい豆腐	豆腐	すまし汁に豆腐のみ。ネギなど他の具は入れない。
	葬式	藤瀬	ハチハイ豆腐		豆腐を大きく切ってすましのつゆで味付けだった。
	葬式	土田	ハチハイ豆腐・煮奴	豆腐	葬式の際は、豆腐・焼き豆腐をたくさん買った。豆腐一丁を四等分して昆布を下に敷き、酒・砂糖・醤油で煮る。味をしみこませるために早めに炊き一日寝かせた。
	葬式	敏満寺	ハチヤドウフ	豆腐・汁	質素で簡単なものに決まっていた。豆腐を 8 つに切って入れた汁。出棺の前に食べた。
	葬式	土田	お豆腐のお味噌汁		冬はカブラ・かまぼこなどを入れる。ネギは切ったものをお椀に入れておく。
	葬式	栗栖	お味噌汁	豆腐・揚げ・里芋・ネギ	
	葬式	八重練	丁子麩入りの味噌汁		
	葬式	桃原	豆腐	豆腐	
	葬式	栗栖	焼き豆腐	昆布・砂糖・醤油・みりん	下に昆布をひいて、水を入れず甘辛く炊いた。お持ち帰り用。

参 考 資 料

時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
	葬式	八重練	焼き豆腐		
	葬式	久徳	うどんのぬた	うどん・ネギ・かまぼこなど	辛子酢味噌和え（ぬた）にする。
	葬式	藤瀬	ヌタ		
	葬式	久徳	丁子麩の辛子和え	丁子麩	
	葬式	大岡	丁子麩の辛子和え	丁子麩	
	葬式	栗栖	丁子麩の辛子和え	キュウリ・丁子麩	
	葬式	藤瀬	丁子麩の辛子和え		
	葬式	土田	丁子麩の辛子和え		丁子麩は一晩水に浸す。きゅうりを入れるのは最近になってからである。
	葬式	八重練	カラシフ	丁子麩	丁子麩に辛子あんをつけたものである。
	葬式	久徳	白和え	蒟蒻・人参・大根・椎茸・ゆりね等	
	葬式	栗栖	白和え	豆腐・ホウレンソウ・人参・蒟蒻・椎茸	
	葬式	桃原	白和え	豆腐	ムラにないものは、男の人が自転車で多賀か彦根に材料を買いに出た。
	葬式	土田	白和え	豆腐・味噌・砂糖・ゴマ・ニンジン・シイタケ・ほうれん草・こんにゃく・	
	葬式	水谷	白和え		白和え（コンニャク・にんじん）・丁子麩の辛子和え・金時豆を炊いたの・コンニャク・イカとネブカ（ワケギ・ネギ）のヌタ（酢味噌和え）
	葬式	甲頭倉	おひたし・お漬物		お椀・茶碗と、おひたしとお漬物くらい。
	葬式	桃原	おひたし	ゴボウ・豆・芋など季節のモノ	隣の人が弔家の台所に立ち準備した。
	葬式	川相	ナマス	大根・人参	
	葬式	栗栖	シジミ豆	シジミ・大豆	エビ豆はお祝いの席なのでダメ。
	葬式	栗栖	金時豆を甘く炊いたもの		塩はほんの少し入れる。
	葬式	川相	金時豆を炊いたもの	金時豆	
	葬式	桃原	コンニャク	コンニャク	
	葬式	栗栖	コンニャク	コンニャク	三角に切る。ねじるのはお祝いの席。
	葬式	八重練	コンニャク	コンニャク	三角に切る。
	葬式	河内宮前	お膳	ご飯・塩・味噌	
	葬式	栗栖	ひじき煮	ひじき・揚げ・人参	
	葬式	八重練	白いご飯		
	葬式	八重練	おひたし	カラシ菜	
	葬式	八重練	煮ころがし		隣り組の女性たちが作った。
	葬式	八重練	葬式饅頭		昔はあったひらべったい丸い形をしていた。
	葬式	河内宮前	ひじき・マメ・コンニャク・酢の物	高野豆腐・麩・コンニャク・マメ（赤・白）	村総出で食材を持ち寄りその日の夕食を食べる。
	葬式	久徳	かまど見舞い		隣組が食材を持ち寄るので、何が出来るか分からない。当家は口出しできない。
	葬式	大杉	トナリ組への礼	精進料理・汁物・酒	ご馳走や酒でもてなす。
	葬式	大岡	パンザイ（お総菜）		数種類
	葬式	大岡	シアゲ（告別式の夕食）	品数は、3～5品まで	喪主が隣近所、お手伝いさんに対するお礼。刺身・煮物・焼き物・など
	葬式	南後谷	千団子	米粉	竹串18本にだんごを9個刺す。生なので、お供えた後茹でて皆にふるまう。
	葬式	南後谷	シゾ団子・シゾ餅	米粉	米粉を円柱にして蒸している。後で切って皆に配る。焼いて食べる。
	葬式	萱原	八団子	米	棺に入れるものと、死者が生前着ていた衣服を洗い乾かした食べるものがある。
	葬式	河内宮前	シンコ団子	米粉	生の米粉を水で溶いてこねる。湯は使わない。8個作って送りの時に身内が両側で4個ずつ持つ。
	葬式	大杉	団子	米粉	7日7日に、2個ずつ配った。棒状のモノを切って配る。焼いて食べた。
	葬式	桃原	カラスダンゴ	米粉	野辺送りに持って行く。人間は食べずイエの庭先や縁側に置きカラスが持って行くようにした。
	葬式	桃原	ヤツダンゴ	団子	団子を串に何個か刺し、それを何本か皿の中に刺したものの。
	葬式	大岡	まんじゅう	饅頭	まんじゅうを大量に供える。葬式が終わったら近所の子ども達に配る。
	葬式	桃原	オブクサン	ご飯	筒のような仏具にご飯を詰め、ひっくり返して固めたモノを、遺体の頭側に供えた

時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
	葬式後	敏満寺	センタク団子	米粉	忌明けまでに亡くなった人の衣服を洗い、その後で作ってみんなで食べる。
	葬式	屏風	ヤツ団子		人が亡くなったと聞くと米を挽く。白い団子を8つ作って串に刺し木の筒の周りに引っ付ける。出棺の前まで棺桶に2つ置いて供えた。お墓に持って行って手伝いした人や子供がもらって帰った。焼いて砂糖醤油などにつけて食べた。昭和53年頃が最後。
	葬式	土田	お供え団子	餅粉	箸で菊の花のように模様をつけお湯にくぐらせる。火葬場に持って行く。これは食べない。
	葬式	水谷	せん団子		米粉を挽いてこねて丸め、蒸さずに三室にのせてお供えした。お供えした後食べた覚えはない。棺に入れたのではないか？
	葬式	入谷	葬式の食		丁字麩の辛子和え・丸いおにぎり・お葬式の団子を作った。
	葬式	向之倉	葬式の食		村中の女性がした。栗栖の西村さんに買いだしに行き、おつゆを炊いていた。葬式の食は、豆・芋などを使った精進料理。
	葬式	樋田	葬式の食		芋とか、大根とか家でとれたものを利用した。すまし汁などを作っていた。団子などは、コメが余り取れなかったので作らなかった。
	葬式	保月	ゼンマイを炊いたの		大鉢に入ったお鉢のものは、その場で食べる。
	葬式	保月	酢ごんぼ		大鉢に入ったお鉢のものは、その場で食べる。
	葬式	保月	そうめん		ヒラは持ち帰る素麺を茹でたのに揚げを置いている。めんつゆは入っていない。
	葬式	保月	小豆の炊いたの		ツボは持ち帰る。小豆を炊いたもの。
	葬式	保月	麩の和え物		チョウは持ち帰る。麩の和え物を少し。
	葬式後	富之尾	洗濯団子	小麦粉・米粉	洗濯が終わってから、小麦粉と米粉にお砂糖で味付けた団子を作って洗濯した人たちと皆で3個ずつほどよばれた。米粉は川相で搗いてもらう。
	初七日	水谷	米粉団子	米粉	米粉をこねてのぼして杵と臼でつき、のぼして糸切で切った。焼いて醤油をつけて食べたのが美味しかった。親戚が参るので茶菓子を買って当家に持って行った。
	忌明け・一周忌	土田	小餅		小餅を作ってお供えした。お参りしてくれた人に半紙で包みおさがりを渡した。
	葬式・地藏盆	屏風	蓮の花のラクガン		葬式や地藏盆のときに作っていた。
	通夜後	八重練	パン		持ち帰った。
	年忌	多賀			家で作った。刺身は腐りやすいのでなかった。
	年忌・法事	藤瀬	丁子麩の辛子和え	丁子麩・味噌・辛子・砂糖・酢	大きのまま味噌につけて巻いて三つに折り曲げて巻いた方を下にしてさらに置く。
	年忌・法事	藤瀬	タイモ		甘辛く味付け。
	年忌・法事	藤瀬	焼き豆腐		
	五十回忌	敏満寺	串上げ	鯛・赤飯・三段のお重	仕出し屋から料理をとり、盛大に行うイエが多かった。

参 考 資 料

表 11-13 町内各地域の郷土食（普段の食）

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
芋・豆	冬	普段	桃原	煮っころがし	里芋	ゴボウは連作できないので、ゴボウのあと里芋を植える。
芋・豆		普段	桃原	芋棒	里芋・棒だら	棒だらと煮る。
芋・豆		普段	多賀	棒鱈	サトイモ・棒だら	正月だけでなく、普段から里芋と炊いて食べていた。
芋・豆		普段	桃原	里芋と小豆の煮物	里芋・小豆	甘い煮物
芋・豆	11月	普段	甲頭倉	自然薯	自然薯	
芋・豆	秋	おやつ	河内下村	干し芋	サツマイモ	サツマイモを切って干したものだ。
芋・豆		おやつ	樋田	干し芋	サツマイモ	サツマイモを蒸したものだ、干し芋もした。干し芋は、雨が降るとカビることもあった。
芋・豆		おやつ	屏風	蒸し芋	サツマイモ	
芋・豆		おやつ	佐目	餡	サツマイモ	サツマイモを炊いて餡の代りにした。
芋・豆		普段	藤瀬	きんぴら	サツマイモのつる	
芋・豆		戦後	向之倉	サツマイモのつる	サツマイモのつる	戦後の食糧難でサツマイモのツルを炊いて食べた。大阪から疎開してきていて、よそで食べた。
芋・豆		おやつ	水谷		ジャガイモ	細かいものをホウライで煎って食べるのが美味しかった。学校から帰って来たら食べていた。
芋・豆		普段	甲頭倉	じゃがいもの塩炊き・醤油炊き	ジャガイモ	塩や醤油と出汁の素で1時間炊く。
芋・豆		普段	後谷	豆腐	大豆	豆腐屋さんが1軒あり、週1回作っていた。隣村まで豆腐を売りに行っていた。オカラやアブラゲもあった。
芋・豆		おやつ	屏風	味噌豆を砂糖で炒ったもの	大豆	
芋・豆		農作物	落合	小豆	小豆	小豆は作っていたが、粒が小さかった。
芋・豆		農作物	保月	小豆	小豆	保月の小豆は美味しいので有名。県庁に行くときはお土産に持って行った。
芋・豆		農作物	水谷	畔の豆	大豆・小豆	大豆・小豆を植えた。そら豆・金時豆は畑で作った。大豆はノコギリガマで束にして刈り、足で踏んで脱穀した。
芋・豆		普段	屏風	豆腐	大豆	手作りしていた。
芋・豆		農作物	樋田	小豆・大豆	大豆・小豆	田んぼの畔に、小豆、大豆を作っていた。当時は獣害がなかったものでたくさんとれた。
芋・豆		おやつ	敏満寺	そら豆	そら豆	煎って食べた。
果実	梅雨	保存	敏満寺	梅干し	梅	家の梅の木
果実	梅雨	保存	桃原	梅干し	梅	家の梅・赤紫蘇
果実	梅雨	保存	土田	梅干し	梅・赤紫蘇	ホタ(畔)に梅を作っていた。紫蘇も自然に生えていた。
果実	梅雨	保存	屏風	梅干し	梅	屏風梅、現在も作っている。
果実	梅雨	保存	入谷	梅干し	梅	梅干を漬けた。赤紫蘇はなかなか無かった。
果実	梅雨	保存	向之倉	梅干し	梅	梅干しをつけた。
果実			保月	梅	梅	保月では取れない。貴重なものだった。
果実	10月頃?	普段	甲頭倉	胡桃味噌	胡桃	土の中に入れておくとか殻が腐ってきれいに中身がとれた。ゴマの代りに使った。
果実			保月	カヤ		美味しいけれど、食べるのに手間がかかる。実を水に浸けて川で洗い種だけとる。乾燥させて煎って食べる。ホンコさん(報恩講)には、カヤと粟を持って行った。
果実		おやつ	敏満寺	モーチ	ヤドリキの実	松についたヤドリキの実を食べた。
果実		おやつ	八重練	ミドリ	松の実	ガムみたいで青臭かった。
果実		おやつ	保月	桑イチゴ	桑の実	美味しかった。
果実		おやつ	桃原	桑の実	桑の実	甘くておいしかった。
果実		おやつ	萱原	ナツハゼ	ナツハゼ	
果実		おやつ	萱原	イワナシ	イワナシ	はじけるとゴマみたいに小さく美味しい。
果実		おやつ	萱原	ヤマイチ	ヤマイチ	
果実	11月頃	おやつ	桃原	あけび	あけび	
果実	10月頃	おやつ	敏満寺	しいの実	しいの実	生で食べられる。こどものおやつ。白い小さい実。
果実	10月頃	おやつ	萱原	栗	栗	
果実		おやつ	向之倉	栗		栗はひらいいいって食べた。トチは無かった。椎の実も無い。胡桃・カヤの実も食べた。アケビはそうはない。胡桃はオアイ(和え物)にした。
果実		おやつ	保月	シバグリ		なり年と成らない年があった。朝早く行ったもん勝ち。大きい袋に一斗ほどとれた。
果実	10月頃?	おやつ	萱原	ヤマブドウ	ヤマブドウ	
果実	11月頃	おやつ	栗栖	干し柿	渋柿	お正月くらいに食べごろになる。

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
果実	11月頃	おやつ	久徳	干し柿	渋柿	
果実		おやつ	桃原	つるんぼし	渋柿	つるし柿
果実	11月頃	おやつ	敏満寺	つるんぼし・つるし・つるし柿	渋柿	渋柿は田んぼにイネのハサにするために植えていた。竿竹に挟み採った。
果実	11月頃	おやつ	桃原	つるんぼし	渋柿	皮を剥いて干した。
果実	11月頃	おやつ	八重練	つるんぼし	渋柿	
果実	11月頃	おやつ	藤瀬	つるんぼし	渋柿	柿の皮をむき2週間ほど干した。
果実		おやつ	佐目	つるんぼし	渋柿	正月にお宮さんと神主さんが(村のまわり神主)松の木を立ててしめ縄を作る。その時、しめ縄につるんぼしを10個ぶら下げる。家が神社に一番近いので、それもらいに行った。
果実		おやつ	向之倉	つるんぼし	渋柿	
果実	11月頃	おやつ	藤瀬	さわし柿	渋柿	桶にナイロンをかぶせてお湯をはり、柿を沈めて一晩おく。
果実	11月頃	おやつ	栗栖	さわし柿(ボンガキ)	渋柿	大きい釜に入れてゆぶす(ゆでる)。
果実	11月頃	おやつ	敏満寺	さわし柿	渋柿	お湯で餅葉を35~40度にし、1~2晩じわっと温めて渋を抜く。
果実	11月頃	おやつ	敏満寺	さわし柿	渋柿	お風呂に漬ける。お酒の後に食べるとすっとする。
果実	12月頃	おやつ	川相	ハチカンザキ	柿	柿を持ってきて、もらい風呂で食べた。
果実	11月頃	おやつ	栗栖	富有柿	柿	ぬかにうずんで(うずめて)保存する。
果実	11月頃	おやつ	敏満寺	富有柿・ごしょ柿	柿	家の庭には、甘いのを植えた。
果実			保月	柿		保月は柿が出来ない。
既製品	夏休み	おやつ	八重練	アイスキャンデー	アイス	自転車での木の箱に入れて売りに来る人がいた。棒付きのものや団子のように三段になって吸うタイプである。
既製品		おやつ	八重練	乾パン	乾パン	行商の女性が自転車で売りに来た。
既製品		おやつ	保月	黒いあめ玉		1銭で黒い飴玉が5個買えた。毎日は1銭もらえなかった。
既製品		おやつ	佐目	アイスキャンデー		アイスキャンデーを売りに来た人がいた。甲良町の人が、木箱に菓子を氷の代りに入れて持ってきた。小学校の入り口あたりで「アイスキャンデー・アイスキャンデー」と言って売りに来た声が良い声だった。小学校1年の頃に来ていた。5円くらいだった。
キノコ		保存	久徳	松茸の塩漬	松茸	たくさんとれたので塩漬にした。
キノコ		松茸山の入札	敏満寺	松茸	松茸	昭和30年頃まで青龍山で採れたのを販売し、収益で学費をまかなえた。
キノコ		普段	久徳	松茸焼き	松茸	七輪で松茸を焼いて、醤油の入ったお皿に入れてもらった。
キノコ			屏風	松茸	松茸	昔は裏の山にたくさん生えていた。炊く・焼く・混ぜご飯にした。
キノコ			藤瀬	松茸	松茸	昔はたくさん取れた
キノコ		松茸山の入札	佐目	松茸		松茸は、山の入札をしてから採った。大阪で売って一人で大儲けした人がいる。
キノコ		松茸山の入札	後谷	松茸		10月まで村で入札をして山を買取り、留山にした。11月末でも生えていた。松茸山は個人の山?で神社の上の方にある。10月1ヶ月間留山にして、11月以降は山に入れる。解禁日以降は薪を取り入れる。
キノコ			向之倉	松茸		松茸は芹川・甲頭倉・桃原あたりでとれ、日当たりがよく松が無いととれなかった。植林された山で日当たりが悪かった。
キノコ		松茸山の入札	敏満寺	松茸		収穫された松茸は、会議所前広場で競りをし、彦根の商人が来ていた。かごに詰めて米原から列車で東京に送っていた。
キノコ		普段	甲頭倉	干し椎茸	椎茸	そのまま軒に干す。
魚介		普段	屏風			魚屋が家まで来てくれる。
魚介		普段	萱原	ジャコ	ジャコ	多賀で買ってきた。
魚介		普段	萱原	煮つけ	サバ・小アジ	魚屋が売りに来た。甘露煮のように山椒を入れた。
魚介		普段	萱原		サケ・ニシン	魚屋が売りに来た。
魚介		普段	萱原	焼魚	ニシン	田んぼの肥料用塩漬のニシンの中から良いものをとって食べた。
魚介		普段	後谷			多賀の西村商店に乾物、ニシンの乾物・塩サバ・タラなど魚を買いに行った。車が上がらなくなってからは、栗栖の西村さんが来てくれた。
魚介		普段	向之倉			魚屋さんが村に売りに来ていた。
湖魚・川魚	夏	普段	河内下村		鮎・マス・ギシ(頭が大きい魚)	川で獲った。
湖魚・川魚	夏	普段	萱原	鮎	鮎	「しゃくり」「びんつけ」でアユを獲った。この方法は鑑札がいらない。
湖魚・川魚		普段	久徳	湖魚	鮎・モロコ・エビ・シジミなど	トロ箱に入れて松原から自転車でおばあさんが湖魚を2015年頃まで売りに来ていた。
湖魚・川魚		普段	久徳	鯉のあらい・鮒のあらい	鯉・鮒	家の裏の池に飼っていた。
湖魚・川魚		普段	久徳	鯉	鯉	甘辛く炊く。

参 考 資 料

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
湖魚・川魚		普段	久徳	鯉の煮つけ	鯉	甘辛く煮つける。
湖魚・川魚		普段	久徳	鯉こく	鯉・合わせ味噌	母乳の出が良くなる。元気になる。ご馳走。
湖魚・川魚	夏	普段	多賀	湖魚	湖魚	生の湖魚は自転車ですりに来ていた。
湖魚・川魚		普段	甲頭倉	湖魚	湖魚	バイクで2007年頃まで売りに来ていた。
湖魚・川魚		保存	久徳	ウロリの甘露煮	じゃこみたいなサイズ	芹川でバケツ一杯すくってきた。
湖魚・川魚		保存	甲頭倉	ドロ貝の佃煮	しょうがと砂糖、醤油で煮る。	彦根市船町が沼だった頃、採りに行った。
湖魚・川魚		保存	栗栖	佃煮	鮎・ゴリ・イサザ	山椒や梅干を入れて煮た。
湖魚・川魚	梅雨	保存	久徳	鮎の甘露煮	ザラメ・梅干・葉山椒を入れて炊く	冷たいタレから炊くと頭が取れない。
湖魚・川魚		普段	栗栖	モロコの炊いたの	モロコ	
湖魚・川魚		普段	富之尾	モロコ・鮎		売りに来た。
湖魚・川魚		普段	萱原	ウナギ	ウナギ	獲るのに鑑札はいらない。
湖魚・川魚		普段	久徳	ウナギ	ウナギ	芹川にしかけていた。
湖魚・川魚		普段	萱原	ムツ・オイカワ・カマツカ・アブラケ		天ぶらにした。
湖魚・川魚		普段	敏満寺	ドジョウ・タニシ	ドジョウ・タニシ	こちら辺の人は、寄生虫がついていると言って食べなかった。
湖魚・川魚		普段	多賀	湖魚の佃煮と大根を炊いたの	イサザ・ウロリ・カワエビ	荒神山近く浜街道にある川魚屋「いそだ」で佃煮を買ってきて大根と炊いた。
湖魚・川魚		普段	八重練	しじみの味噌汁	シジミ	殻は割って鶏に食べさせた。
湖魚・川魚		普段	八重練	かば焼き	ウナギ・鮎	芹川朝とってきて、鮎は炊いた。ウナギはかば焼きにした。
湖魚・川魚		普段	八重練	ニシン・鮎	ニシン・鮎	生のニシンやアユを、彦根・甲良の魚屋さんが売りに来ていた。
湖魚・川魚	夏	保存	萱原	鮎ずし	フナ・ごはん	彦根から漁師さんが塩漬のフナを持ってきて、ご飯を炊いておくと漬けてくれた。
湖魚・川魚	夏	保存	久徳	鮎ずし	フナ・ごはん	鮎のうろこを取り塩漬するまでが大変。古米のごはんを漬けるとよい。
湖魚・川魚	夏	保存	桃原	鮎ずし	フナ・ごはん	魚屋が鮎を売りに来た。
湖魚・川魚	夏	保存	敏満寺	鮎ずし	フナ・ごはん	家で漬けていた。
湖魚・川魚	夏	保存	甲頭倉	鮎ずし	フナ・ごはん	ご飯だけ炊いておくと魚屋さんが漬けてくれた。水替えが臭くて嫌だった。
湖魚・川魚	夏	保存	多賀	鮎ずし	フナ	愛知川のあたりでとれるものが、骨が柔らかかった。
湖魚・川魚	夏	保存	屏風	鮎ずし	フナ	ごはんは自宅で用意し鮎を注文していた。
湖魚・川魚	夏	保存	土田	鮎ずし	フナ	フナを購入して作っていた。
湖魚・川魚	夏	保存	入谷	鮎ずし		昔は魚屋さんが鮎ずしを漬けて来てくれた。
湖魚・川魚	夏	保存	多賀	ハスずし	ハス	ハスの鱗を取って洗って塩漬にしてなれずしにした。
湖魚・川魚	夏	保存	久徳	ハスずし	ハス・ごはん	鮎がないのでハスのメスを漬けていた。
湖魚・川魚			土田	イサザの佃煮	イサザ	高宮から売りに来た。
湖魚・川魚			土田	鮎佃煮・干す	鮎	芹川犬上川に取りに行く。
湖魚・川魚			藤瀬	佃煮・天ぶら	小鮎・ムツ・ウナギ	漁業権があった。
湖魚・川魚			佐目		アユ・イワナ・アマゴ	タモで採ったが、佃煮にするほどは取れなかった。
米・穀物		普段	久徳	白米	米	8人家族、朝1升炊いたのをおひつに入れた。
米・穀物			富之尾	ごはん		かまどは2口で片方は味噌汁を作っていた。
米・穀物		普段	大杉	カテメシ		白飯が食べられることはほとんどなく、おかゆや麦飯がよく食べられた。大豆・ジャガイモ・さつまいも・大根・大根葉を混ぜて雑炊にした。
米・穀物		普段	川相	ご飯	米	かまどで、中パツパしてきたら2分待ち、火のついた薪を隣のカマに移し蒸らす。
米・穀物	夏	普段	甲頭倉	茶粥	番茶でご飯を炊く	夏によく作った。おじいさんが保月でよく食べていた。
米・穀物	秋	普段	敏満寺	松茸ご飯	米・松茸	昭和20～30年頃、松茸がたくさんとれた。
米・穀物	秋	普段	敏満寺	サツマイモ飯	米・サツマイモ	ご飯の嵩を増やすため。
米・穀物		普段	甲頭倉	ご飯・お味噌汁・たくあん		自家製たくあんは酸っぱかった。すべて塩分は多かった。
米・穀物			後谷	麦		お米は買っていた。麦は少し作っていた。
米・穀物		普段	敏満寺	麦飯	麦・米	昭和20～30年頃、1反あたり半分しか家で食べられなかった。
米・穀物		普段	栗栖	麦飯	米・麦	
米・穀物		戦時中	萱原	麦飯・サツマイモ飯・大根飯		戦争の頃の食
米・穀物		戦時中	多賀	麦飯・サツマイモ飯・大根飯		戦争の頃の食
米・穀物		戦時中	樋田	ごはん・里芋		ご飯に里芋などを入れて食べていた。

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
米・穀物		農作業	大杉			田んぼ5反が大滝神社近くにあり、バスで通っている。嫁に来た頃は自転車通った。
米・穀物		普段	敏満寺	大根飯	大根・米	ご飯の量を増やすために、きんぴらのように大根を切って炊いていた。
米・穀物		普段	久徳	配給米	米	引き換えの紙を持っていないとお米がもらえなかった。お米の通帳を持って行った。
米・穀物		普段	敏満寺	粟餅	粟	日常の食ではないが、あった。
米・穀物		弁当	敏満寺	日の丸弁当	ご飯・梅干	1日4食。朝・11時・3～4時・夕食
米・穀物		農作業	敏満寺	クモ(コモ)オヒツ	ご飯	三升、ごはんのみ持って行った。
米・穀物		農作業	久徳	コオビル(おやつ)	おにぎり・芋をふかしたもの	
米・穀物		普段	藤瀬	米		自宅用より、出荷用の米の方が多かった。
米・穀物		普段	土田	米		自宅用だけに、うるち米ともち米を作っていた。
米・穀物		普段	樋田	米		樋田の古堂お米は山の水なので美味しい。
米・穀物		普段	土田	ごはん		お釜で祖父が炊いていた。火の仕事は男の人の仕事。一日一升
米・穀物		普段	保月	茶粥・麦ごはん		ごはんを1～2升炊いていたが、米がとれないので、茶粥にした。保月は茶粥が有名。ほうじ茶を茶袋に入れて、茶釜で炊き、そのお茶でおかゆさんを作った。
米・穀物		農作業	保月	麦		少し作っていた。とれたら麦を煎って粉にして、ハツタイ粉を作った。
米・穀物		農作業	保月	アワ		作っていた。
米・穀物			佐目	麦ごはん		時々白いご飯で、大麦・小麦が混ざっていた。麦は叩いて細かく砕いて入れた。大麦と小麦は山の上の陣屋で作っていた。
米・穀物			佐目	芋ごはん		
米・穀物		農作物	落合			米・麦はとれなかった。
米・穀物		農作業	水谷			朝5～6人家族で米1升炊いていた。潰し麦を入れて炊いた。ご飯とお味噌汁(豆腐のおつゆ)を炊いた。おこげのおにぎりはおかずがいらないくらい美味しかった。
米・穀物		農作物	水谷			米は自給自足していた。米は現在2軒だけが作っている。区画整理前は小さい田んぼでどの家も米を作っており牛も飼っていた。
米・穀物			入谷			ガス窯でご飯を炊いていた。
米・穀物			後谷	ごはん		畑のものが入った。麦ごはん。イボナ・オバコを混ぜご飯にした。サツマイモをサイコロに切って入れた。グリーンピースやコーラン(タカキビ)、小豆を混ぜた。アワ・ヒエ・ソバ・その他雑穀は無かった。
米・穀物		農作物	向之倉			田んぼはない。お米は水谷の米やさんで買っていた。雑穀は作ってなかった。
玉子		普段	敏満寺	玉子	玉子	贅沢品。1個をみんなで食べた。
玉子		普段	栗栖	玉子	玉子	ニワトリを飼っていた。
玉子		普段	栗栖	玉子焼き	玉子	
玉子			佐目			ニワトリは各イエで飼っていた。
玉子			落合			飼ったらダメだった。落合の人は落ち武者だったので、ニワトリが鳴くと人がいることがばれるので。川で洗い物をして箸など物を流すのもダメと言われた。
玉子			後谷			ニワトリを飼っていた。
団子			屏風	イバラ餅		ぼんがら餅のこと。
団子	6月頃	おやつ	甲頭倉	ガラタテ餅	ガラタテ(サルトリイバラ)	小麦粉に餡を入れて、がらたての葉にはさみ蒸す。
団子	7月頃	おやつ	桃原	ボンガラ餅	ボンガラ(サルトリイバラ)	挽き臼でひいた米粉を団子にし、家で炊いた粒あんを入れセイロで蒸す。
団子		おやつ	土田	ボンガラ餅	ガラタテ(サルトリイバラ)	小麦団子に粒あんが入っていた。祖母が作っていた
団子		おやつ	佐目	ボンガラ餅	ガラタテ(サルトリイバラ)	サルトリイバラで作る団子に餡は入らない。
団子		おやつ	川相	イガモチ	ボンガラ(サルトリイバラ)	米粉とメリケン粉を半々入れて団子にして、あんこを包む。
団子		おやつ	敏満寺	ユリコ団子	ユリコ(一番悪い米を粉にしたもの)	餅状にして蒸した。
団子		おやつ	藤瀬	ユリコ団子	ユリコ	ユリコを搗いて粉にし、耳たぶくらいの硬さに熱湯でこね、切漬液を入れて団子にしておふるの灰に入れて焼いた。
団子		おやつ	富之尾	ユリコ団子	ユリコ	ユリコは二番米のクズ米のこと。クズ米を団子にして中にキリモミ(赤カブぬか漬の葉を刻んだもの)を包んで、ホウライで焼いて食べた。蒸すこともあった。また、コンロにお風呂の熾き火を入れて焼いた。

参 考 資 料

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
団子		おやつ	水谷	ユリコ団子		粘り出して出た質の悪いお米を洗って乾かし、臼で搥り粉にする。ユリ粉に干しヨモギを入れんと美味しくないと。棒団子にして切る。網で焼くとええ匂いがしてくる。砂糖醤油で食べた。
団子		おやつ	多賀	棒団子(ユリコ団子)	乾燥ヨモギ	棒状にしたのを輪切りにして、金網で焼いて砂糖醤油で食べた。
団子		おやつ	敏満寺	お焼き	ユリコ団子・漬物(葉っぱのキリコ)	団子に漬物の葉を包んでおばあさんが焼いてくれた。
団子		おやつ	入谷	お焼き		中にカブラの葉などの漬物を入れた。
団子		おやつ	保月	焼き団子		漬物の葉っぱを刻んで小麦に包みホウライで焼いて食べた。
団子		おやつ	保月	よもぎ団子		米粉と餅粉が半々くらいの団子の中に保月の小豆を入れて包んだ。美味しかった。
団子		おやつ	後谷	よもぎ団子		米粉のも作った。
団子		おやつ	入谷	よもぎ団子	ユリコ	ヨモギ団子はユリ粉で作った。
団子		おやつ	佐目	チマキ		しょっちゅう作った。笹の葉を結ぶイグサも採ってきた。米粉に少し餅粉が入る。6月中旬のサロンで作った。
団子		おやつ	樋田	チマキ		行事に関係なく、笹葉(ササバ)が大きくなったら作っていた。米粉に塩を少し混ぜた。(紅鉢)ベニバチを使うほどたくさんは作らなかった。笹に包み、田んぼの水気のある所に生える草(イグサ)をクルクル巻いて、茹で、ちょっとお砂糖をつけて食べた。最近はない。
茶		保存	桃原	番茶	茶	昭和3~40年頃まで栽培していた。加工は旧愛東町妹でももらった。
茶	5月頃		富之尾	茶	茶	おくどさんの上のホウライで炒ってムシロに広げ、干して揉んだ。旧愛東町の妹(イモト)にお茶の組合があって、持って行ったものを加工してもらっていた。自分たちが飲む一年分を作っていた。出荷はしなかった。
茶			富之尾	茶	茶	田んぼにやかんを持って行って、山から引いた水を入れ、その場でお湯を沸かし摘んだお茶をそのまま入れて沸かして飲んだ。今で言うフレッシュハーブティーの感覚。イジゴの中に入れていった。
茶			保月	茶		保月で採れない。岐阜の時山から売りに来る。ホウライ・ホウロクで煎ってほうじ茶にする。
茶			佐目	茶		山仕事の時は、水筒は無く、山の奥にある美味しい水があり、土瓶と、行く途中のお茶を摘んで、お昼がきたら、土瓶にお茶を沸かして、生の茶葉を煮たてた。
調味料	冬	保存	栗栖	糶	糶菌・蒸した米	木綿の袋に入れて電気毛布にくるみ風呂敷に包んでさらに敷き布団に包み温度を保った。
調味料	1~2月	保存	久徳	味噌	糶・大豆・塩	月之木で糶菌を買ってきた。テゴに入れてお風呂のあとのお湯で発酵させた。
調味料	3月	保存	大杉	味噌	糶・大豆・塩	糶菌を川相の田辺さんで買ってきて、米糶作りも家でした。3月の天気のいい日に作った。
調味料	冬	保存	多賀	味噌	糶・大豆・塩	敏満寺の糶屋さんで糶を買って作っていた。大豆も作っていた。
調味料	冬	保存	壹原	味噌	糶・大豆・塩	大豆も糶も家で作っていた。冬の間納戸でねかせていた。
調味料	冬	保存	大杉	味噌	糶・大豆・塩	味噌桶の一斗樽があった。ミソタキ
調味料	冬	保存	栗栖	味噌	大豆5~6升	臼に茹でた大豆を入れて杵でつぶして混ぜる。
調味料	冬	保存	甲頭倉	味噌	糶・大豆・塩	大豆も糶も多賀で買っていた。大豆を煮て杵でついた。大きな桶に敷き詰めて蔵に入れた。
調味料	冬	保存	屏風	味噌	糶・大豆・塩	味噌豆を作っていた。糶は月之木の糶屋さんで購入していた。
調味料	冬	保存	土田	味噌	糶・大豆・塩	大豆は作り、糶は祖母が作っていた。
調味料	冬	保存	落合	味噌		大豆を作って、イエで味噌も作っていた。
調味料	冬	保存	入谷	味噌		味噌は家で作っていた。大豆や糶は彦根で買っていた。
調味料	冬	保存	保月	味噌		大豆は作っていた。麴は彦根に炭を売りに行って買ってきた。大きい人が入るサイズの樽に作った。大釜で3日かかって味噌を仕込んだ。此の下に樽を置いて保存した。
調味料	冬	保存	後谷	味噌		大豆をつくっていた。糶菌は彦根で買ってきて、糶から作っていた。しおは配給があったが、彦根に買いに行っていた。ケープルに買ったものをのせて内緒で運んでいた。
調味料	冬	保存	水谷	味噌		糶のもとを買ってきてご飯を蒸して冷まし、糶のもととジュウに入れて包んでお布団をかけて、豆炭炬燵で保温して発酵させた。大豆は畦に植えていた。
調味料		保存	向之倉	味噌		お味噌は作っていたが、大豆は作っていたかどうか分からない。
調味料		保存	樋田	味噌		大豆は田んぼの端、糶も作っていた。2月の大寒のころ、大きいツボに1年分作っていた。
調味料		保存	久徳	醤油		作っていた。
調味料		保存	多賀	醤油		敏満寺の醤油屋さんから樽で買っていた。
調味料		保存	土田	醤油		敏満寺の醤油屋から樽で飼っていた。
調味料		保存	甲頭倉	醤油		敏満寺の醤油屋さんや、彦根から樽で買っていた。
調味料		保存	八重練	醤油		醤油屋さんがあり定期的に家にある醤油樽に補充されていた。

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
調味料		保存	向之倉	醤油		原の三宅さんが醤油を売りに来ていた。酒は桂さん。
調味料		保存	樋田	醤油		買っていた。
調味料		普段	栗栖	お味噌汁		おかずが贅沢になかったころ、鍋にいっぱい炊いてご飯を2〜3杯食べた。
肉		普段	敏満寺	ニワトリ	ニワトリ	つぶして食べた。
肉		普段	桃原	ニワトリ	ニワトリ	玉子が取れなくなると食べた。
肉		普段	桃原	ウサギ	ウサギ	戦後食料品が無かった時、罟を仕掛けて捕まえた。
肉		普段	桃原	ウサギ	ウサギ	ワナをしかけた。鶏と同じようにさばぎ、煮て食べた。
肉		普段	河内下村	イノシシ	イノシシ	猟師をしていたのでたまにあった。
肉		普段	桃原	イノシシ	イノシシ	落とし穴に落ちたのを、集落のみんなで分けて食べた。
肉			藤瀬	イノシシ		
肉			佐目	イノシシ		ドラム缶で罟を仕掛けて二頭捕まえ、一頭は食べて、一頭は飼った。
肉	冬	普段	萱原	イノシシ・シカ	シカ・イノシシの肉	冷蔵庫が無いので冬期だけあった。
肉			河内下村	牛肉	牛肉	子どもの頃は、年1回くらいの贅沢であった。
肉		特別	桃原	すき焼き	牛肉	タバコやゴボウが売れた時
肉			佐目	豚		小学校1〜2年の頃飼っていた。東谷でおじいさんが豚の餌を畑で作った。
肉			後谷			お肉は彦根で買ってきた。イノシシが出たが、シシ肉は食べなかった。動物の肉で食べたのはニワトリくらい。親戚が集まった時はすき焼きをした。
弁当		弁当	佐目			とにかく食べるものが無かった。腹が減って仕方がなかった。真鍮のお弁当箱を持って行ったが、うまいものは無かった。白いご飯の人は半分もいなかった。3分の1が白い米で後は大麦で、麦ばっかりのごはんだった。
弁当		弁当	入谷			白いごはんに、チクワやサバ、鮎を入れていた。魚屋さんが行商に来ていた。
弁当		遠足	樋田	巻きずし		巻きずしだった。ほうれん草、かんぴょう、シイタケ、ニンジンが入っていた。
弁当		普段	樋田			小学生のころ、冬の寒い時は、箱の下に炭をいこして（燻して）ヤカンの蒸気でアルミの弁当箱を温めてくれた。お弁当には大根の炊いたのや、里芋が入っていた、魚はよばれたことがなかった。
麦		おやつ	多賀	そうめん	そうめん・砂糖	そうめんに砂糖をまぶして、フライパンで煎ったモノを食べた。
麦		おやつ	屏風	ふなやき		
麦		おやつ	藤瀬	ふなやき	小麦粉・砂糖	フライパンで焼いた。
麦		おやつ	富之尾	ふなやき	小麦粉・砂糖	
麦		おやつ	入谷	ふなやき		メリケン粉（小麦粉）に砂糖と塩を少し入れて焼き、そのまま食べた。
麦		おやつ	萱原	ふのりやき（ふなやき）	石臼でひいた自家製小麦粉	小麦粉と砂糖を水で溶かし、薄く焼いて丸める。
麦		おやつ	樋田	ふのりやき（ふなやき）		ふのり焼きと言った。小麦粉と、砂糖とお塩を入れて焼いた。米粉でも作った。フライパンで焼いてもらい四等分したものを、遠足のおやつに持って行った。
麦		おやつ	水谷	ふなやき団子		小麦？米？団子にサツマイモをさざんで包みホウライで焼いた。
麦		おやつ	佐目	あられ団子	小麦粉	ゴボウ状に細長くのばした小麦粉団子を、輪切りにして、炒って食べた。
麦		おやつ	佐目	イリコ（はったいこ）		小麦粉を臼で挽いて、お湯で溶いて砂糖を少し入れた。
麦		おやつ	水谷	イリコ（はったいこ）		ホウライで小麦を煎ってもらい、栗栖の車屋に持って行って挽いてもらった。イリコは缶に入れてもらい、おやつに粉を飛ばしながら食べるのが楽しみだった。
麦		おやつ	入谷	イリコ（はったいこ）		
麦		おやつ	多賀	はったいこ	自家製の粉	粉のまま紙の上において食べた。
麦		おやつ	藤瀬	はったいこ		子供のころによく買ってもらった。
麦		おやつ	富之尾	はったいこ		お湯で溶いて食べた。広告の紙に包んで、砂糖を入れねぶった（紙めた）。椿の葉にのせて食べたこともあった。
麦		おやつ	後谷	はったいこ		
虫		宿題	敏満寺	イナゴの粉末	イナゴ	昭和3〜40年頃まで宿題としてイナゴを学校に持って行った。大鍋で茹で、ムシロの上で乾燥して粉末にしていた。味噌汁に入れたり、ふりかけにして食べるなどしていた。
餅	1月	おやつ	萱原	かき餅	餅	カビないように正月が明けてから作り、縄に編んで干し2〜3月頃に食べた。
餅	1月	おやつ	敏満寺	かき餅	正月についた餅	わらで編んで室内につるした。
餅	冬	おやつ	桃原	かき餅	7〜8升餅をつく。砂糖・塩・みかん・豆・	里芋をすって入れる。山仕事におやつに持って行った。

参 考 資 料

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
餅	冬	おやつ	多賀	かき餅	黒豆・大豆	のして、わらで編んで家の中で陰干した。
餅	冬	おやつ	久徳	かき餅	砂糖・青のり・干しエビ・ゴマ	縄で編んで干す。お多賀杓子で膨らまないように押さえて七輪で焼いた。
餅	冬	おやつ	八重練	かき餅	黒豆・ゴマ・山芋	
餅		おやつ	佐目	かき餅		冬の間のおやつ
餅		おやつ	水谷	かき餅		12月に5白ほど作った。豆・ゴマを入れ、また色粉で赤く染めた。短冊に切った餅を藁で編み軒下に干し、乾燥したら一斗缶に入れて保存する。田植えの時など、前の晩にお風呂の残り火であぶり、缶に入れて田んぼに持って行った。
餅		おやつ	水谷	あられ		餅に里芋を入れて搗いた。天日干しする。
餅		おやつ	土田	あられ・かき餅	もち米	
餅		おやつ	樋田	あられ・かき餅	もち米	冬はカキモチとアラレを焼いてもらい、学校から帰ってくると、布でできた巾着袋に入れて遊びに行った。
餅	冬	おやつ	萱原	あられ	餅	餅をつくとき、里芋をすって入れるとふわりした。
餅	冬	おやつ	敏満寺	あられ	餅	むしろの上に干した。醤油で味付けした。
餅	冬	おやつ	久徳	あられ・揚げ餅	餅	お鏡さんを干した。砂糖でからめる。
餅		おやつ	後谷	あられ・かき餅	餅	正月の餅つきとは別に、何回も木臼でついた。何回も木臼を使うのでそこがすり減っている。
餅	冬	おやつ	桃原	あられ	餅	サイコロ状に切る。アラレ煎り、七輪で煎る。
餅		おやつ	多賀	銭あられ	キビ・粟（家で作っていた）	棒状にして輪切りにし、おくどさんで出来たオキを七輪に入れ、じっくり煎った。
餅		おやつ	水谷	団子のかき餅	米粉・餅粉	米粉に餅粉を少し入れて搗いたものをジュウ（バンジュウ）に入れてのばしておく。硬い団子をカンナでついて切った（薄くスライス）。
餅	1月	おやつ	大岡	角餅の砂糖醤油付け	餅	子どものおやつ
餅		おやつ	水谷	こわ餅	もち米・うるち米	もち米とうるち米を半々混ぜてヨモギを入れてつく。餡が入る。4月は新よもぎ、9月は先を摘んだヨモギを使う。正月は干しヨモギを使う。
餅		おやつ	後谷	切り餅		ヨモギを入れた。
薬草	夏休み	宿題	桃原	ジュウヤク（ドクダミ）・ヨモギ	ジュウヤク（ドクダミ）・ヨモギ	小学校の夏休みの宿題で、乾燥させて学校に持って行く。PTAの取入だった。
薬草	夏休み	宿題	敏満寺	ジュウヤク（ドクダミ）・ヨモギ	ジュウヤク（ドクダミ）・ヨモギ	売って学校の教材費になっていた。家では使わなかった。
薬草	夏休み	宿題	敏満寺	ゲンノショウコ	ゲンノショウコ	干して飲んでた。学校にも持って行った。
薬草	夏休み	宿題	桃原	アマチャヅル	アマチャヅル	杉の木の下にある。
薬草	夏休み	宿題	入谷			ジュウヤク・ゲンノショウコ・セミの殻・蛇の抜け殻も持って行った。
野菜	冬	普段	川相	大根を炊いたの	大根	
野菜	秋・冬	保存	栗栖	干し大根	大根	丸く切って保存した。
野菜	冬	保存	栗栖	たくあん漬	大根	
野菜			土田	たくあん	大根	竿に大根が並んでいた。
野菜			土田	赤カブ漬物	赤カブ	昔は有名でなく、なかった。
野菜	12月	保存	久徳	田舎漬	大根	米ぬか、塩、くず豆、なすの葉、干し柿の皮を混ぜたぬか床に漬ける。3月頃から食べる。
野菜	秋	保存	敏満寺	大根・かぶらの漬物	大根	
野菜		保存	桃原	漬物	山田大根	漬物用に栽培していた。
野菜		保存	向之倉	漬物	大根	大根は漬物にした。
野菜		保存	屏風	漬物		タクワン・赤カブ・梅干し・ラッキョウ・新ショウガ・カブラの葉のぬか漬けを作っていた。
野菜		保存	八重練	ぬか漬	大根・ぎゅうり	
野菜		保存	樋田	ぬか漬	大根・赤カブ	糠漬は一年分押しておく。漬けて後になったら、ヘドクの味噌（よくない豆）を生そのままぬか床に入れた。漬物は刻んで鉢に入れておく。大根・赤カブ（ユルギカブ）、白いカブラを漬けた。カブラは一年持たない。白いカブラはおつゆに入れることが多い。
野菜			保月	大根		冬の間は、大根しかない。床の下に穴を掘って大根や小芋を保存した。8月頃に種をまいて秋にとれる大根は、すべて冬中に食べるためのもの。秋に大根を大きい樽にいくつも漬ける。
野菜			佐目	大根・カブラ		イエで漬けた、大根やカブラなどの漬物。赤カブもあったが、品種までは分らない。
野菜			保月	赤カブ		芯まで赤い・葉は青い。
野菜			保月	赤カブ		段々畑で作っていた。
野菜	秋	保存	桃原	赤カブ・白菜の漬けもの	赤カブ・白菜	ぬか、唐辛子で漬ける。
野菜	12月頃	普段	川相	千枚漬	カブラ・昆布	

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
野菜		普段	栗栖	紅ショウガ	ショウガ・梅酢	
野菜		普段	大杉	ナナメシ	カブラの漬け物	漬物をご飯に混ぜた。
野菜	夏	保存	栗栖	奈良漬	スイカ・ウリ・酒粕	たくわん漬けにしてから奈良漬にした。
野菜		保存	土田	奈良漬	ウリ・キュウリ	酒粕は、南出にある清水酒店で購入していた。
野菜	夏	保存	藤瀬	ずばら漬(粕漬)	酒粕・砂糖(ザラメ)・塩	きゅうり・ナス
野菜		保存	藤瀬	ドボ漬(ぬか漬)		
野菜		保存	入谷	ドボ漬(ぬか漬)		キュウリ・ナス・大根・ゴボウ・人参も漬けた。お漬物は軒下に置いていた。
野菜		保存	後谷	ドボ漬(ぬか漬)		大根・ナス・キュウリ・カブラ
野菜	冬	保存	藤瀬	切り漬	大根・カブラ	刻んで塩でもむ。
野菜		普段	樋田	ぜいたく煮	たくあんの古漬	古漬は贅沢煮にする。
野菜		普段	川相	ぜいたく煮	たくあんの古漬	
野菜		普段	久徳	ぜいたく煮	たくあんの古漬	古漬のたくあんを塩抜きして炊く。
野菜		普段	桃原	ぜいたく煮	たくあんの古漬	たくあんの古漬を塩抜きして、醤油・砂糖・みりん・で炊く。
野菜		普段	栗栖	ぜいたく煮	たくあんの古漬	
野菜		普段	八重練	ぜいたく煮	たくあんの古漬	塩を抜くために何度も洗って水につけ、煮て醤油やだしで味付けをした。
野菜		普段	土田	ぜいたく煮	たくあんの古漬	たくあんでたべることより、ぜいたく煮にすることが多かった。
野菜	秋	普段	八重練	ゴボウ	ゴボウ	屏風から売りに来ていた。油揚げと醤油で味付けていた。
野菜	冬	普段	桃原	ゴボウ	お多賀ゴボウの出荷できない太いもの	4～5cmの輪切りにして茹で、醤油・砂糖・ゴマ・酢などで味付けした。
野菜		農作物	屏風	ゴボウ		京都の市場にごぼうを売って米と交換した。
野菜		農作物	落合	ゴボウ		
野菜		農作物	藤瀬	ゴボウ		
野菜		農作物	保月	ゴボウ		美味しいごぼうがとれた。
野菜		農作物	入谷	ゴボウ		リヤカーにのせて彦根に売りに行った。一日仕事だった。
野菜			土田	ズイキの酢漬	赤ズイキ	産後に食べると良いと言われた。
野菜		保存	後谷	ズイキ		干して保存。戻して炊いた。
野菜			土田	ネブカ(ネギ)味噌	青ネギ	ネギをすり鉢ですり、砂糖とみりんで作る。豆腐田楽に使う。
野菜			保月	タイナ		ジャクシナに似ているが違う・保月だけにあった。お漬物は、タイナから先に食べる。
野菜		農作物	水谷	畑の作物		里芋・ジャガイモ・サツマイモ・かぼちゃ・大根・カブラ・白いキクメロン・カンピョウ
野菜		農作物	入谷	畑の作物		大根(冬大根)・白菜・人参(金時人参はあまりできなかった)・ジャガイモ・サツマイモ・小芋・ゴボウなど野菜は自給していた。山の奥、歩いて1時間ほどの所に畑があった。
野菜		農作物	後谷	畑の作物		石を積んで山の斜面に畑を作った。集落の周辺、山の中腹まで畑だった。ゴボウ・菜種・そのほか、一般の家で食べるものを作っていた。屏風はトマトを出荷していたが、日照時間が少なくてできない。
野菜		農作物	向之倉	畑の作物		野菜はちょっと離れた斜面で畑を作っていた。芋・かぼちゃ・大根・ゴボウなど作っていたが、出荷することはなかった。戦後、トマトやキュウリも作っていた。かぼちゃは植えていたからできる。家の下に穴を掘って保存した。
野草・山菜	初夏	普段	栗栖	フキを煮たもの	フキ	クサフキを家の周りから採ってきて昆布や山椒と炊いた。
野草・山菜	4月頃	普段	桃原	とうぶきの煮物	トウブキ	筋をとって煮物にする。
野草・山菜	4月頃	保存	桃原	山フキの佃煮	山フキ	
野草・山菜	4月頃	保存	久徳	草フキの佃煮	草フキ	山や芹川に採りに行った。昆布、山椒の実を入れ醤油で炊く。
野草・山菜	4月頃	保存	甲頭倉	山フキの佃煮	山フキ	山椒の実、葉と醤油だし、酒で炊く。
野草・山菜	4月頃	普段	敏満寺	フキの佃煮	フキ	山の親戚が持ってきた。
野草・山菜		保存	川相	フキ	フキ	
野草・山菜	4月頃	保存	久徳	ふき味噌	フキノトウ	川の石垣で採ってきた。茹でてみりん味噌であえる。
野草・山菜	3月頃	普段	栗栖	フキ味噌	フキノトウ	生のまま刻んでゴマ油で炒め、味噌と和える。
野草・山菜	3月頃	普段	栗栖	フキノトウの天ぷら	フキノトウ	
野草・山菜	3月頃	普段	藤瀬	フキノトウの佃煮	フキノトウ	ササメ昆布、山椒の実を入れて炊いた。
野草・山菜	3月頃	普段	土田	フキ味噌・天ぷら	フキノトウ	湯通しして刻み砂糖・みりん炊いた。
野草・山菜	5月頃	普段	土田	フキ煮	草フキ・トウブキ	皮をむき薄味で炊く。
野草・山菜	5月頃	保存	敏満寺	山椒の佃煮	山椒	家に山椒の木があった。実・葉・花、それぞれ炊いた。
野草・山菜	5月頃	保存	甲頭倉	山椒の佃煮	山椒	最近鹿に傷つけられて急に枯れて採れなくなった。
野草・山菜	5月頃	保存	入谷	山椒の佃煮	山椒・実	醤油だけで炊いて保存する。

参 考 資 料

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
野草・山菜	5月頃	保存	久徳	山椒味噌	山椒	実は茹でてから保存するとはじけない。
野草・山菜	5月頃	保存	土田	山椒味噌	山椒	葉をすり鉢ですり、味噌と砂糖、みりんで炊いた
野草・山菜	5月頃	保存	土田	実山椒	実山椒・シイタケ・昆布	シイタケと昆布と炊く。
野草・山菜	春	保存	栗栖	山椒味噌	山椒の葉	生の葉をすり鉢ですり、砂糖と味噌を入れる。
野草・山菜	4月頃	普段	萱原	酢味噌和え	ノビル	葉や球根を茹でて酢味噌和えにする。
野草・山菜			保月	ネンブリ・ノノヘリ	ノビル	味噌和え・酢味噌和えにした。じゃがいもとおつゆと炊いた。
野草・山菜	4月頃	普段	屏風	ノビル	ノビル・味噌	味噌につけて食べる。
野草・山菜	5月頃	保存	藤瀬	ゼンマイ	ゼンマイ	天日干しで乾燥させて保存した。
野草・山菜	5月頃	保存	川相	ゼンマイ	ゼンマイ	
野草・山菜	5月頃	普段	桃原	ゼンマイの煮物	ゼンマイ	乾燥保存のゼンマイと大豆を、醤油砂糖みりんで炊く。
野草・山菜	5月頃	普段	甲頭倉	ゼンマイの煮物	ゼンマイ	湯がいて灰をまぶして天日干しし、保存する。
野草・山菜		普段	川相	ゼンマイの白和え	ゼンマイ	
野草・山菜	4月頃	保存	富之尾	ゼンマイ		塩漬け保存する。
野草・山菜			保月	ゼンマイ		5月にとって、ゆがいてムシロにいっぱい広げて干し、缶に入れて保存する。女の人の仕事。京都や大阪から来た人のお土産にした。醤油で煮る。法事などで必ず出す。
野草・山菜			入谷	ゼンマイ		乾燥させて保存した。
野草・山菜			向之倉	ゼンマイ・ワラビ		保存食
野草・山菜			樋田	ゼンマイ・ワラビ		畑に蕨が出てくる。木灰を入れてお湯をかけ一晩おく。お浸しにもしたが、二杯酢で炊くと美味しい。ゼンマイは乾燥させた。
野草・山菜	5月頃	普段	萱原	ワラビの煮物	ワラビ	
野草・山菜	5月頃	普段	桃原	ワラビのおひたし	ワラビ	灰であく抜きし、熱湯をかける。茹でておひたしにした。
野草・山菜	5月頃	保存	川相	ワラビ	ワラビ	灰にまぶしてお湯をかける。おからと塩半々に混ぜたのに漬ける。軽く押しして保存。
野草・山菜	5月頃	普段	八重練	ワラビ	ワラビ	熱いお湯に一晩浸し、鰹節と醤油で煮た。
野草・山菜	5月頃	普段	藤瀬	ワラビ	ワラビ	灰とお湯であく抜く。
野草・山菜	4月頃	保存	富之尾	ワラビ		塩漬け保存する。
野草・山菜	5月頃	普段	甲頭倉	コゴミの天ぷら	コゴミ(クサソテツ)	湿った所に生える。
野草・山菜	5月頃	普段	甲頭倉	コゴミの煮物	コゴミ(クサソテツ)	湿った所に生える。油揚げと炊く。
野草・山菜	5月頃	普段	藤瀬	コゴミ	コゴミ	10年くらい前から食べるようになった。
野草・山菜	5月頃	普段	栗栖	天ぷら	コゴミ・ユキノシタ・露の壘・ミョウガ	猿は、フキノトウを食べない。
野草・山菜	5月頃	普段	甲頭倉	ウドの二杯酢	ウド	醤油と二杯酢に漬け込む。
野草・山菜	4月頃	普段	萱原	イタドリ煮	イタドリ	塩漬け保存する。ニンシ・油揚げ山椒の実、葉と炊く。
野草・山菜	4月頃	普段	甲頭倉	イタドリ煮	イタドリ	塩漬け保存する。アゲと炊く。
野草・山菜	4月頃	普段	大杉	イタドリ煮	イタドリ	糠と塩漬け保存。ニンシ、山椒と炊く。
野草・山菜	4月頃	保存	川相	イタドリ煮	イタドリ	
野草・山菜	4月頃	保存	桃原	イタドリ煮	イタドリ	塩漬け保存する。ニンシと炊く。
野草・山菜	4月頃	保存	藤瀬	イタドリ煮	イタドリ	ぬか漬け保存したものを谷水でケダシして塩分や酸味を抜き水でよく洗ってから煮る。
野草・山菜	4月頃	保存	樋田	イタドリ煮	イタドリ	節を漬してイタドリ煮にする。湯をさっとくぐらせて(ゆがいたらダメしゃぶしゃぶとする程度)、ぱっと色が変わったら水にさらす。ニンシと炊くと美味しい。イタドリはいっぱい塩漬けにした。
野草・山菜	4月頃	普段	敏満寺	イタドリ	イタドリ	食べるのは子どもだけ。学校帰りのおやつ。
野草・山菜	4月頃	普段	屏風	イタドリ	イタドリ	皮をむいて塩をつけて食べる。
野草・山菜	4月頃	保存	後谷	イタドリ	イタドリ	塩漬け保存・干して保存 戻して炊いた。
野草・山菜	4月頃	普段	川相	イタドリのドロ酢	イタドリ	茹でて酢味噌(ドロ酢)で和える。
野草・山菜	4月頃	普段	桃原	おつゆ	イタドリ	おつゆの実にする。
野草・山菜	4月頃	普段	大岡	イタドリ	イタドリ	塩を付けてそのまま食べた。
野草・山菜	4月頃	普段	八重練	イタドリ	イタドリ	皮をむいて、水をかえてあく抜き、ニンシと炊いて佃煮にする方法を大滝の人に教えてもらった。
野草・山菜			佐目	イタドリ煮	イタドリ	一束採ってきて、固めにゆがいてもらう。その後水に浸けてケ(アケ)を抜く。それから炊いた。
野草・山菜	4月頃	保存	富之尾	イタドリ		塩漬け保存する。
野草・山菜			向之倉	イタドリ		保月に行くときイタドリを保存して料理してくれたのが美味しかった。向之倉ではイタドリの料理は作らなかった。
野草・山菜	4月頃	普段	萱原	おひたし・味噌和え	ピリンソウ(ヤブカンゾウ)	春出始め15cmくらいの葉を茹でる。
野草・山菜	4月頃	普段	久徳	ほうこ団子	ほうこ(ハハコグサ)	ヨモギ団子よりおいしい。のし餅に入れた。
野草・山菜	4月頃	普段	桃原	タラの芽の天ぷら	タラの芽	

	時期	行事等	地区	食の名称	食材	説明
野草・山菜	4月頃	普段	藤瀬	タラの芽の天ぷら	タラの芽	シカや町から来た人に取られてない。
野草・山菜	4月頃	普段	屏風	タケノコ		あく抜きするときヌカか米のとぎ汁を使う。
野草・山菜	4月頃	保存	富之尾	タケノコ		五月に採れたのを、生のまま塩とコヌカ（米ぬか）に漬けて保存する。瓶詰めする人もいる。冬に食べられる。
野草・山菜	4月頃	保存	富之尾	フキ		塩漬け保存する。
野草・山菜	4月頃	保存	富之尾	山椒の佃煮		
野草・山菜			佐目	粒山椒	実山椒・シイタケ・昆布	粒山椒は冷凍して置いておく。
野草・山菜	4月頃	普段	屏風	草フキの佃煮		昆布と山椒で炊いた。
野草・山菜	4月頃	普段	屏風	タンポポ		茹でて塩で味付けするか、おひたしにした。
野草・山菜		普段	屏風	よもぎ餅・よもぎ団子	よもぎ	
野草・山菜			後谷	よもぎ	よもぎ	お餅に入れる。乾燥させて保存した。
野草・山菜		普段	屏風	ミョウガ酢漬け・泥酢	ミョウガ	
野草・山菜	夏	普段	栗栖	ミョウガの酢の物	ミョウガ	
野草・山菜	5月頃	保存	桃原	ミョウガダケの味噌醤油	ミョウガダケ	ミョウガのジクを生のまま刻んで味噌醤油に（出身地山形の料理）つけた。
野草・山菜			後谷	イボナのお浸し	イボナ（ハナイカダ）	おひたしにして食べた。
野草・山菜	5月頃？	保存	萱原	イボナ煮	イボナ（ハナイカダ）	葉を蒸して干し保存する。野菜が少ない冬になったら山椒の葉と炊く。
野草・山菜			後谷	セリ・三つ葉		おひたしにして食べた。
野草・山菜	6月頃	保存	萱原	竹の皮	真竹のタケノコ	皮を採り洗って干し、小学生は売って小遣いにした。
野草・山菜		保存	水谷	よもぎ	よもぎ	新ヨモギを摘んだら灰のアクで湯がき洗って干し、缶に入れて保存する。
野草・山菜			入谷	タラの芽・山椒		タラの芽・山椒はある。ワラビとゼンマイは昔から採れなかった。
野草・山菜			後谷			松山にイチゴの一種があった。胡桃・むかご・栗・アケビ・自然薯・ユキノシタ・イワナシ・イタドリ・野イチゴ・ワサビ・トチは無い・ガヤ（樺）は食べる（地蔵さんの所にあった）・柿
野草・山菜			向之倉			コゴミあまり知らないツクシ食べない。山椒は、葉も粒も使った。ムロの山に自然生えの山椒を取りに行った。フキは大きいのは作っていた。筍は村のまわりにあった。
			樋田	きゅうちゃん漬	キュウリ	塩で押してきゅうちゃん漬にした。

参 考 資 料

表 11-14 町内各地区の方言①

品詞	標準語	地区	方言
名詞	アブラハヤ		アブラケ
名詞	べたべたの雪		あまちゃ
名詞	小豆	大杉	あるき
名詞	小豆粥	萱原	アルキナユ
形容詞	大きい	落合	いかい
名詞	サンキライの葉で包んだ餅	多賀・敏満寺・河内・八重練・樋田・土田・桃原・佐目・入谷	ぼんがら餅
名詞	サンキライの葉で包んだ餅	川相	イガモチ
名詞	サンキライの葉で包んだ餅	富之尾・屏風	イバラ餅
名詞	サンキライの葉で包んだ餅	保月	ガンタチ餅
名詞	サンキライの葉で包んだ餅	水谷	ガンバラ団子
名詞	サンキライの葉で包んだ餅	多賀・甲頭倉	ガラタテ餅
名詞	サンキライの葉で包んだ餅	栗栖	ぼんがら団子
名詞	石	落合	いしな
名詞・動詞	石を投げる	落合	いしなをうつ
動詞	帰る	落合	いね
名詞	ハナイカダ	萱原	いばな
動詞	うずめる	栗栖	うずんで
名詞	ギボウシ	大杉	ウルイ
名詞	和え物	向之倉・川相	オアイ
形容詞・名詞	ひどい草むら	落合	オオグサワラ
名詞	おかゆ	川相	おかいさん
動詞	傾く	栗栖	かたげる
名詞	コゴミ	藤瀬	カッコゼンマイ
名詞	草むら	落合	ガッサワラ
名詞	冬瓜		かもうり
名詞	カヤ(櫃)	萱原	ガヤ
名詞	丸のこぎり	落合	ガンド
名詞		水谷	菊メロン
動詞	頑張った		きばらはった
名詞	葉っぱの切り漬け		きりもみ
名詞	葛	藤瀬	クツワフジ
動詞	塩抜き・あく抜き		ケダシ
形容詞	うらやましい	落合	けなるい
名詞	お坊さん		ごえんさん
名詞	間食		こおびる
形容詞	小さい	落合	こまかい
名詞	ごぼう		ごんぼ
名詞	灰汁		ザンミ
名詞	麴蓋	甲頭倉	じゅう
名詞	ふなやき	木曾	じゅうびしゃん
名詞	白和え	川相	シライ
動詞	吸う	藤瀬	スワボル
名詞	頂戴	落合	たい
名詞	水源	落合	タイエ
名詞	シャクシナのような野菜	保月	タイナ
名詞	小芋		タイモ
名詞	稲刈り	久徳	たかり
名詞	カマツカ	萱原	ダンギリボ・スナホジリ
名詞	干し柿		つるんぼし
動詞	手伝い		てったい
名詞	ぬか漬け		どぼずけ・おどぼ
名詞	酢味噌		泥酢
名詞	菜刀	落合	ナガタン
名詞	包丁	落合	ナガナタ
名詞	七草	萱原	ナミノ

品詞	標準語	地区	方言
形容詞	暖かい		ぬくとい
名詞	家	落合	ネエ (上の家・上ネエ)
名詞	ネギ	土田	ネブカ
名詞	ノビル	保月	ネンブリ・ノノヘリ
名詞	のこぎり	落合	ノコテ
名詞	さわし柿	川相	はちかんざき
動詞	歯に挟まる	落合	歯にはざかまる
名詞	ヤブカンゾウ	萱原	ピリンソウ
動詞	捨てる		ふてる
名詞	ふなやき	川相・萱原・大杉	ふのりやき
名詞	インゲン豆	久徳	ブンドマメ
名詞	良くない豆	樋田	ヘドクの豆
名詞	ヒル (ヤマビル)		ヘル
名詞	ハハコグサ	久徳	ほうこ
名詞	畔		ホタ
名詞	さわし柿	栗栖	ぼんがき
名詞	饅頭		饅頭ほっかい
動詞	茹でる	落合	ゆぶく・ゆがく
形容詞	気持ち悪い	落合	よぞくろー
形容詞	気持ち悪い	落合	よぞくろしい
名詞	寄合		よびし・よび衆・正月よび・おせちよび・お茶よび・女よび
名詞	宵宮	栗栖	よみや
名詞	薪		割り木・かなぎ

表 11-17 町内各地区の方言②

方言		意味	方言		意味
あ	あいさ	間 (あいだ)	き	キクメロン・菊メロン	果は純白色で菊座型、縦に約 10 条程の縞が入っているメロン
	あいまち	過ち		ぎつとな	きっちりした・融通が利かない・頑固な
	アブラケ	アブラハヤ		きばらはった	頑張った
	あまちゃ	べたべたの雪		きばる	がんばる・力む
	あるき	小豆		ぎばぎば	すっきりしない・どうにかこうにか
	アルキナユ	小豆粥		きゅつきゅつ	ぎゅうぎゅう
	あわいさ	あわい (間)		きりもみ	葉っぱの切り漬け
	いかい	大きい		きんの	昨日
	イガモチ	サンキライの葉で包んだ餅		食うのは食わんけど	食べない
	行きしな	行く途中		くさぐさ	ゆるい・ぐらぐらする
	いしな	石		くっすんべ	すかし屁
	いしなをうつ	石を投げる		クツワフジ	葛
	いなう	担う・荷う・になう		ケダシ	塩抜き・あく抜き
	いぬ	帰る・行ってしまふ		けなるい	うらやましい
	いね	帰る		ごえんさん	お坊さん
	イバラ餅	サンキライの葉で包んだ餅		ごえんさん	ご住職
	いぼな	ハナイカダ		こおびる	間食
	いんで	帰って・戻って		ござる	来られた・お見えになる
	ういこと	憂いこと・気の毒		こすい	賢い
	うずんで	うずめる		こせばい	少し狭い
	うたてい・うたて	申し訳ない		ごそわら	笹や少し背の高い草の原っぱ
	ウルイ	ギボウシ		こっぺり	全部
	オアイ	和え物		こまかい	小さい
	おいね	年上女房		こらえてな	ごめんな・勘弁して
	おいねる	背負う		ごんた	無理を言ってすねること・手に負えない悪ガキ
	オオグサワラ	ひどい草むら		ごんぼ	ごぼう

参 考 資 料

方言		意味	方言		意味
お	おかいさん	おかゆ	さ	さんまい	火葬場
	おし	味噌汁		ザンミ	灰汁
	おしゃべ	お喋り		しがんだ	痛いとき、苦しいとき顔をくしゃくしゃにする時「しがんだ顔」
	おじょ	幼い女の子		しなはれ	しなさい
	おぞい	みずばらしい		しまつしい	儉約・質素・しまり屋
	おちよくる	軽い気持ちでからかう		じゅう	麴蓋
	おぶ	お茶の幼児用語		じゅうびしゃん	ふなやき
	おぶっばん	ほとけさんに供えるごはん		じゆるい	ぬかるんでいる
	おまんなあ	あんななあ・お前なあ		しょうけ	小筑・かご
	おめとる	人見知りする・恥ずかしがる		しょうどがない	だらしがない・しまりがいい・しょうもない
	おんごろ	もぐら		しょうにいらん	気が入ってない・正念
か	かえこと	交換する		しよてから	最初から
	帰りしな	帰る途中		しょんぼけ	便所・小便桶
	がおうがくる	妖怪が来る		シライ	白和え
	かざがく	においをかぐ		じらたい	ふざけた
	かづく	かつぐ・だます・縁起を気にする		すあいさ	隙間
	かだかく	匂いをかぐ		すってんでん	全くない
	かたげる	傾く		すっぺり	全部残らず
	カッコゼンマイ	コゴミ		すまんね	ありがとう
	ガッサワラ	草むら		スワボル	吸う
	かなぎ(割り木)	薪		せんち	便所せっちん
	かもうり	冬瓜		せんど	疲れる
	ガヤ	カヤ(櫃)		ぞうさかける	世話をかける・お手間いりやね
	かやくめし	五目御飯・混ぜご飯		そーやね	そうですね
	ガラタテ餅	サンキライの葉で包んだ餅	た	たい	ください
	かわりべんたん	かわりばんこ		タイエ	水源
	かんかた	お酒の爛をする人		タイナ	ジャクシナのような野菜
	ガンタチ餅	サンキライの葉で包んだ餅		タイモ	小芋
	ガンド	丸のこぎり		だかまえる	抱きかかえる
	ガンバラ団子	サンキライの葉で包んだ餅		たかり	稲刈り
た	だだぼだ・だだぼ	むやみやたらに粗末にする	へ	へーをかます	ごまかす・一杯食わす・だます
	ダンギリボ・スナホジリ	カマツカ		へちがむ	曲がる
	だんない	かまわない・どうでもいい		へつる	へらす・けずる・こぶる
	たんびたんび	その都度・ちょくちょく		へドクの豆	良くない豆
	ちょうける	ふざげる・おどける		ヘリ	端っこ
	ちょか	落ち着きがない		ヘル	ヒル(ヤマビル)
	ちょぼっと	少し		べんべらべん	非常に薄いこと
	つくなる	しゃがむ		ほうかほうか	そうかそうか・相づち
	つついっばい	精一杯・きっちり一杯		ほうこ	ハハコグサ
	つむ	混んでいる		ぼす	人を背負う
	つるんぼし	干し柿		ホタ	田の畔
	てったい	手伝い	ほ	ほっこりせん	体調がすぐれない・思わしくない
	てったいこ	互いに助け合うこと		ぼん	幼い男の子
	てとって	手伝ってね		ぼんがき	さわし柿
	てれこ	ほんたい・さかさま		ぼんがら団子	サンキライの葉で包んだ餅
	でんち	袖なしの綿入れ半てん		ぼんがら餅	サンキライの葉で包んだ餅
	てんぼもない	法外な・途方もなく・無茶な		ほんでな	それでな
	どうあろや	なんともない・どうということない		ほんなもん	そのようなもの
	どぼずけ・おどぼ	ぬか漬		ぼんのくそ	後頭部
	どもならん	どうもならん・我慢できん・やりきれん	ま	まめ	すこやか・健全
	どろず・泥酔	酔味噌		まるかる	丸く固まる

方言	意味	方言	意味
と	どんと	ま	まるけ
な	ナガタン		饅頭ほっかい
	ナガナタ		まんまんさん
	なぶる		みじょうけ
	ナミノ		むさんこ
	にすい		めっそ
	ぬくたい		めんめ
	ぬくとい		もんで
	ネエ (上の家・上ネエ)		もんでござった
	ねき		もんでわいさ
	ねっから	や	やんね、そうやんね
	ネブカ		ゆいまくる
	ネンブリ・ノノヘリ		ゆす
	ノコテ		ゆぶく・ゆがく
は	ばいた		ゆんべ
	はしかい		ようさん
	はだはだ		よさり
	はちかんざき		よぞくろー
	歯にはざかまる		よぞくろしい
	ひどい人		よばれ
	ひりょうず		よびし・よび衆・正月よび・おせちよび・お茶よび・女よび
	ピリンソウ		よみや
	ぶえんしゃ	ら	ろっく
	ふてる	わ	わいさ
	ふのりやき		わやくちゃ
	ブンドマメ		
			まみれ・だらけ
			饅頭
			仏壇・
			箕またはそのような入れ物
			無茶・無鉄砲
			目分量・だいたい
			めいめい
			帰って・戻って
			帰って来られた
			帰ってきた
			…ですね
			しゃべりまくる・ふれまわる
			来る
			茹でる
			昨晚
			沢山
			夕べ
			気持ち悪ー
			気持ち悪い
			ごちそうに招待される
			寄合
			宵宮
			平らに・平均に
			来た
			乱暴・めちゃめちゃ・大変な状態

表 11-18 過去の多賀付近を物語る地形や地質の証拠

地形や地質の特徴	項目	説明	場所	掲載頁	出典
海底火山の証拠	萱原付近の枕状溶岩	鈴鹿山脈北部の山々をつくる。北鈴鹿ユニット（霊仙山層）という地層の中に古生代ペルム紀に赤道近くの海底に溶岩が流れて、数 10 cm から 1 m くらいの大きさの暗赤褐色の球状のまくらのように積み重なった「枕状溶岩」が観察できる崖があった（今はおおわれてしまった）。	萱原	p.111	琵琶湖博物館研究調査報告 26 号
	御池谷の枕状溶岩	古生代ペルム紀に赤道近くの海底に溶岩流れて、数 10 cm から 1 m くらいの大きさの暗赤褐色の球状のまくらのように積み重なった「枕状溶岩」が観察できる崖がある。かつて海面下での火山活動があったことがわかる。	大君ヶ畑	p.112	琵琶湖博物館研究調査報告 26 号
			地点 E 鞍掛峠の枕状溶岩	p.71	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
深海底でできた鉱床	東近江市蛭谷町のマンガ ン鉱床	多賀町犬上ダム上流の鈴鹿山脈の山中であるが東近江市蛭谷にいくつかマンガンを産する鉱山があった。(朝日谷鉱山、大平鉱山、君ヶ畑鉱山)。層状マンガン鉱床として知られる。	東近江市蛭谷町	p.207	琵琶湖博物館研究調査報告 26 号
	萱原鉱山の鉱床	多賀町萱原の東、層状マンガン鉱床がある。そのズリから鉱石が見つかる。	萱原	p.210	琵琶湖博物館研究調査報告 26 号
	大堀山のマンガン鉱山跡	彦根市になるがここにも層状マンガン鉱床があり、大堀鉱山として昭和 49 年には月産 3375t 採掘していた。かつて鈴鹿山脈周辺でいくつもマンガン鉱山があったが今ではやっていない。大堀鉱山では昭和 50 年代まで稼働を続けた。坑道の入り口が 2ヶ所比較的良好な状態で昔のまま残っている。	彦根市大堀町	p.201	琵琶湖博物館研究調査報告 26 号
				p.201	滋賀県地学のガイド (旧版の 1)
サンゴ礁と海山	多賀町エチガ谷の古代ペ ルム紀前期の地層	多賀町エチガ谷には古代ペルム紀の化石（腕足類・二枚貝・巻貝など）が含まれる石灰岩があり、権現谷にも共通するかつて古生代に赤道近くで海山がありその海面近くでできたサンゴ礁だったことがわかる。それら海山がプレートの上ののって今の日本列島の場所までやってきた。	河内エチガ谷	p.170	琵琶湖博物館研究調査報告 26 号
	地点 A 河内風穴とエチ ガ谷のフズリナ類		河内	p.67	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
	多賀町権現谷・古代ペ ルム紀前期のサンゴ礁	エチガ谷と同じく赤道直下の海山の列（伊吹海山列）の 1 つで、霊仙山の石灰岩をのせた海山があった。古生代の示準化石である三葉虫が見つかり、フズリナ、腕足類、サンゴ、オウムガイなどの化石も報告されている。多賀町立博物館には見つかったそのような貴重な化石が展示してある。	河内権現谷	p.173	琵琶湖博物館研究調査報告 26 号

参 考 資 料

地形や地質の特徴	項目	説明	場所	頁	引用文献
	地点 B 権現谷・婁原付近の崖壁と化石		河内権現谷	p.67	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
川の浸食	地点 C 権現谷の下刻作用	谷の両側が石灰岩の絶壁。崖がおおいかぶさりそうな程である。芹川が鈴鹿山脈の山を深くけずった。川の水による浸食作用と溶食作用ということが学習できる場所。地下水がわきでいる「河内不動明王の湧水」も近くにある。	河内権現谷	p.67 - 68	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
	地点 D 甲頭倉のドロマイ	多賀町甲頭倉には緑色岩中にできたドロマイト鉱床が2ヶ所あり、ドロマイト鉱山があった。鉱石の品質は良く、鉄鋼、肥料、ガラス陶磁器の原料などに利用された。	甲頭倉	p.69	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
	地点 F 原石山の石灰岩	住友セメント多賀鉱山として石灰岩が採掘されてきたところ。昔はセメントの原料として、最近では道路舗装用の砕石や製鉄用原料として採掘されている。		p.72 - 73	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
放散虫による地史の 説明	多賀町白谷の上部ベルム系層状チャート	古生代の終わりには海の生物の種が96%も絶滅した。5度の大量絶滅のひとつのベルム紀末(地層でP-T境界という)の地層がこのあたりに見られる。1980年代から微化石である放散虫やコノドントをつかった地層の研究がされてきたところで、日本列島の基盤の置き方を考えるうえで大切な層状チャートの露頭が白谷にある。	白谷	p.172	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	地点 D 権現谷林道から赤石谷林道にかけての赤色チャート	赤いチャートの中に0.2mmほどの丸い微化石 放散虫がたくさん。微化石のコノドント化石も見つかる。		p.70	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
	多賀町百々女鬼の中部トリアス系層状チャート	放散虫の研究から時代が中生代中部トリアス紀〜上部ジュラ紀。そのころの海底での海洋プレート層序がわかるということで研究されたチャートである(栗本・桑原 1991)	大君ヶ畑 / 百々女鬼	p.168	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
メランジュ	栗栖のメランジュ	このあたりの川床の地層はブロックとして分断されレンズのように引き伸ばされている構造がありメランジュとよばれている。地層からは微化石が発見され、これまでフズリナやサンゴの化石から古生代と思われていた滋賀県の多くの地層が中生代に日本列島に付け加わった地層であるということがわかってきた。日本列島にもみこまれて付け加わったそのようなことを物語る小規模だが大事な露頭である。	栗栖	p.113	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	下水谷付近の仏生寺衝上(E)	下水谷から屏風・後谷の集落への細い道を登ると、断層をはさんで300mより高所は石灰岩があらわれる。この断層地形は仏生寺衝上断層で上の石灰岩は北鈴鹿ユニット(霊仙山層)のベルム紀の石灰岩、下は彦根ユニット(彦根層群)の泥岩、チャートである。		p.200	滋賀県地学のガイド(旧版の1)
石灰岩と鍾乳洞	御池岳山頂付近のカルスト地形	鈴鹿山脈北部の山々をつくる御池岳(1241m)は平坦な台地上の山容で、石灰岩から構成されるカルスト地形の高原で北は鈴ヶ岳から南の藤原岳まで続く。カルスト地形は多賀町のあちらこちらの山にも見られる。地質は北鈴鹿ユニット(霊仙山層)にあたる。	東近江市蛭谷町永源寺ヶ畑、多賀町	p.31	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	河内風穴	霊仙寺から鍋尻山に続く石灰岩帯の西端に形成された石灰岩の洞窟。総延長がイザナギプロジェクトの調査により10020m、日本で第三位の長さを誇るようになった。洞窟内における二次生成物の発達も美しい。観光洞は入り口から1階と2階の200mだが、その奥は景観保護のため立ち入り規制が行われている。	河内宮前	p.35	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	地点 H 佐目の風穴 地点 I 佐目周辺の岩石と地形	規模は小さいがよく知られた石灰岩洞。		p.73-74	滋賀県地学のガイド(旧版の1)
中生代の火山とコールドロン	地点 E J 霜ヶ原付近の湖東流紋岩	採石場中生代に滋賀県にあった火山の岩石湖東流紋岩の萱原溶結凝灰岩(佐目・君ヶ畑溶結凝灰岩)と犬上花崗斑岩がみられる。車道沿いで観察できるのは貴重。		p.75	滋賀県地学のガイド(旧版の1)
	犬上花崗斑岩中の花崗斑岩と石英斑岩	犬上花崗斑岩は湖東流紋岩にともなう貫入岩で、ここでは花崗斑岩と石英斑岩が隣接して続いて見られるのが特徴である。	萱原	p.114	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	地点 B 大杉バス停付近の花崗斑岩			p.57	滋賀県地学のガイド(旧版の1)
	深谷林道の湖東流紋岩類	湖東流紋岩の主岩体を構成する岩石がいちばんまとまって分布している多賀町の谷。湖東流紋岩が滋賀県で発見され、最初にくわしく調査され模式地ともなっている。萱原溶結凝灰岩、深谷層なだれ堆積物、八尾山火砕岩、犬上花崗斑岩が観察できる。特に八尾山火砕岩層は模式的に観察できる。	深谷林道	p.115 p.58-62	琵琶湖博物館研究調査報告 26号 改訂 滋賀県地学のガイド(下)
	萱原溶結凝灰岩層とその本質レンズ	大滝神社の境内に隣接する犬上川河床に、湖東流紋岩の萱原溶結凝灰岩層がみられる。本質レンズが扁平になった溶結構造といわれる特徴的な構造がみられ、この時代の火山活動の特徴がわかる。	富之尾大滝神社付近の犬上川川床	p.116	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	地点 A 大滝神社付近の溶結凝灰岩			p.56	改訂 滋賀県地学のガイド(下)
鈴鹿山脈高所の礫層	箕川礫層(※霜ヶ原礫層 宮坂礫層 大萩礫層)	鈴鹿山脈の高所には水が運んだ礫の層が点在して分布する。礫には湖東流紋岩の礫も含まれ、湖東流紋岩でできた山から削られたことを語る。鈴鹿山脈が高くなる前の時代にどんな地形だったかを考える手がかりになる。	東近江市永源寺町箕川町	p.107	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	地点 K 桜峠・梨の木峠間の桜峠礫層	多賀町の桜峠をこえると大きな円礫を含み湖東流紋岩などを含み礫の風化が激しい礫層があり、桜峠礫層と呼ばれている。この礫層の時代は蒲生の湖の形成初期なのかそれ以前の礫層なのかははっきりしていない。		p.75	改訂 滋賀県地学のガイド(下)

地形や地質の特徴	項目	説明	場所	頁	引用文献
古琵琶湖層群とアケボノゾウの時代	多賀の古琵琶湖層 / 多賀町アケボノゾウの発掘	1993年3月多賀町で貴重な発掘があった。大発見を予期した多賀町教育委員会は工事関係者に協力を求めて本格的発掘を実施し、下顎の骨も含めほぼ一頭分のアケボノゾウの骨化石を発掘した。この発見が契機になりアケボノゾウを中心としたあけぼのパーク多賀が開館した。		p.76-77 p.137	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
	四手丘陵の化石	多賀町四手丘陵の古琵琶湖層群は今は工業団地の造成の完成でほとんどみられなくなったが、造成中の調査で多くの化石が見つかり、今は多賀町立博物館に保管されている。	四手	p.169	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	青龍山麓の古琵琶湖層 (Q)	青龍山 (333.7) の麓には古琵琶湖層の露頭がみられる。東麓のダイニック滋賀工場の敷地にも露頭があり礫層がみられる。下部に褐鉄鋼の鉄盤が認められたり、藍鉄鋼、亜炭層、火山灰が確認されている。			滋賀県地学のガイド (旧版の1)
	アケボノゾウ発掘地		四手	p.174	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	富之尾火山灰層を採掘した穴	火山灰は磨き砂などに使われていたが、多賀町富之尾の集落から北東の梨の木に向かう小森池川沿いの山麓に富之尾火山灰層 (= 広域火山灰層の恵比寿峠・福田テフラ) を採掘した跡の横穴があった。1981年には小森池川陥没による凹地地形がその上部の山腹にできた。	富之尾	p.117	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
鈴鹿山脈の上昇	犬上川扇状地	犬上川は延長 25 km、流域面積 110 km ² あり琵琶湖に流入する河川では中規模だが、標高 140 m 付近の谷口とする半径 7 km の扇状地を展開している。扇状地は標高 87 m 付近まで及び、そこから湖岸までのわずか 2 km が氾濫原・デルタとなっている。琵琶湖東岸では最も勾配があり典型的な扇状地である。芹川は上流山地が石灰岩が多く、石灰岩の分解・溶食の影響で礫の供給が少ないので、扇状地が発達しないのに比べ、犬上川では湖東流紋岩が上流域にあるため礫の供給が多い事が関与しているようだ。	多賀町、彦根市、甲良町	p.33	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
河岸段丘とナウマンゾウと旧人	久徳のナウマンゾウ化石一切葉と多数の白歯	芹川では国道 306 号線芹川を渡る橋 (久徳) の上流の堰堤から下流の名神高速道路の橋付近 (中川原) までの川原約 2 km にわたってナウマンゾウの化石が多数発見されている。川原の転石から 1916 年頃から地元の人が発見し、見つかった。最も多い部位は白歯で現在までで 14 個ある。1998 年は現河床に露出した段丘の礫層から切歯が発見され、なぜこの川原からたくさんナウマンゾウが見つかるかという謎の一端が解明された。また最近、ナウマンゾウの化石と共に埋もれていた木片の年代測定から約 29000 年のものであることがわかった。		p.78-79	改訂 滋賀県地学のガイド (下)
	ナウマンゾウの牙・白歯化石		中川原	p.171	琵琶湖博物館研究調査報告 26号
	佐目の風穴の縄文遺跡	サメの鍾乳洞は佐目の芹川沿いにある。昭和 4 年 (1929) 京大文学部の小牧実繁博士らによって調べられ、わずかな土器の破片とそこらのものと思われる動物群骨の出土がみられた。出土した土器の破片は完全な形をしているものではなく大部分は茶褐色で文様のない土器であるがよく見ると縄文時代末期のもの、「加曽利 B 式前期」の末期縄文式土器の破片と考えられました。また動物群 (骨) は直良信夫 (早稲田大学) の鑑定でモグラ・ハタネズミなど 10 種で、貝類もあり、クチベニマイマイなど 11 種が検出された。		p.4 p.8	多賀町史 上巻
石灰岩の利用	芹川の「本山石灰」	石灰は古代から白壁として使われていた。伊吹山と芹川筋産出する石灰は「本山石灰」と名付けられ、京の都で重宝されていた。芹川沿いの中川原、月の木、久徳、八重練、一円、土田地区で産出する石灰も伊吹山に劣らず上品とされた。		p.131	多賀町史 下巻
	石灰岩を焼く窯「堀石」「ひろい石」芹川			p.140	多賀町史 下巻
	原石山 (昭和 35 年創業)				多賀町史 上巻
	イワス				
火山灰の利用	富之尾火山灰層を採掘した穴を採掘した穴				
亜炭の採掘	犬上炭鉱	富之尾の東北部の山林と付近の田んぼ一帯 (町道を東に進み西琳寺を過ぎた辺り) にあった。(大正のはじめころ富之尾で発見され、大正 7 年、採炭活動が始まった。本質亜炭で需要が少なく、大正 9 年に閉山となったが、休山状態の後、日中戦争の拡大による燃料需要の高まりで全国的に亜炭が採掘された時期に昭和 16 年 3 月「犬上炭鉱」と命名され採炭が再開された。北側の小山に向かって 3 つの坑道があり、掘り出された亜炭は彦根の鍾淵紡績に主に運び出される石灰の補助燃料として使われていたようである。戦後は重油ボイラーが普及するにつれ木質あたんの需要は減り、昭和 36 年 8 月に閉山となった。	富之尾	p.231	近江鐘塵の鉱山の歴史
亜炭の採掘	若林炭鉱	多賀町には犬上炭鉱のほかに、四手の若林炭鉱があり、ここでの彦根の若林生糸 (のちの東邦レーヨン) の燃料用亜炭を掘り出していた。	四手	p.238	近江鐘塵の鉱山の歴史
亜炭の採掘	富之尾炭鉱	多賀町には犬上炭鉱から北へ丘陵を一つ越えたところに富之尾炭鉱がありました。地中には十文字のように坑道が走っていたが閉山前には残った亜炭を掘り尽くそうとしてその柱部分も掘って危険なことがあったようだ。	富之尾	p.238	近江鐘塵の鉱山の歴史
	ダイニックアストロパーク天究館 (昭和 62 年)			p.43	多賀町史
	霜ヶ原気象援助局のロボット雨量計と日本海側気候の南端の多賀町の気候降水と積雪と日較差			p.74	多賀町史

参 考 資 料

表 11-17 多賀町文献リスト

タイトル	編集・著者	出版・発行	出版年月
多賀町民憲章		多賀町 / 多賀町教育委員会	
多賀町環境基本計画	多賀町	多賀町	
多賀町中心市街地タウンマネージメント構想	多賀町商工会	多賀町商工会	
たが こんにちには議会です !! 第 001 号～	議会広報常任委員会	多賀町議会	
市橋下総守長政 他	多賀町史編集委員会	多賀町史編集委員会	
市橋下総守長政 他	多賀町史編集委員会	多賀町史編集委員会	
観光多賀	多賀町・多賀町観光協会 / 企画	多賀町 / 多賀町観光協会	
自然との調和	多賀町企画課	多賀町	
鈴ヶ嶽御池之記	多賀町中央公民館 / 編集		
多賀		多賀町観光協会	
魂を揺り動かす教育	高橋 史郎 / 講演	多賀大社文化振興協会	
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	
古老の語る敏満寺の歴史	敏満寺史跡保存会 / 編集	敏満寺史跡保存会	
多賀大社叢書 文書篇	多賀大社叢書編集委員会 / 編修	多賀大社社務所	
多賀の自然と文化の館 (多賀町立博物館)		多賀町教育委員会	
ナウマンゾウの里 多賀町	多賀町歴史民俗資料館	多賀町教育委員会	
水沼荘遺跡	種村儀平	多賀町 / 多賀町教育委員会	
胡宮神社建造物等の調べ			
お虎ヶ池の伝説			
胡宮神社と赤染衛門	近藤徳三	多賀公民館	
多賀神社史	多賀神社社務所 / 編	多賀大社	1933
多賀神社造営誌	多賀大社 / 編集	多賀大社社務所	1938
多賀神社文書	中村 直勝 / 編	多賀大社社務所	1940
学校要覧 昭和三十二年度	多賀町立多賀小学校	多賀町立多賀小学校	1954
胡宮神社史	胡宮神社	胡宮神社社務所	1954
胡宮神社史	胡宮神社	多賀町胡宮神社社務所	1954
敏満寺遺跡発掘調査報告書『滋賀県史蹟調査報告』第 12 冊		滋賀県教育委員会	1961
一次発掘調査のまとめ	多賀町立博物館	多賀町立博物館	1968
久徳史	近藤徳三	多賀町久徳区	1968
会誌 1971	多賀小学校同窓会 / 編集	多賀小学校同窓会	1971
お多賀さん		多賀大社社務所	1971
広報たが 1972 年 4 月 (401 号) ~ 1986 年 3 月 (463 号)	多賀町企画課	多賀町役場	1972
多賀大社	多賀大社 / 特輯	多賀大社社務所	1972
大君ヶ畑に伝わる古式行事について		多賀町教育委員会	1972
脇ヶ畑史話	多賀町史編さん委員会編	多賀町中央公民館	1973
多賀小学校百年のあゆみ	多賀小学校創立百周年記念事業推進委員会 / 編	多賀小学校創立百周年	1974
滋賀県指定有形文化財多賀大社奥書院庭園修理工事報告書		滋賀県教育委員会	1976
水沼荘遺跡 (ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 4-1)		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	1977
芹霊	多賀小学校芹谷分校・霊仙分校創立百周年記念事業推進委員会 / 編集	多賀小学校芹谷分校・霊仙分校創立百周年記念事業推進委員会	1977
多賀大社叢書 典籍篇	多賀大社叢書編集委員会 / 編修	多賀大社社務所	1977
多賀町の文化財 その 5	多賀町史編さん委員会編	多賀町	1977
水沼荘遺跡 (ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 5)		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	1978
多賀大社叢書 記録篇 1	多賀大社叢書編集委員会 / 編修	多賀大社社務所	1978
多賀大社叢書 記録篇 2	多賀大社叢書編集委員会 / 編修	多賀大社社務所	1978
大谷遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1978
多賀大社叢書 記録篇 3	多賀大社叢書編集委員会 / 編修	多賀大社社務所	1979
多賀大社叢書 記録篇 4	多賀大社叢書編集委員会 / 編修	多賀大社社務所	1979
TAGA-CYO		多賀町企画課	1980
多賀大社叢書 記録篇 5	多賀大社叢書編集委員会 / 編修	多賀大社社務所	1980
多賀町の自然を探る 第 2 集		多賀町教育委員会	1980
多賀の民話集	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1980
多賀町歴史民俗資料館 概要 第 1 集	多賀町歴史民俗資料館 / 編	多賀町歴史民俗資料館	1982

タイトル	編集・著者	出版・発行	出版年月
薫習	多賀町老人クラブ連合会／編集	多賀町老人クラブ連合会	1982
自分を生きる	落合 恵子／講演	多賀町教育委員会	1982
多賀町の自然		多賀町教育委員会	1982
多賀町歴史民俗資料館概要 第1集		多賀町歴史民俗資料館	1982
久徳史 久徳こぼれ話 復刻版	近藤徳三	多賀町久徳区	1982
多賀町社会教育方針 昭和58年度		多賀町教育委員会	1983
多賀大社叢書 諸家篇1	多賀大社叢書編集委員会／編修	多賀大社社務所	1983
会報	多賀小学校同窓会／編集	多賀小学校同窓会	1984
多賀大社叢書 諸家篇2	多賀大社叢書編集委員会／編修	多賀大社社務所	1984
多賀町社会教育方針 昭和60年度		多賀町教育委員会	1985
会誌 1985	多賀小学校同窓会／編集	多賀小学校同窓会	1985
宇津木久岑小伝		多賀大社社務所	1985
多賀大社叢書 諸家篇3	多賀大社叢書編集委員会／編修	多賀大社社務所	1985
脇ヶ畑史話・追補 (1985.10.30)	多賀町史編さん委員会編	多賀町中央公民館	1985
多賀町町勢要覧 多賀 1986 統計資料編	多賀町／編	多賀町役場	1986
多賀町町勢要覧 多賀 1986	多賀町／編	多賀町	1986
広報たが 1986年4月(464号)～1991年3月(523号)	多賀町企画課	多賀町役場	1986
いま私たちはなにをしたらいいのだろうか?	多賀町人権対策室／編集	多賀町	1986
多賀信仰	「多賀信仰」編集委員会／編集	多賀大社社務所	1986
多賀町の社会教育 昭和61年度	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1987
まちづくり・活性化への指針	多賀商会／〔編〕	多賀町商会	1987
百年誌 多賀町立大滝小学校	多賀町立大滝小学校創立百周年記念実行委員会	多賀町立大滝小学校創立百周年記念実行委員会	1987
多賀大社叢書 記録篇6	多賀大社叢書編集委員会／編修	多賀大社社務所	1987
多賀町歴史民俗資料館概要 第2集		多賀町歴史民俗資料館	1987
敏満寺遺跡発掘調査報告書		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県教育委員会	1988
多賀町歴史民俗資料館 概要 第2集	多賀町歴史民俗資料館／編	多賀町歴史民俗資料館	1988
学童集団疎開の記	多賀町教育委員会／編集	多賀町教育委員会	1989
共同研究集録 昭和63年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1989
多賀大社叢書 記録篇7	多賀大社叢書編集委員会／編修	多賀大社社務所	1989
ナミとタカシのお多賀さんまいる 1	藤木 てるみ／作・絵	多賀大社	1989
多賀町の石灰洞	水島 明夫／編集	多賀町	1989
共同研究集録 平成元年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1990
ナミとタカシのお多賀さんまいる 2	藤木 てるみ／作・絵	多賀大社	1990
柏葉	桜井 勝之進／著	多賀大社社務所	1990
川相公民館 20年のあゆみ	多賀町川相公民館20周年編集委員会	多賀町川相公民館	1990
多賀町国土利用計画参考資料		多賀町	1991
多賀町社会教育事業のまとめ 平成2年度		多賀町 / 多賀町教育委員会	1991
多賀町町勢要覧 多賀 1991	多賀町／編	多賀町企画課	1991
第3次多賀町総合計画	多賀町役場企画課／編集	多賀町	1991
広報たが 1991年4月(524号)～1996年3月(583号)	多賀町企画課	多賀町役場	1991
研究の足跡 平成2年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1991
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	1991
多賀大社の能面・狂言面	中村 保雄／著	多賀大社社務所	1991
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 富之尾遺跡・殿山遺跡・檜崎古墳群内遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1991
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集 大岡遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1991
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第3集 四手遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1991
多賀町文化財・自然誌報告書 第4集 平成5年度多賀町新指定有形文化財の調査報告 びわ湖東部中核工業団地造成事業に伴う地学調査報告		多賀町教育委員会	1991
青龍山-生活環境保安林-	多賀町	多賀町	1991
郷土沿革史 その1	多賀町編	多賀町	1991
郷土沿革史 その2	多賀町史編さん委員会編	多賀町	1991
多賀町史 上巻	多賀町史編さん委員会編	多賀町	1991
多賀町史 下巻	多賀町史編さん委員会編	多賀町	1991

参 考 資 料

タイトル	編集・著者	出版・発行	出版年月
伝承の共有	桜井勝之進・多賀町史編さん委員会編	多賀町	1991
老いの小文集 第1集 平成三年度		多賀町老荘大学	1992
会誌 1992	多賀小学校同窓会／編集	多賀小学校同窓会	1992
研究の足跡 平成3年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1992
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	1992
青龍山 敏満寺と東大寺	多賀町歴史民俗博物館編	多賀町歴史民俗博物館	1992
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第4集 四手遺跡・土田遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1992
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第5集 久徳遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1992
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第6集 四手遺跡(第3次)	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1992
町史零れ草	多賀町史編さん委員会編	多賀町	1992
多賀町大君ヶ畑のかんこ踊り	大君ヶ畑かんこ踊り保存会編	大君ヶ畑かんこ踊り保存会	1992
新しい教育の創造に向けて	多賀町 PTA 連絡協議会	多賀町 PTA 連絡協議会	1993
老いの小文集 第2集 平成四年度		多賀町老荘大学	1993
研究紀要 平成4年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1993
研究集録 1992年度	多賀町立大滝小学校／〔編〕	多賀町立大滝小学校	1993
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	1993
花まんだら	松宮 陸良／撮影	多賀大社社務所	1993
アケボノゾウ発掘記	多賀町教育委員会／編集	多賀町教育委員会	1993
多賀町の歴史と自然		多賀町歴史民俗資料館	1993
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第7集 木曾遺跡・檜崎古墳群内遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1993
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第8集 久徳遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1993
胡宮神社社務所庭園保存修理事業報告書		多賀町教育委員会	1993
多賀町文化財・自然誌報告書 第1集		多賀町教育委員会	1993
多賀町文化財・自然誌報告書 第2集		多賀町教育委員会	1993
多賀町文化財・自然誌報告書 第3集		多賀町教育委員会	1993
老いの小文集 第3集 平成五年度		多賀町老荘大学	1994
研究紀要 平成5年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1994
研究集録 1993年度	多賀町立大滝小学校／〔編〕	多賀町立大滝小学校	1994
百二十年史		多賀町立多賀小学校	1994
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	1994
多賀大社叢書 記録篇8	多賀大社叢書編集委員会／編修	多賀大社社務所	1994
古琵琶湖層群調査の中間報告会	多賀町教育委員会／編集	多賀町教育委員会	1994
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第9集 久徳遺跡(第3次)・敏満寺遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1994
多賀町文化財調査報告書第1集 多賀の文化財 考古・美術工芸品	多賀町教育委員会編	多賀町教育委員会	1994
久徳遺跡発掘調査報告書		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	1995
多賀の下水道		多賀町	1995
多賀町国土利用計画		多賀町	1995
老いの小文集 第4集 平成六年度		多賀町老荘大学	1995
研究紀要 平成6年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1995
研究集録 1994年度	多賀町立大滝小学校／〔編〕	多賀町立大滝小学校	1995
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	1995
カミ・くに・人 続	桜井 勝之進／著	多賀大社	1995
神社は何のためにあるのか	桜井 勝之進／講演	多賀大社文化振興基金	1995
滋賀県犬上郡多賀町内遺跡分布調査報告書 平成6年度版		多賀町教育委員会	1995
多賀町史 別冊	多賀町史編さん委員会編	多賀町	1995
古老の語る敏満寺の歴史	敏満寺史跡文化保存会	敏満寺史跡文化保存会	1995
木曾遺跡(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書X X III -2)		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	1996
教育行政方針 平成8年度		多賀町教育委員会	1996
多賀町都市計画マスタープラン		多賀町	1996
多賀町文化施設基本計画		多賀町文化施設基本	1996
広報たが 1996年4月(584号)～2001年3月(643号)	多賀町企画課	多賀町役場	1996

タイトル	編集・著者	出版・発行	出版年月
老いの小文集 第5集 平成七年度		多賀町老荘大学	1996
研究紀要 平成7年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1996
研究集録 1995年度	多賀町立大滝小学校／〔編〕	多賀町立大滝小学校	1996
大君ヶ畑分校		多賀町教育委員会	1996
戦後五十年鎮魂と平和祈念の文集	多賀町社会福祉協議会／編	多賀町社会福祉協議会	1996
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	1996
陽転		多賀大社文化振興基金	1996
大君ヶ畑の花ごよみ 昭和46年～平成7年度		多賀町教育委員会	1996
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第10集 土田遺跡(第3次発掘調査)・檜崎古墳群内遺跡(第4次発掘調査)	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1996
木曾遺跡Ⅱ(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIV-3)		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	1997
伊集院	多賀町青少年育成町民会議	多賀町青少年育成町民会議	1997
老いの小文集 第6集 平成八年度		多賀町老荘大学	1997
研究紀要 平成6年度	多賀町立多賀小学校／〔編〕	多賀町立多賀小学校	1997
研究紀要 平成8年度	多賀町立佐目小学校	多賀町立多賀小学校	1997
研究紀要 平成8・9年度	多賀町立大滝小学校／〔編〕	多賀町立大滝小学校	1997
研究収録 No.33(平成8年度)	多賀町立大滝小学校／〔編〕	多賀町立大滝小学校	1997
研究収録 No.33(平成8年度)別冊	多賀町立大滝小学校／〔編〕	多賀町立大滝小学校	1997
老いの小文集 第7集 平成九年度		多賀町老荘大学	1998
近江の万葉	西宮 一民／講演	多賀大社文化振興基金	1998
追憶	多賀町立多賀中学校記念誌企画部編集部	多賀町立多賀中学校	1998
やまなみ		多賀町公民館分館連絡協議会	1998
陽転		多賀大社文化振興基金	1998
多賀町文化財・自然誌報告書 第5集 多賀の昆虫・鱗翅目－蝶亜目(チョウ)－		多賀町教育委員会	1998
木曾遺跡Ⅲ(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書26-1)		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	1999
今、日本人はどう生きればいいのか	涛川 栄太／講演	多賀大社文化振興基金	1999
老いの小文集 第8集 平成十年度		多賀町老荘大学	1999
やまなみ 第9集		多賀町公民館分館連絡協議会	1999
多賀大社親月祭 献詠集		多賀大社文化振興基金	1999
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集 木曾遺跡(第2次～第7次調査)	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	1999
木曾遺跡(赤田川単独河川改良工事に伴う発掘調査報告書)		滋賀県文化財保護協会・財団法人滋賀県文化財保護協会	2000
多賀町中心市街地活性化基本計画		多賀町	2000
老いの小文集 第9集 平成十一年度		多賀町老荘大学	2000
会誌 2000	多賀小学校同窓会／編集	多賀小学校同窓会	2000
研究収録 平成11年度	滋賀県犬上郡多賀町立大滝小学校	多賀町立大滝小学校	2000
やまなみ 第10集		多賀町公民館分館連絡協議会	2000
第4次多賀町総合計画	多賀町企画課／編集	多賀町	2001
広報たが 2001年4月(644号)～2007年3月(715号)	多賀町企画課	多賀町役場	2001
伊集院町との架橋 故窪田廣治氏を追憶する	多賀町教育委員会／編集	多賀町教育委員会	2001
老いの小文集 第10集 平成十二年度		多賀町老荘大学	2001
世界の名作 3	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2001
設立五周年記念誌	5周年記念誌編集委員会／企画・編集	多賀町シルバー人材センター	2001
土田遺跡(ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書29-6)		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	2002
木曾遺跡・土田遺跡・月ノ木遺跡		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	2002
敏満寺西遺跡		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	2002
中心市街地活性化 事業計画・調査・システム開発事業報告書		多賀町産業連絡会議	2002
老いの小文集 第11集 平成十三年度		多賀町老荘大学	2002
犬上川下流部における魚類相の変遷と河川改修計画への配慮－犬上川プロジェクトの活動から－	金尾滋史・北村雅彦	応用生態工学研究会	2002
老いの小文集 第12集 平成十四年度		多賀町老荘大学	2003
やまなみ 第16集		多賀町公民館分館連絡協議会	2003

参 考 資 料

タイトル	編集・著者	出版・発行	出版年月
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第12集 大岡古墳群(本文編・写真編)	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2003
杉原千畝と命のピザ	青福滋撮影	多賀町教育委員会	2003
敏満寺の謎を解く	多賀町教育委員会編	多賀町教育委員会	2003
多賀町文化財・自然誌報告書 第6集		多賀町教育委員会	2003
敏満寺遺跡(名神高速道路改良事業に伴う発掘調査事業)		滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県教育委員会	2004
多賀町町勢要覧 多賀 2000	多賀町/編	多賀町	2004
老いの小文集 第13集 平成十五年度		多賀町老荘大学	2004
設立10周年記念誌	設立10周年記念誌編集委員会/企画・編集	多賀町シルバー人材センター	2004
国際社会から見た日本の愛国心	篠沢 秀夫/講演	多賀大社文化振興基金	2004
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第13集 敏満寺西遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2004
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第14集 土田遺跡第4次調査・第5次調査	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2004
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集 土田遺跡第6次調査～第8次調査	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2004
多賀町青少年海外派遣研修事業報告書		多賀町教育委員会	2005
次世代育成支援行動計画	多賀町福祉保健課	多賀町	2005
日本の民話 2	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2005
老荘大学小文集 平成6年度版		多賀町老荘大学	2005
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第16集 土田遺跡第10次調査	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2005
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集 敏満寺遺跡石仏谷墓跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2005
敏満寺の中世墓地～国史跡敏満寺石仏谷墓跡	多賀町立文化財センター編	多賀町立文化財センター	2005
H14～15年度 琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査報告書		滋賀県水産試験場	2005
多賀町社会教育調査報告 2004	多賀町教育委員会社会教育課/編者	多賀/多賀町教育委員会	2006
いくせい 第3号(2006年)～		多賀町青少年育成町民会議	2006
大瀧神社とその周辺 デイジー図書	多賀町教育委員会社会教育課/編者	多賀町教育委員会	2006
職場体験学習	多賀町立多賀中学校2年	多賀町立多賀中学校	2006
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第18集 月ノ木遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2006
広報たが 2007年4月(716号)～2011年3月(763号)	多賀町企画課	多賀町役場	2007
百二十年誌 多賀町立大滝小学校	大滝小学校同窓会	大滝小学校同窓会	2007
子どもの生活リズム向上のための調査研究 2007	多賀町教育委員会社会教育課/編	多賀町教育委員会	2007
滋賀にまつわる民話	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2007
多賀町子ども陶芸教室活動報告 平成18年度	多賀町教育委員会社会教育課/編集	多賀町教育委員会社会教育課	2007
太古の海の記憶	清水 克也/編集	多賀町立博物館/多賀の自然と文化	2007
風の記憶	寿福滋撮影	滋賀県	2007
水谷地区生活文化史調査報告書		多賀町教育委員会	2007
日本の民話 3	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2008
多賀大社 平成の大造宮記念誌	多賀大社/編者	多賀大社	2008
あけぼのパーク多賀 年報 平成20年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2008
河内の風穴	VINZ/企画制作	VINZ	2008
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集 敏満寺遺跡第2次調査	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2008
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集 大岡高塚古墳	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2008
胡宮神社とその周辺	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2008
古代、土田に役所があった?	多賀町立文化財センター	多賀町教育委員会	2008
多賀大社社殿ならびに奥書院障壁画	多賀町教育委員会編	多賀町教育委員会	2008
胡宮神社とその周辺 デイジー図書	多賀町教育委員会社会教育課/編者	多賀町教育委員会	2008
多賀町町勢要覧 多賀 2009	多賀町/編	多賀町	2009
健康たが21	多賀町福祉保健課/編集	多賀町	2009
日本の民話 4	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2009
あけぼのパーク多賀 年報 平成21年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2009
小・中連携教育実践研究事業 研究報告書 平成20・21年度	多賀町教育委員会	多賀町/多賀町教育委員会	2010
日本の民話 1	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2010
あけぼのパーク多賀 年報 平成22年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2010

タイトル	編集・著者	出版・発行	出版年月
多賀大社奥書院の障壁画と庭園	多賀大社・多賀町教育委員会	多賀大社・多賀町教育委員会	2010
多賀神社奥書院庭園保存修理工事報告書	多賀大社・多賀町教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会	多賀大社	2010
湖東五山の仏	多賀町立文化財センター	多賀町立文化財センター	2010
最盛期敏満寺を復元する	多賀町立文化財センター	多賀町立文化財センター	2010
第5次多賀町総合計画 実施計画 平成23年度～25年度	多賀町役場企画課	多賀町	2011
第5次多賀町総合計画	多賀町役場企画課	多賀町	2011
広報たが 2011年4月(765号)～	多賀町企画課	多賀町役場	2011
心ゆいゆい	ナル(公募・町内久徳出身)	多賀観光協会	2011
世界の名作 1	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2011
設立10周年記念誌	設立10周年記念誌編集委員会/企画・編集	多賀町シルバー人材センター	2011
たがゆいちゃんの未来絵日記	多賀町	多賀町	2011
多賀大社とその周辺	多賀観光協会/編集	多賀町	2011
多賀大社とその周辺 デイジー図書	多賀観光協会	多賀町立図書館	2011
あけぼのパーク多賀 年報 平成23年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2011
第5回多賀町立博物館 研究発表会講演要旨集		多賀町立博物館	2011
多賀町町勢要覧 統計資料編 2012～	多賀町/編	多賀町	2012
多賀町都市計画マスタープラン	企画課	多賀町	2012
児童俳句集 平成24年度	多賀町立大滝小学校	多賀町立大滝小学校	2012
世界の名作 2	多賀町有線放送・秦荘有線放送	多賀町有線放送・秦荘有線放送	2012
古代の芹川、犬上川扇状地開発と多賀信仰	小菅一彦	サンライズ出版	2012
多賀曼陀羅の世界	大高 康正/著	多賀大社	2012
世界の巨石	多賀町立博物館/編集	多賀町立博物館	2012
あけぼのパーク多賀 年報 平成24年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2012
多賀町の予算 平成25年度		多賀町役場総務課	2013
児童俳句集 平成25年度	多賀町立大滝小学校	多賀町立大滝小学校	2013
あけぼのパーク多賀 年報 平成25年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2013
猿木区誌	猿木区誌編集委員会編	猿木区誌編集委員会	2013
多賀町生涯学習推進基本計画	多賀町教育委員会生涯学習課	多賀町教育委員会生涯学習課	2014
多賀町企業ガイド 2014		多賀町役場産業環境課	2014
多賀町地域福祉計画	多賀町福祉保健課	多賀町	2014
多賀町子ども読書活動推進計画 第2次		多賀町	2014
平成25年度 多賀町立博物館 研究発表会講演要旨集		多賀町立博物館	2014
あけぼのパーク多賀 年報 平成26年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2014
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第21集 大谷遺跡	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2014
史跡敏満寺石仏墓跡保存管理計画	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2014
真如寺美術工芸品調査報告書	多賀町教育委員会・多賀町立文化財センター	多賀町教育委員会・多賀町立文化財センター	2014
最盛期敏満寺を復元する	多賀町立文化財センター	多賀町立文化財センター	2014
多賀町の予算 平成27年度	多賀町役場総務課/編集	多賀町役場総務課	2015
あけぼのパーク多賀 年報 平成27年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2015
名勝胡宮神社社務所庭園保存管理計画書	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2015
あけぼのパーク多賀 年報 平成28年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2016
多賀町文化財自然誌調査報告書八 多賀町民俗調査報告書一(桃原・敏満寺・萱原・久徳)	多賀町教育委員会・多賀町文化財センター・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科市川秀之研究室	多賀町教育委員会	2016
中川原歴史風土記	中川原歴史編纂委員会	多賀町中川原区	2016
多賀町文化財・自然誌調査報告書第7集 多賀町民俗調査報告書1(桃原・敏満寺・萱原・久徳)	多賀町教育委員会・多賀町立文化財センター・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科市川研究室	多賀町教育委員会	2016
名勝多賀神社奥書院庭園保存活用計画書	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2016
(仮称)多賀スマートシティ建設と文化財保護について 建設可能性調査報告書	多賀町	多賀町	2016
大滝小学校創立130周年を経て未来へ贈る 写真でみるあの日あの時	大滝小学校同窓会	大滝小学校同窓会	2017
あけぼのパーク多賀 年報 平成29年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2017
多賀町文化財自然誌調査報告書八 多賀町民俗調査報告書二(河内・多賀・大杉・大岡)	多賀町教育委員会・多賀町文化財センター・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科市川秀之研究室	多賀町教育委員会	2017

参 考 資 料

タイトル	編集・著者	出版・発行	出版年月
多賀町文化財・自然誌調査報告第8集 多賀町民俗調査報告書2 (河内・多賀・大杉・大岡)	多賀町教育委員会・多賀町立文化財センター・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科市川研究室	多賀町教育委員会	2017
多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト報告書 180 - 190 万年前の古環境を探る	多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト事務局 / 高橋啓一編	多賀町立博物館	2017
あけぼのパーク多賀 年報 平成30年度	あけぼのパーク多賀	あけぼのパーク多賀	2018
多賀町歴史文化基本構想	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2018
多賀町歴史文化基本構想	株式会社環境事業計画研究所編 / 多賀町教育委員会著	多賀町教育委員会	2018
あけぼのパーク多賀開館20周年記念特別展 水と辿る多賀		多賀町立博物館	2018
多賀の本1 多賀道と御代参街道 - 多賀信仰の広がり	多賀町史編纂を考える委員会編	多賀町教育委員会 / サンライズ出版	2018
多賀町文化財自然誌調査報告書九 多賀町民俗調査報告書三 (甲頭倉・栗栖・南後谷・川相)・多賀町民俗調査報告書四 (八重練・屏風・藤瀬・土田)	多賀町教育委員会・多賀町文化財センター・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科市川秀之研究室	多賀町教育委員会	2019
多賀町文化財・自然誌調査報告第9集 多賀町民俗調査報告書3 (甲頭倉・栗栖・南後谷・川相) 多賀町民俗調査報告書4 (八重練・屏風・藤瀬・土田)	多賀町教育委員会・多賀町立文化財センター・滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科市川研究室	多賀町教育委員会	2019
企画展 明智光秀と戦国の多賀		多賀町立博物館	2019
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書 第23集 多賀町内遺跡発掘調査報告書	多賀町教育委員会	多賀町教育委員会	2020
多賀の本2 多賀はゾウの里だぞう	多賀町立博物館 / 編	多賀町立博物館 / サンライズ出版	2020

多賀町文化財保存活用地域計画

令和3年6月

発行・著作 滋賀県多賀町教育委員会
滋賀県犬上郡多賀町四手 976-2

編集 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2